令和3年度　研修報告書　第48号

大河原教育事務所管内
社会教育70年のあゆみ

【大河原地区社会教育主事研究協議会】

発 刊 に あ た っ て

新型コロナウイルス感染症の世界的流行と，それに対する人類の戦いが２年を経過した現在，未だ安心してマスクを外すことができない状況が続いています。社会教育の現場においては，度重なる感染拡大を受けた行事の中止や内容変更などは半ば日常と化してしまった感すらあります。また，市町によっては社会教育施設をワクチン集団接種会場として長期使用したり，コロナ対策業務にあたるため職員が一時的に減員となったりするなど，社会教育事業の推進に影響が出ている例も少なくありません。一方で，施設利用者に対する検温，消毒，マスク着用や利用者同士の空間確保，利用人数の制限などを徹底することで，コロナ環境下でも行事や集会の開催が可能となってきていることは，状況に甘んじることなく可能性を模索する現場職員の工夫の産物と言えるでしょう。さらに，ネットワークを活用した双方向通信という新しい形の行事開催が試されるようになっていますが，これなどは，やがて訪れるコロナ後の社会教育においても有効な手法・ツールとしての可能性を秘めたものであり，今後も注目すべきでしょう。

さて，今年度の研修報告書は『大河原教育事務所管内社会教育７０年のあゆみ』と題し，平成２３年度から令和２年度までの管内における社会教育各分野の変遷を概括するものとしました。当研究協議会では毎年度ひとつのテーマを定め，一年をかけて調査研究し，その成果を取りまとめて発表しています。例年は社会教育に関する特定分野をテーマとし，究めることが多いのですが，今年度は，恒例となっている１０年ごとの節目の報告書となります。恒例とはいえ研修委員の大半は２０代の若手であり，１０年間の流れを把握すること自体がそれなりの苦労でもあり，それ以上に大きな収穫でもありました。また，この１０年で比較的大きな動きを見せている「青少年教育」「家庭教育」「協働教育（地域学校協働活動）」について，グループワークによる状況把握と理解の深化を図ったことも，研修委員にとって貴重な学びになったことでしょう。本書は，これを手掛けた研修委員たちの学びの成果でありますが，同時に，管内社会教育の進展を理解する資料として末永く活用いただければ幸いです。

末筆ではありますが，本書を発行するにあたり，１年にわたり御指導を賜りました大河原教育事務所の皆様，研修委員派遣をはじめ諸般の御協力を賜りました管内社会教育部局各位，コロナ禍であるにもかかわらず視察研修を受け入れて下さり，きわめて先進的な取組が行われていることをお示しくださった名取市那智が丘公民館の皆様に対して心より感謝の意を表し発刊の言葉といたします。

令和４年３月

大河原地区社会教育主事研究協議会
会長　蔵王町社会教育主事　佐藤洋一

発 刊 を 祝 し て

宮城県大河原教育事務所　所長　市岡　良庸

近年，我が国においては，「人口減少」，「人生１００年時代の到来」，「Society5.0」，「新しい生活様式」に代表されるような社会の大きな変化が予想されています。こうした中において，教育委員会に置かれる社会教育に関する専門的職員である社会教育主事の皆様方は，地域の学習課題を把握し，社会教育事業の企画・実施や，関係者への専門的技術的な助言と指導を関係各機関との効果的なネットワークを活用し，地域住民の自発的な学習活動や学習を通じた地域づくりの活動を支援する役割を果たしています。

日頃から各市町において社会教育・生涯学習の振興・充実に向けて日々精励されている大河原地区社会教育主事研究協議会の皆様方には，その御努力に敬意を表するとともに，今年度も研修委員の皆様が，粘り強く確実な研修を続けられ，研究の成果を「研修報告書第４８号」として発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。

管内の社会教育・生涯学習をみますと，令和の時代を迎え，昭和，平成の時代から脈々と引き継がれてきた各種事業も，その目的や事業形態が大きく移り変わろうとしています。

今年度は，研修委員会の皆様が，新たな時代に必要とされる社会教育・生涯学習事業の在り方に迫るために各種事業の成果や課題を把握するとともに，研修委員同士がグループワークで意見交換を重ね，震災後１０年間の各市町における事業の変遷を「大河原教育事務所管内社会教育７０年のあゆみ」と題して報告書としてまとめられました。今後も，個人の人生の充実や社会の持続的な発展のためにも，学びを通じて一人一人がその能力を維持向上し続けることができる「生涯学習社会」への取組に期待を寄せております。

社会教育主事の皆様方による視察研修では，昨年度，全国最優秀公民館に表彰された名取市那智が丘公民館を訪問し，事業の在り方や地域づくりについて研鑽されました。那智が丘公民館による地域づくりに視点をおいた様々な「しかけ」は，各市町にとっても大変参考になったものと思われます。

この報告書が，管内の社会教育・生涯学習の発展と持続可能な共生社会の構築への一助となるよう祈念しております。

結びになりますが，本書の発刊にあたり御尽力された研修委員の皆様，そして貴協議会及び会員の皆様を支えていただいている大河原管内各市町教育委員会教育長様をはじめ，関係する全ての皆様に心から感謝を申し上げますとともに，今後の社会教育・生涯学習の振興と貴協議会の益々の御発展を祈念いたしまして，発刊を祝しての言葉といたします。

目　　次

発刊にあたって　・・・・・・・・・・・・・　大河原地区社会教育主事研究協議会　会長　佐藤　洋一

発刊を祝して　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　宮城県大河原教育事務所　所長　市岡　良庸

◇　研修テーマと経過について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

◇　市町等における社会教育の変遷

白　石　市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

角　田　市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

蔵　王　町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５

七ヶ宿町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０

大河原町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５

村　田　町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３１

柴　田　町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３６

川　崎　町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４３

丸　森　町　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５０

仙南広域　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５５

◇　グループワーク　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５８

◇　視察研修　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６２

◇　まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７２

◇　おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７４

◇　付録　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７６

◇　研修委員会のあゆみ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８３

研修テーマと経過について

研修テーマと経過について

１　研修テーマ

「大河原教育事務所管内社会教育７０年のあゆみ」

２　研修の目的

研修報告書第３８号（平成２４年３月発刊）で取りまとめた「６０年のあゆみ」以降，管内の社会教育行政が分野ごとに，どのように移り変わってきたのかを市町等の単位で調査し，結果から読み取れる変化などを考察することで，今後の社会教育行政を展開するための指針にする。

また，調査結果と考察をもとに分野ごとのグループワークを行うことで，理解と考察を深めるとともに，社会教育に携わる職員としての資質向上を図る。

３　研修テーマ設定の理由

昨今，人口減少や少子高齢化が著しいスピードで進んでおり，急速に進む社会環境の変化，多様化する価値観の中で，移りゆく地域課題を正確に捉えることは困難になっている。また，平成２３年に起こった東日本大震災では，被災者は避難や自宅の再建を余儀なくされ，それらを受け入れる地域の環境も突如として変わり，コミュニティの再構築をせざるを得なかった。大きく移りゆく社会の中で，次世代の地域を担う人づくりため，社会教育に求められるものは，この１０年間でより大きく，より複雑になったと推察される。

大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会では，例年，年度ごとに管内において推進すべき事業や，調査を要すると判断した内容を研修テーマとし，時には年度をまたいで研修を行っている。しかし，昭和５３年度から５４年度にかけて「大河原教育事務所管内社会教育３０年のあゆみ」を研修テーマにして以降，１０年区切りで管内の社会教育行政の変遷について研修報告書をまとめてきた。

これまでの経緯からも，一定の期間ごとに管内市町等の社会教育行政の変遷を調査・考察することは，そこに学ぶべきことを見出すことができる。また，前段でもふれたとおり，著しく変化する社会環境の変化と伴走する社会教育の軌跡を，後世に残す意味合いからも重要であると考え，今年度についても「大河原教育事務所管内社会教育７０年のあゆみ」をテーマに設定した。

４　研修日程と経過

月　日 （曜日）	会　　議　　名	会　場	内　　容
４月30日 （金）	○社会教育主事研究協議会総会	合同庁舎	令和２年度事業・会計決算報告 令和３年度事業・予算・役員改選等
５月18日 （火）	○第１回研修委員会 ○第１回社会教育主事研究協議会	合同庁舎	研修委員会役員の選出，研修テーマの検討，研修計画，研修内容の検討等 話題提供（川崎町）
６月４日 （金）	○第２回研修委員会 ○第２回社会教育主事研究協議会 〈社会教育協会大河原支部総会・研修会〉	合同庁舎	研修の基本構想，先進地視察候補，講話，座談会等の検討等
７月６日 （火）	○第３回研修委員会 ○第３回社会教育主事研究協議会	角田市	研修内容，先進地視察先の検討等 話題提供（大河原町）
９月７日 （火）	○第４回研修委員会	合同庁舎	研究内容，研修報告書，講話，座談会等の検討
９月17日 （金）	○視察研修 （那智が丘公民館）	名取市	生涯学習推進状況調査， 施設見学等
10月５日 （火）	○第５回研修委員会 ○第４回社会教育主事研究協議会	七ヶ宿町	視察研修のふりかえり， 研修報告書の検討等 話題提供（角田市）
11月19日 （金）	○第６回研修委員会 ○第５回社会教育主事研究協議会	合同庁舎	研修報告書・グループワークの方法についての検討等
12月15日 （水）	○第７回研修委員会	合同庁舎	家庭教育・協働教育・青少年教育についてのグループワーク，研修報告書の検討等
１月19日 （水）	○第８回研修委員会 ○第６回社会教育主事研究協議会	柴田町	研修内容，研修報告書の検討等 話題提供（七ヶ宿町）
２月15日 （火）	○第９回研修委員会	合同庁舎	研修報告書の校正等
３月４日 （金）	○第10回研修委員会 ○第７回社会教育主事研究協議会	蔵王町	研修報告書の最終校正，研修のまとめと反省，次年度の研修について等 話題提供（柴田町）

市町等における社会教育の変遷

白　石　市

白　石　市

【少年教育】

主な事業	内容	実施年度
わんぱく教室 【中央公民館講座】	キャンプをはじめとした様々な体験学習を通して普段交流できない他校の同級生と集団行動を経験し，地域の特色を活用することで，まちに対する愛着を育んでいる。【R2 年度は新型コロナの影響で 1 回目と番外編のスキー教室のみ開催】	H23 以前～継続
こどもまつり 【こどもまつり実行委員会 （保健福祉部子ども家庭課）】	野外活動やレクリエーション等を通し，子どもの豊かな人間関係と相互の親睦交流を深めるべく，市内の児童を対象とした事業を開催している。 【R2 年度は新型コロナの影響で中止】	H23 以前～継続 【R2 中止】
「遊びの達人」養成講座 【子ども会育成会事業】	南蔵王野営場でのウォークラリーや講師によるサイエンスショーなどを行い，子どもたちに日常では体験できない機会を提供することで思い出と健やかな成長の糧となる体験の構築を目指している。 【R1 年度は台風 19 号・R2 年度は新型コロナの影響で中止】	H23 以前～継続 【R1・R2 中止】
白石市ジュニア・リーダー 「キャロル」	自主企画や派遣依頼を通して，白石市内のジュニア･リーダー及び子ども会の発展に尽くすと共に交流を行いそして会員相互の親睦を深めることを目的としている。	H23 以前～継続

【考察】

白石市では小学５・６年生を対象としたわんぱく教室を行っており，インリーダー研修も兼ねているが，令和３年度のジュニア・リーダーの数は１４人まで減少している。令和２年度は新型コロナが流行して，ジュニア・リーダー初級研修を行うことができなかった上，活動がほとんど停止してしまった。

平成３０年度から始めたわんぱくスキー教室では，４・５年生には次年度のわんぱく教室への参加呼びかけ，６年生にはジュニア・リーダーへの参加呼びかけにつながっている。現在のジュニア・リーダーの特徴として，ほとんどがわんぱく教室の参加者であることから小学校・中学校・高校と切れ目のない少年教育が続けられている一方で，中学生になった後にジュニア・リーダーに興味を持つ子供があまり見受けられないので，今後は中学校に進級したタイミングで興味を持てるようなアプローチが必要である。

【青年教育】

主な事業	内容	実施年度
成人式	新成人の新しい門出を祝して，各地区のまちづくり協議会から推薦された新成人と共に成人式実行委員会を立ち上げ，成人式を開催している。	H23 以前～継続
青年教育講座 【中央公民館講座】	中央公民館主催講座として，青年を中心とした幅広い市民に向けて講座を展開した。	H27～H28

【考察】

成人式の対象者は平成２３年度時点では３８８人いたが，令和２年度は２７２人(うち来場者２０５人)まで減少している。平成２７年度から平成２８年度にかけてバドミントン教室や青年講座デイキャンプなどを企画していたようだが，参加者の割合は市役所職員が多く，市民の参加があまり多くなかったことや，職員の減少に伴い，実施をしなくなっていた。今後の課題としては，青年世代は市の広報紙などを積極的に閲覧しないので，今までの募集方法を変更して，ロコミやＳＮＳを利用した募集が必要となっていく。しかし，その場合も現状では行政職員と比較的近しい対象者になってしまうので，新たな青年層が集うコミュニティを探し，ニーズを求めていく必要がある。

【家庭教育】

主な事業	内容	実施年度
家庭教育支援チーム 「ペアレントらん」	小中学校の就学時健診や一日入学体験，保育参観の際や，中学校の授業，公民館講座などに出向き，家庭教育に関する講話や演習を行っている。	H26～継続
（県主催） 学ぶ土台づくり事業実施	県に対して子育てサポーターや著名な講師等の派遣を依頼し，市内保育園や幼稚園の保育参観時に講話・演習を行っている。	H28～R1
「親子リトミック講座」 と家庭教育講座 【中央公民館講座】	中央公民館で 6 か月～3 歳までの親子を対象に行っていた親子リトミック講座に，ヨガやスワッグづくりなど親育ちの時間講座を取り入れ，家庭教育の時間をプラスし，親と子が楽しみながら学べる講座を行っている。【R2 年度は新型コロナにより中止】	「リトミック」 H23 以前～継続 「家庭教育講座」 H30～継続 【R2 中止】

【考察】

白石市では，平成２６年に白石市家庭教育支援チーム事業が開始した。それ以前は，白石市子育てサポーター「ぽっけ」という組織があり，「ぽっけ」関係者７名を含めた計１０名で開始した。最初

は子育て支援センター(保健福祉部子ども家庭課)が事務局を持っていたようだが，対象が小・中・高校ということもあり，話し合いの結果，生涯学習課で事務局を持つことになった。
その後は，平成２８年度あたりから校長会等で依頼したことが功を奏し，学校現場を中心に家庭教育への学びが広がっている。
また，平成２９年度より従来中央公民館で行っていた「親子リトミック講座」に親の学びの時間(ミニ家庭教育学級)を取り入れるようになった。初年度はリトミック講座の前の１５分ほどでだったが，次年度からは１コマ分(約１時間)を使って家庭教育についての学びの時間とした。

【高齢者教育】

主な事業	内容	実施年度
高齢者講座 【中央公民館講座】	中央公民館主催講座として，高齢者を中心とした幅広い市民に向けて講座を展開している。	H23 以前～継続

【考察】
白石市の高齢者教育の大きな事業として，市民大学が挙げられる。初めは高齢者大学から始まり，より幅広い層の参加を呼び掛けるため，市民大学に名称を変更した。大学の先生や警察署員など幅広い講師をお呼びして講座を開催。バスを借りて宮城県内の各地を赴く移動研修会も大変人気がある。また，学位制を設け，学生証を用意することで，受講生のモチベーションアップにつながっている。今後は受講生が聞いて終わるのではなく，講座づくりにも参画してもらえるように，働きかけていく必要がある。
中央公民館で行っている講座に関しては，その他の項目との明確な基準はなく，高齢者教育のみを意識した内容とはなっておらず，幅広い層からの参加を求めているが，現状では高齢者の参加が多く，今後は年代によるニーズに合わせた講座運営も考えていく必要がある。

【成人教育】

主な事業	内容	実施年度
成人教育講座 【中央公民館講座】	中央公民館主催講座として，成人を中心とした幅広い市民に向けて講座を展開している。	H23 以前～継続
面白石の会	まちづくりの一環として，白石笑顔未来塾に参加したメンバーを中心に，花の植栽を中心に市民が未来のために出来ることを考え実行している。	H29～継続

【考察】
白石市の成人教育の大きな事業として，面白石の会が挙げられる。平成２８年３月に開催された「白石笑顔未来塾」の参加者を中心に，地域住民が地域の為にできることを考え，行動に移す活動を行っている。参加者も２０代～７０代まで幅広い層が参加しており，住民に自治を考えさせるいい機会になっているが，会議の中でサークル化へはなかなか進まず，今後の自立に向けた動きが必要となってくる。
中央公民館で行っている講座に関しては，その他の項目との明確な基準はなく，成人教育のみを意識した内容とはなっておらず，幅広い層からの参加を求めているが，現状では高齢者の参加が多く，今後は年代によるニーズに合わせた講座運営も考えていく必要がある。

【女性教育】

主な事業	内容	実施年度
女性教育講座 【中央公民館講座】	中央公民館主催講座として，女性を中心とした幅広い市民に向けて講座を展開している。	H23 以前～継続

【考察】
白石市の女性教育ではガーデニング教室(～平成２９年度)やフランス家庭料理講座(～平成２８年度)といった講座を行っていたが，受講者の減少とともに廃止されており，現在では童謡講座のみとなっている。童謡講座も新型コロナの影響により，公民館での発声を伴う活動が中止となっているため休止している。ただ，白石市には『あしたば白石』(旧働く婦人の家)という施設があり，令和３年度より生涯学習課の指定管理施設となっている。『あしたば白石』では女性教育を中心に，様々な講座を開催している。

【協働教育】

主な事業	内容	実施年度
宮城県協働教育プラットフォーム事業委託	東日本大震災により環境が大きく損なわれた子どものため，家庭・地域・学校が相互に連携・協働し，家庭・地域の教育力の向上を図り，学びを通した地域コミュニティづくりに資する事業を行っている。	H23 以前～継続
放課後子ども教室	放課後や週末等に小学校の余裕教室や公的な施設を利用して，子どもたちの安心・安全な活動拠点(居場所)を設ける。合同研修会等も実施している。	H23 以前～継続
学校支援ボランティア	学校等からの支援要請に応じて，登山活動や登下校安全指導へのボランティアを派遣する。また，職場体験や，学び支援の調整も行っている。	H24～継続
白石市地域学校協働本部	地域の支援団体及び個人とのネットワークの拡充を図り，より充実した活動を推進することを目指している。	R2～継続

【考察】

白石市の放課後子ども教室の特徴として，斎川小学校は平成２９年度をもって閉校となったが，平成３０年度からは斎川地区の伝統や地域の良さを伝えるために学区に含まれた白石第二小学校において，継続して活動していることが挙げられる。また，平成２７年度までは各小学校区において放課後子ども教室を実施していたが，平成２８年度の「放課後子ども総合プラン白石市行動計画」に基づいた「第一・第二小学校区子ども教室開設準備」において，小学校放課後子ども教室総括コーディネーターが設置され，白石市全体の放課後子ども教室を取り仕切ることなった。このことにより，各子ども教室間の連携がスムーズに行われ，意見交換や内容の充実につながったといえる。また，学校支援コーディネーターの働きかけにより，白石市では令和２年に地域学校協働本部が設置された。このことにより，更に地域と学校が連携して活動を行えるよう今後動いていく。

【スポーツ振興】

主な事業	内容	実施年度
中央公民館事業	中央公民館が主催となり，大会や講座を企画・開催している。(館長杯家庭バレーボール大会・健康いきいき Enjoy 教室)	H23 以前～継続
スポーツ大会の実施	グラウンド・ゴルフ大会，シャフルボード大会，体育大会，綱引大会等の大会を実施している。	H23 以前～継続
しろいし蔵王高原マラソン	南蔵王野営場を舞台として，白石市外からも多くの参加者が集う，激坂で有名な「しろいし蔵王高原マラソン」実行委員会の事務局を行っている。	H23 以前～継続
用具・設備の貸出	ニュースポーツ用具・屋外用放送設備・自動体外式除細動器(AED)の貸出をしている。	H30～継続
学校施設の開放	白石市内小中学校の校庭及び体育館を夜間帯や休日にスポーツ少年団や地域のスポーツ団体を対象に一般開放を行っている。	H30～継続
出前講座	白石市内の小学校や公民館からの依頼を受け，職員がニュースポーツの出前講座の講師を行う。	H23 以前～継続

【考察】

白石市では，市民向けに大きなスポーツイベントを積極的に開催しているが，台風や新型コロナ等の影響により，令和元年あたりからイベントの中止が相次いでいる。「しろいし蔵王高原マラソン大会」では参加者が年々減少傾向にあったので，中止であってもよりニーズに合った開催方法になるように検討をしている。また，最近では，平成２４年度に「体育指導委員」が「スポーツ推進委員」へ，令和２年度に「白石市体育協会」が「白石市スポーツ協会」へそれぞれ移行していることが特徴として挙げられる。

【視聴覚教育】

主な事業	内容	実施年度
映画上映会の開催	図書館において，事業として開催していた。	H25～H27
公民館講座	お父さん，お母さんのためのビデオ編集講座を仙南広域と連携しながら実施した。	H27
視聴覚教育指導員関連	視聴覚教材センターで行っている視聴覚教育指導員として，市内の学校や保育園等への視聴覚教材の普及・啓発を行っている。	～継続

【考察】

視聴覚教育に関しては，市単独で行うことは難しく，仙南広域での視聴覚教材センターを積極的に活用しての事業を行えると良い。しかし，現状では図書館や中央公民館での講座運営は実施しておらず，視聴覚教材の受け渡しを学校の先生等とやりとりするだけになっている。

【芸術文化振興】

主な事業	内容	実施年度
古典芸能伝承の館『碧水園』運営	東北唯一の屋内能楽堂である『碧水園』の運営・管理を行っており，市内全小学校での日本舞踊体験や茶道体験といった事業を展開している。	H23 以前～継続
みやぎの文化育成支援事業 「青少年劇場小公演・巡回小劇場」	市内の青少年に対し，文化芸術を身近に鑑賞する機会を提供し，豊かな人間形成を図るために各小学校や中央公民館で小劇場や小公演を行っている。	H23 以前～継続
市民文化祭	文化協会の事務局を担当しており，毎年文化の日に文化協会を中心とした市民文化祭を開催している。	H23 以前～継続
公民館まつり	中央公民館にて文化活動を行っている団体を中心に公民館まつり実行委員会を組織し，公民館まつりを開催している。【R1 は新型コロナの影響で中止・R2 は新型コロナの影響により延期】	H23 以前～継続 【R1 中止・R2 延期】

【考察】

東北唯一の屋内能楽堂である『碧水園』を中心に，市内全小学校の児童向けの日本舞踊教室や茶道教室を行っている。また，市民向けにも能楽堂や茶室の貸館を行っており，幅広い文化振興を展開している。毎年，能公演も開催していたが，新型コロナウイルスの影響によって，令和２年度からは開催ができずにいる。また，令和２年度には文化庁の文化育成支援事業により，全学校の小学生向けの能公演が開催され，市内の小学生が能や狂言に触れる貴重な機会となった。

碧水園以外でも，文化協会主催の「市民文化祭」や公民館まつり実行委員会主催の「公民館まつり」の開催といったように，日頃，市民が行っている文化活動の発表の場が設けられている。

【文化財保護】

主な事業	内容	実施年度
指定文化財の保存	白石市内の国・県・市指定の文化財の指定・登録及び保護を行っている。	H23 以前～継続
遺跡発掘調査	開発行為に伴い埋蔵文化財の範囲確認，性格確認のため県文化財課と協力し，発掘調査等を実施している。	H23 以前～継続
戊辰戦争 150 年 「しろいし慕心プロジェクト」	H30 年に戊辰戦争より 150 年を迎え，「白石城」や「世良修蔵の墓」といったゆかりの史跡を活用した事業を実施している。	H29～継続

【考察】

国・県・市が指定した文化財を保護する文化財パトロールや遺跡の発掘調査，文化財の講演会や調査報告書の発刊を行い，文化財の保存・活用・普及に努めている。また，平成３０年が戊辰戦争から１５０年を迎えたことにより，奥羽越列藩同盟等でゆかりがあった白石市でも『戊辰戦争１５０年しろいし慕心プロジェクト』を立ち上げ，トークセッションやフォトプロジェクトを実施した。

【情報化・国際化】

主な事業	内容	実施年度
英会話講座 【中央公民館講座】	中央公民館主催講座として，英会話講座を実施している。	H23 以前～継続
情報化に関する講座 【中央公民館講座】	中央公民館主催講座として，パワーポイント講座やビデオ編集講座を実施した。	H23 以前～H29
社会教育施設 web 会議 環境整備事業	新型コロナにより，オンラインでの研修や会議が増えたことによって中央公民館内のインターネット環境(Wi-Fi や独自のネット回線など)を整備した。	R2

【考察】

白石市では，中央公民館講座として国際交流員やＡＬＴを講師とした英会話講座をレベル別に色々な時間帯で行っていたが，現在ではＡＬＴの派遣方法が変わったため，国際交流員が平日の昼間に行う英会話講座のみが継続されている。また，パワーポイント講座を平成２８年度・平成２９年度と行っていたが，現在では行っていない。最近の社会教育委員の会議においてもコロナ禍においてのインターネットの使い方についての意見が出ており，with コロナにおいてインターネット関係のインフラ整備が重要といえる。中央公民館では，令和２年度より独自のインターネット回線を整備した。

【生涯学習振興】

主な事業	内容	実施年度
白石市生涯学習フェスティバル事業	「活力ある活気に満ちた白石」を創り上げていくために，市民総参加による生涯学習フェスティバル事業を通年にわたり積極的に展開し，市民が生涯学習に接する機会を広く設け，「ひとづくり」「まちづくり」の推進を目的として行っている。	H23 以前～継続

【考察】

白石市では，平成５年度より白石市生涯学習フェスティバル実行委員会(任期２年)を組織し，生涯学習の発展及び普及に努めてきた。白石城や武家屋敷に短歌や俳句・川柳の投句箱を設置し募集を行う「白石を詠む」事業のような主催事業の開催と共に，１０月１日～１１月３０日までを「生涯学習強化月間」と位置づけ，市内の生涯学習強化月間に実施する事業を生涯学習フェスティバル参加事業としてチラシ等で周知をしている。

【防災教育】

主な事業	内容	実施年度
総合防災訓練時の防災講座(危機管理課主催)	総合防災訓練の際に，大きな避難所等では県職員が防災に関する講座を開催している。 【R2 年は新型コロナの影響により職員のみの訓練となったため中止】	H23 以前～継続 【R2 中止】
講座内の取り組み	R1 年度「わんぱく教室」や R2 年度の「市民大学」において防災教室を行った。	R1・R2

【考察】

平成２３年の東日本大震災や，令和元年東日本台風の被害により，白石市でも甚大な被害があった。その中で，避難所職員と地域住民が毎年６月に合同で行う総合防災訓練の際には各避難所において，職員と地域住民が防災について学べる研修や意見交換会などを実施している。また，防災訓練以外の取り組みとしては，「わんぱく教室」では令和元年度に南蔵王野営場で防災についての学習や，新聞紙での食器づくり・空き缶での炊飯などを行った。令和２年度の「市民大学」においても前年の台風被害の影響によって，防災について学びたいという意見があったので，「防災教育」をテーマに危機管理課による白石市における「令和元年東日本台風」の被害状況についての講話とＳＯＮＡＥ防災研究所による講話・クロスロードゲーム(水害編)を行った。

【読書活動推進】

主な事業	内容	実施年度
白石市子ども読書活動推進計画	「第二次子ども読書活動推進計画」及び「第三次子ども読書活動推進計画」の策定及び見直しを行い，市内の子ども読書活動を推進している。	「第二次」 H24～H28 「第三次」 H29～R3
手づくり絵本講習会・展示会	子どもたちが図書館で自分だけの絵本を作製する講習会を開催し，完成した絵本を展示した。	H23 以前～H25
出前読み聞かせ	保育園・幼稚園・小学校等へ読み聞かせボランティアを派遣し，生徒・児童への読み聞かせ会を行っている。	H28～継続
図書館探検隊	図書館で働く職員の仕事を実際に小学生に体験してもらう活動。	H23 以前～継続
移動図書館車「こまくさ号」の運行	市内各地を移動図書館車で巡回し，図書の貸し出しや図書の配本を行っている。	H23 以前～継続

【考察】

白石市では，市内の小学３年生・小学６年生・中学２年生及びその保護者を対象にしたアンケートをもとに「子ども読書推進計画」を５年に一度策定し，子どもの読書活動の推進を行っている。その他にも「図書館探検隊」や「図書館まつり」といった図書館を身近に感じてもらう活動や，「移動図書館車」の運行や「読み聞かせボランティア」の派遣といったような子どもたちのもとへ出向いた活動も行っている。更に，平成２６年度には図書館創立１００周年を記念して，図書館の役割の再認識と市民協働の図書館づくりを行う事業を行った。また，「図書館だより」を発行しており，市民の読書活動をサポートしている。

【年表】

年度	項目
H23	・協働教育プラットフォーム事業開始 ・『白石城』市指定文化財指定 ・第 5 次白石市総合計画開始
H24	・第 40 回新春囲碁将棋大会 ・「体育指導委員」が「スポーツ推進委員」へ移行 ・第二次白石市子ども読書活動推進計画開始
H25	・白石市・登別市姉妹都市締結 30 周年 ・まちづくり交付金事業スタート
H26	・家庭教育支援チーム「ペアレントらん」発足 ・仙南青年文化祭開催地 ・白石市制施行 60 周年 ・図書館創立 100 周年
H27	・海老名市・白石市姉妹都市提携 20 周年 ・西保育園　閉園 ・白石城開門 20 周年 ・宮城県民大学地域力向上講座実施及び面白石の会発足
H28	・第 40 回こどもまつり ・『延命寺山門(他 5 件)』国登録有形文化財登録 ・「放課後子ども総合プラン白石市行動計画」策定
H29	・白石笑顔未来塾開催 ・第三次白石市子ども読書活動推進計画開始 ・ベラルーシ体操協会と事前合宿実施についての協定締結 ・斎川小学校　閉校
H30	・第 50 回ふるさとスポーツ祭・第 90 回市民体育大会・第 40 回農業祭・球技大会 ・『古山家門』市指定文化財指定 ・戊辰戦争から 150 年を迎える ・こじゅうろうキッズランド　オープン ・白川中学校　閉校 ・南中学校　閉校
R1	・『壽丸屋敷(他 1 件)』国登録有形文化財登録 ・おもしろいし市場　オープン
R2	・『優良公民館表彰』にて斎川公民館が最優秀館に選出 ・成人式オンライン開催 ・「白石市体育協会」が「白石市スポーツ協会」へ移行 ・中央公民館インターネット環境整備及び地区公民館全施設インターネット環境整備 ・『玉幸』国登録有形文化財登録 ・しろいし SunPark　グランドオープン

角　田　市

角　田　市

【少年教育】

主な事業	内容	実施年度
姉妹都市「子ども交歓の集い」	姉妹都市である北海道栗山町の子どもたちと角田市の子どもたちが交流する。隔年で互いの市町を会場にし，交流会や社会見学等を実施。R2 年度はコロナのため中止。（角田市子ども会育成会主催）	S54～継続 （R2 中止）
石川町交流事業	姉妹都市である福島県石川町の子どもたちと角田市の子どもたちが交流する。互いの市町で交流会や社会見学・体験活動等を実施。R2 年度はコロナのため中止。	H27～継続 （R2 中止）
ジュニア・リーダー 初級研修会	3 月にジュニア・リーダー初級者としての研修を行い，資質向上を図る。講義や体験活動，レクリエーションを通して，ジュニア・リーダーの役割について学び，技術を身に付ける。R1 年度はコロナのため中止。	H23 以前～継続 （R1 中止）
ジュニア・リーダー活動	定例会をはじめとして，各地区で行われるインリーダー研修会等への派遣や市内の子どもたちとの交流を目的とした自主企画事業，知識や技術向上のための自主研修会などを行っている。	S47～継続
親子科学教室	小学生とその保護者を対象とし，親子のふれあいを深めるとともに，体験活動を行うことで知的好奇心を引き出すことを目的に実施。R2 年度はコロナのため中止。	H2～継続 （R2 中止）
自然体験キャンプ	集団生活を通して協調性やリーダーとしての資質を養うとともに，自然の中で様々な体験をしながら安全に活動を行う力を身に付ける。奇数年実施で，小学生対象に体験活動を中心とした 1 泊 2 日のキャンプを実施。	H27～H29
子どもフェスティバル	子ども会に対する市民の理解を求めるとともに，子ども会活動の充実と青少年の健全育成に資する。当日は各地区モデル子ども会やジュニア・リーダーが出店し，他に JAXA などの体験ブースなどを設置している。R2 年度はコロナのため中止。（角田市子ども会育成会主催）	H23 以前～継続 （R2 中止）
夏休み昆虫展	角田市郷土資料館に収蔵されている国内外の蝶の標本，「斗蔵山自然環境調査」において収集された斗蔵山周辺の昆虫標本を，夏休み期間に合わせ展示公開することによって，子どもたちに身近な昆虫の生態や，ふるさとの自然に興味関心を持ってもらう。（郷土資料館主催）	H28～継続

【考察】

角田市では栗山町・石川町との交流事業を実施しているが，平成３０年度より担当課が生涯学習課から市長部局のまちづくり交流課（現・まちづくり政策課）に移管した。親子科学教室については知的好奇心を引き出すことを目的に実施しており，平成２８年度までは「親子自然観察教室」として自然体験を主に行っていたが，平成２９年度からは科学の分野も取り入れ「親子科学教室」として実施した。令和３年度からは親子での学習に限定せず「少年教育教室」として実施している。ジュニア・リーダーについては近年入会者数が少なく，活動人数も年々減少している。いずれの事業も長年引き継いでいるものが多くマンネリ化や事務的なものになってきており，事業の意義や内容について見直す必要がある。

【青年教育】

主な事業	内容	実施年度
青年懇談会	各青年団体の情報交換，交流を通して協力体制を整え，組織の活性化を図るとともに地域の活動につなげる。年に 1～2 回程度実施。R2 年度はコロナのため中止。	H23 以前～継続 （R2 中止）
青年交流事業	市内の青年が交流と親睦を深め，仲間意識を高めるとともに，青年団体活動を一般青年に広める。各青年団体の青年で実行委員会を組織し，交流会などを企画・運営。R2 年度はコロナのため中止。	H23 以前～継続 （R2 中止）
国内研修・受入	姉妹都市である北海道栗山町の青年と角田市の青年が交流する。国内研修は隔年で R1 年度まで実施。R2 年度はコロナのため中止。	H23 以前～継続 （R2 中止）
青年講座	青年に対して学習の場及び親睦と交流の場を提供し，人づくり・仲間づくりを促進する。	H23 以前～継続
成人式実行委員会	成人式の実行委員企画と運営をお願いし，事務局としてサポートを行っている。	H23 以前～継続

【考察】

角田市では以前よりＪＡや商工会などの各青年団体と情報交換を行ってきた。青年団体が少なくなってからも名称や方法を変えて継続している。青年講座は主に青年層の交流を目的として講座を企画していたが，令和元年度に台風１９号で講座が中止となってから開催していない。成人式実行委員会については，自分たちの成人式を自らの手で企画・運営することを目的としているが，年々実行委員集めに苦労しており，ジュニア・リーダーや他の事業で関わった人たちとの関係を切らさずに繋げていく必要がある。

【家庭教育】

主な事業	内容	実施年度
家庭教育学級	家庭教育支援として，市内保育施設で行われる子どもの基本的なしつけや親の役割等についての学習に対し，支援を行う。	S62～継続
かくだ家庭教育支援チーム活動	子育てサポーターや子育て支援団体などで構成された「かくだ家庭教育支援チーム」が，市主催の家庭教育支援事業の運営協力や「子育て・親育ち講座」を実施している。	H20～継続
家庭教育支援事業 「ふぁみふぁみ」	活動を通して親子の愛着形成を促進するとともに，子育てについて学ぶ場を提供する。	R1～継続

【考察】

家庭教育学級は家庭教育の普及のため，各保育施設での家庭教育支援学習に対し謝金面で支援を行っている。かくだ家庭教育支援チームについては，「角田地域家庭教育推進協議会」の下部組織として家庭教育支援の基盤をつくるため平成２０年度に発足し，定例会などを行っていた。東日本大震災後，協議会の設置やチーム員での会議も次第に行われなくなった。家庭教育支援事業は地区ごとに事業が行われていたが，少子化などの理由により中央へ集約，令和元年度から全域対象の講座を開催している。今後は支援チームの整理や人材育成を行い，各関係機関との連携を密にする必要がある。

【成人教育】

主な事業	内容	実施年度
角田市父母教師会連合会 「市Ｐ連セミナー」	角田市父母教師会連合会との共催協力事業。「青少年健全育成市民の集い」と併せて開催。R2 年度はコロナのため中止。	H23 以前～継続 （R2 中止）

【考察】

成人教育は平成１９年度以降各地区自治センター単位での実施となり，市全体での事業は共催協力事業の「市Ｐ連セミナー」のみとなった。しかし，令和３年度からは市民の生きがいづくりや学習の場の提供を目的として生涯学習講座を計画しており，近年，成人教育にも動きが出てきている。人材育成が重視される中で，今後はこうした講座を通したコミュニティ形成やキャリアアップにつながる学びの提供などが必要になってくると思われる。

【女性教育】

主な事業	内容	実施年度
角田市地域婦人会研修会	研修会を通して婦人の文化・教養の向上と組織活動の助長を目指す。	H23 以前～継続
角田市各種女性団体連絡協議会研修会	市内８団体（R2 以降は７団体）の女性団体に講習の場を提供し，相互の親睦と交流を図ると共に女性活動の発展と向上を目指す。	H23 以前～継続
婦人団体の育成・援助	婦人団体の運営を援助し団体活動の活発化を図る。	H23 以前～継続

【考察】

角田市としては女性団体の育成や女性団体研修会を実施している。なお，令和２年度をもって，身近な暮らしの中での課題解決や子育て支援等を行ってきた団体である，角田市生活学校が解散し，令和３年度をもって角田市地域婦人会も解散予定である。要因として高齢化による会員減少と役員などの担い手不足が挙げられる。組織としては解散するが，今後も様々な形で地域活動に関わっていけるよう支援する。また，講座やワークショップ等により，教養や知識の向上，交流の場の創出を図る必要がある。

【協働教育】

主な事業	内容	実施年度
子どもの居場所づくり推進事業	学校などを活用し，地域の大人の教育力を結集して，放課後や週末における様々な体験活動や交流活動などを支援する。西根小学校などで食生活改善推進員などに協力をいただき，月１回ペースで実施している。R2 年度はコロナのため中止。	H19～継続 （R2 中止）
読み聞かせ講座	家庭や地域で実践できる人材を育成するとともに，読み聞かせボランティアのネットワークづくりを図る。	R2～継続

【考察】

子どもの居場所づくり推進事業は地域の方々との異年齢集団交流による体験活動を通じ，楽しみながら「生きる力（自主性や協調性等）」を育む活動として実施してきた。地域に根差した探求学習に関わる機会が増加している一方で，協働教育の柱の１つである家庭教育支援の面では，各地区自治センターや各関係課・学校との連携の希薄化などが進んでいる。今後は地域の人材発掘や地域で支える教育・子育て環境づくりのため，より学校・地域と連携していかなければならない。学校・地域との良好な関係を構築し，互いに関わり合える体制を整えていく必要がある。

【スポーツ振興】

主な事業	内容	実施年度
阿武隈リバーサイド マラソン大会	市民を中心とする健康づくりや健康増進を目的として，角田市陸上競技場と阿武隈川堤防などを走るイベント。R1 年度は台風 19 号の影響，R2 年度はコロナのため中止。	S63～継続 （R1～中止）
角田市相馬市親善柔道大会	歴史的に深いつながりを持つ角田市と相馬市の親善を目的に実施。S33 年角田市市制施行を契機に発足した。共催・協力の形で関わっており，現在は柔道協会が主催となっている。大会を通してより一層の親善融和を深めるとともに，柔道の技能の向上・充実を図る。	S33～継続 （H30～中止）
水泳教室等事業	小学生・市民の水泳教室や水中運動教室を実施。水中運動は H24 まで実施。	H23 以前～H25
スポーツ団体及び全国大会等出場に対する助成事業	スポーツ協会，スポーツ少年団，総合型地域スポーツクラブを対象に，団体の運営を援助し，団体活動の活性化を図る（補助金の交付）。また，全国大会等に出場する市民・団体等にも助成金を交付している。	H23 以前～継続
スポーツ・レクリエーション祭事業	スポーツを通した参加者同士の交流を目的として実施。	H23 以前～H29
スポーツ推進委員活動事業	スポーツ事業の実施に係る連絡調整，市民へのスポーツ指導，助言を行い，スポーツの振興を図る。通年では総合型地域スポーツクラブスポコムかくだの成人スポーツ教室において，指導者派遣を行う。	H23 以前～継続
こどもリレーカーニバル	小学生を対象にして，「走る」ことを通し，体力の向上や豊かな人間形成に寄与することを目的とする。R2 年度はコロナのため中止。	H23 以前～継続 （R2 中止）
角田市スポーツ大会	市スポーツ協会の加盟団体と共催で大会を開催することで広く市民にスポーツを普及・推進し，明朗健全な市民性を培い，健康増進と体力向上を図る。R2 年度はコロナのため中止。	H23 以前～継続 （R2 中止）
スポーツフェスティバル	市スポーツ協会と共催でイベントを開催することでスポーツ人口の拡大と健康づくりを図る。R2 年度はコロナのため中止。	H23 以前～継続 （R2 中止）
スポーツ講演会	新しいスポーツ文化についての講演会を開催し，市民のスポーツ振興を図る。	H23 以前～継続
ウォーキング事業	かくだスポーツビレッジを核としたウォーキングイベントや，指導者研修会を開催し，R2 年度には市ウォーキング協会の立上げ支援を行い住民主導でのウォーキングの普及を図る。	H29～継続
Ｋスポと道の駅かくだ連携事業	Challenge Million 市民会議事業（地方創生推進交付金事業）として実施。地元住民でにぎわうＫスポと道の駅かくだを目指して，スポーツにより健康拠点，幼児親子遊び拠点，大会誘致等による賑わいの拠点化を図る。	R1～継続
スポーツネットワークかくだ 支援事業	関係団体が連携を図ることで地域スポーツの課題を解決する「スポーツネットワークかくだ」の運営を支援することで，「スポーツで明るく楽しく健康で活力あふれたまち」の実現を目指す。	R1～継続
かくだ版アクティブチャイルド・プログラム	元気な子供の育成を目指し，すべての乳幼児に「楽しみながら積極的に体を動かす『運動あそび』」を提供する角田市独自の取組みを行う。	R2～継続

【考察】

総合体育館をはじめとする総合スポーツ施設（Ｋスポ）については，長年，施設管理を指定管理者が行い，スポーツ振興事業を教育委員会で行ってきたが，施設の有効活用を目的に段階的に教育委員会から指定管理者へスポーツ振興事業を移管（指定管理の更新時期に併せ，第１段：平成２６年度～，第２段：平成３０年度～）してきた。

さらに，近年のオリパラムーブメントやＫスポに隣接して道の駅かくだが整備されるなど，スポーツへの期待の高まりをうけ，地域スポーツ運営組織スポーツネットワークかくだを設立しスポーツ団体間の連携を強化し，スポーツの振興に加え，スポーツによる地域課題の解決（地域活性化，健康増進，子育て支援等）に取り組んでいる。令和３年度からは市民の健康づくりのきっかけづくりのため，チャレンジデーへの参加を計画。またこれらの取組みを着実に拡充していくために，令和４年度からの指定管理の更新に併せ，新たな指定管理者（かくだスポーツビレッジ運営共同企業体）に業務を移管し，継続的で，発展的な取組みとなることを目指している。

【視聴覚教育】

以前は１６ミリ映写機操作技術講習会を行っていたが，１６ミリ映写機の利用減少や機器管理の問題から平成１８年度以降実施しておらず，視聴覚教育事業としては視聴覚教育指導員の派遣やあずなびあの事業への協力のみとなっている。

【芸術文化振興】

主な事業	内容	実施年度
角田コーラスフェスティバル	コーラス愛好者の交流を深めるとともに，市民に鑑賞してもらい，コーラスの普及と芸術文化への親しみを図る。	H23 以前～継続
ベートーヴェン第九「喜びのうた」を歌おう会演奏会	小学生以上の市民が合唱の練習を重ね，仙台ニューフィルハーモニー管弦楽団を招き一緒に発表するイベント。R2 年度はコロナのため中止。	H4～継続 （R2 中止）
ライブ・イン・カクダ	演奏団体に発表と交流の場を提供するとともに，市民に鑑賞の機会を作る。	H13～H31
文芸かくだ事業	「広報かくだ」に短歌・俳句・川柳を掲載。文芸作品の普及と向上を図る。	H23 以前～H26
自主文化事業	田園ホールに様々なジャンルの演奏家・アーティストを招き，本格的で良質な芸術文化に触れる機会を提案し，市民の芸術文化の関心を高める事業を実施する。	H28～継続
文化団体の育成・援助	文化協会，ベートーヴェン第九「喜びのうた」を歌おう会，角田市芸術文化振興会（もっとうぇいく），といった文化団体の運営を援助し，団体活動の活発化を図る（補助金の交付）。また各団体と共催でイベントを開催。	H23 以前～継続
角田祭りばやし講習会	小中学生を対象に角田市の伝統芸能である「角田祭りばやし」の講習を行う。	H23 以前～継続

【考察】

ベートーヴェン第九「喜びのうた」を歌おう会演奏会は，市民から開催の声が挙がったことで中央公民館時代に実施し始めたもので，当初は中央公民館が中心となって開催していた。現在はベートーヴェン第九「喜びのうた」を歌おう会が主体となり，共催する形で実施している。

また，かくだ田園ホール開館前は文化団体の育成や文芸に関する講座・広報誌への掲載を主に行ってきたが，平成２７年度，かくだ田園ホールの開館に伴い，角田市芸術文化振興会が発足し，市民による市民文化の創造を目指して，ホールを活用したイベント・公演などを中心に芸術文化事業を実施するようになった。角田祭りばやし講習会は，以前は，中央公民館事業として行っていたが，現在は角田自治センターの事業として継続している。

【文化財保護】

主な事業	内容	実施年度
角田市絵馬総合調査事業	福應寺毘沙門堂奉納養蚕信仰絵馬の一般公開を行い，広く周知する。市内に残る絵馬の調査を実施し，すべてデータベース化して後世に残す。	H22（3/11 以降）～H24
歴史講話会	郷土の歴史に関する講話を聞き，体験を通して郷土の歴史を知る機会を提供する。（郷土資料館主催）	H14～R2
各種体験講座	雅楽鑑賞会や詩吟に親しむ会，折り紙教室など，日本の伝統文化に親しむ講座を実施。	H23 以前～継続
甲冑展	角田館主石川氏家臣伝来の甲冑と折り紙による五月飾りの展示を行い，端午の節句の行事に親しんでもらうイベント。H22～H24 は未実施。（郷土資料館主催）	H21～H29
七夕展	和田家資料「内留」の解読によって明らかになった，角田館主石川家の城内で行われていた七夕の様子を再現するとともに，五節句の一つとして広く庶民の間でも行われてきた「七夕」の様々な形や様子を紹介し，七夕にまつわる文化や風習を広く知らしめる。	H27～継続
民俗芸能大会	市内各地に伝承されている民俗芸能を広く一般に公開し，併せて，無形民俗文化財の保存・伝承及び文化財の公開や市外における保存団体との交流を図る。	H29～継続
郷土探訪会	地元の各所旧跡を訪ね，歴史・民俗・文化的知識をより一層深める。（郷土資料館共催）	H25～継続
企画展「雛人形」	仙台藩の一門筆頭である角田館主石川氏に伝承されてきた『雛人形』及び『雛道具』等を展示し，市内外の人々に伊達氏及び石川氏の文化に触れる機会をあたえると共に，郷土の歴史と当時の風俗を知ってもらうために開催する。	H23 以前～継続
歴史探訪会	県内外の史跡等を訪ね，歴史・民俗・文化的知識をより一層深める。（郷土資料館共催）	H23 以前～継続
ぐるぐる探検隊	小学生を対象に市内の名所・旧跡を訪ね，体験を通して郷土の歴史を知る機会を提供する。（郷土資料館主催）	H23 以前～R1
無形民俗文化財団体育成事業	無形文化財保存のために活動している団体を助成し，無形文化財の保護に努める。	H23 以前～継続

【考察】

基本的な事業として，埋蔵文化財発掘調査事業や文化財保護助成事業，文化財パトロールなどがある。他にも，小学校等からの依頼で体験学習などを提供している。角田市絵馬総合調査事業については，平成２４年度に福應寺毘沙門堂奉納養蚕信仰絵馬が国指定重要有形民俗文化財に指定され，講演会や展示会等を実施した。現在地域のプロジェクトチームが主体となり，収蔵庫建設（令和元年度開館）や保存活動等を行っている。以前からある事業を継続しつつも，新たな試みや地域との連携を深めている。

【情報化・国際化】

主な事業	内容	実施年度
角田えいご村	一般市民等を対象として英語に慣れ親しみ，外国の異文化に触れ，理解を深める機会を提供する。年間複数回の講座と出前講座を実施。	H21～R1

【考察】

情報化に関しては平成１１年度から平成１８年度までパソコン講座を行っていたが，機器の更新等の問題で廃止となった。近年，新型コロナウイルス感染症の影響を受け，成人式での YouTube 配信など発信手段として情報化が進んでいる。対面での会話が制限されるようになったこともその要因として挙げられる。国際化では，角田えいご村が挙げられる。平成１６年度から取り組んできた英語特区事業を活かし，学校だけでなく地域にも国際理解と英語学習の場を提供するため行われていた。

【生涯学習振興】

主な事業	内容	実施年度
生涯学習人材活用事業	広く人材を発掘し，相談があった際などに指導者を紹介することにより，市民の学習機会を拡充するとともに，生涯学習の活動の普及・発展を図る。	H3～継続
生涯学習フェスティバル	実行委員会を組織し，市民の学習意欲を高めるとともに生涯学習の啓発を図る。その中で子ども体験まつり（～H23），角田えいご村（H21～R1），共催として子どもフェスティバル（～継続）などの少年教育も実施。R2 年度はコロナのため一部中止。	H23 以前～継続 （R2 一部中止）
青少年健全育成市民の集い	市教育委員会・市父母教師会連合会・角田市生涯学習フェスティバル実行委員会などが連携し，小中高生の意見発表や JL の活動紹介など実施している。R1 年度は台風 19 号の影響，R2 年度はコロナのため中止。	H15～継続 （R1～中止）
情報提供事業	角田市ホームページ等を活用し，生涯学習関係の情報を市民に提供する。	H23 以前～継続
かく大學	対象の年代を設定せず実施。主体的かつ創造的に課題を解決し，地域に貢献する人材を育成する。参加者の興味・関心に合わせて会場設定やゲストを招き，ひとりひとりがプロジェクトを考える。	R2～継続

【考察】

青少年健全育成市民の集いは昭和５１年度から平成１４年度まで「角田市青少年健全育成推進大会」として実施されていた。その他，内容について大きく変わった事業はなかったが，近年，市民の集いや生涯学習フェスティバル（実行委員会も含む）の内容・形式など見直しを検討する動きが出てきている。

【防災教育】

角田市としては防災安全課が主体となって東北福祉大学の協力の下，防災士養成研修講座，フォローアップ研修会を実施した。継続して防災指導員養成講座などを行っている。

【読書活動推進】

主な事業	内容	実施年度
おはなし会	絵本の読み聞かせを通して，親子が触れ合いながら本と出合う機会を提供する。現在，幼児向けと児童向けに開催。	S58～継続
読書週間「夢袋」（春と秋）	期間限定の特別企画を実施して読書活動を推進し，利用者の興味関心を広げ，図書館のさらなる利用促進につなげる。春は子どもの本の「ゆめぶくろ」，秋は大人の本の「夢袋」として，おすすめの本 3 冊を袋に入れて貸し出す。	H30～継続
絵本多読賞・児童書多読賞	上半期，下半期に分け，小学生以下の絵本の多読者に「絵本多読賞」の賞状を授与する。R3 年度から児童書も対象とし，「児童書多読賞」の賞状も授与する。	R1～継続
図書館まつり	年に 1 回，図書館で行っている取組を紹介するとともに，ミニコンサートなどのブースを開設し，図書館の利用促進を図るイベント。R2 年度はコロナのため中止。	H9～継続 （R2 中止）
放送大学宮城学習センター・角田視聴学習室	放送大学と連携し，放送大学が受講できる場を提供している。	H21～継続
夏休み事業	「夏休み子ども一日図書館員」，「夏休み図書館教室」など，図書館業務体験や図書内容に関連づけた実践活動を開催。R2 年度はコロナのため中止。	H23 以前～継続 （R2 中止）
除籍図書リユース	除籍図書の無償配布を通して，その有効活用と図書館利用促進の啓発を図る。	H27～継続
好きな本の絵を描こう	「好きな本の絵を描こう」をテーマに絵を公募し，子ども図書館に展示する。好きな本の絵を描くことで本の魅力を深く再認識し，その絵を展示して一般の利用者等にも本や図書館の良さを改めて PR する。	R2～継続
乳幼児健康診査等における子ども図書館利用促進事業	「おたんじょう相談」や「乳幼児健康診査」時に，絵本の読み聞かせと本の紹介，ブックリストの配布，図書館の利用案内を行い，図書館の利用促進を図る。	R1～継続
ブックスタート事業支援	社会福祉協議会で実施しているブックスタート事業へのブックリストなどの提供等による支援を行う。	H19～継続

主な事業	内容	実施年度
子ども読書活動推進計画	計画に示された目標と進行管理のため，構成する組織へのアンケートと，推進員による定期的な評価検討を行う。	H22～継続

【考察】

角田市には角田市図書館があり，読書活動推進については図書館が主体となって進めている。開館当初からの貸出事業を行いながら，近年は子どもの頃からの読書活動を推進するため，未就学児や小学生を対象とした事業も活発に行っており，施設やシステムの面でも看板の設置やＣＤ・ＤＶＤの貸出袋の導入など利用しやすい環境づくりを行っている。

※令和２年度より各地区自治センターが教育委員会から市長部局に移管したが，引き続き地域に合わせて各分野における社会教育事業が展開されている。

【年表】

年度	項目
H23	・角田小学校と小田小学校が統合 ・子ども図書館オープン ・福應寺毘沙門堂奉納養蚕信仰絵馬が県内初の重要有形民俗文化財として国の指定を受ける
H24	・角田市市民センターホール解体，屋内運動場解体 ・金津の七夕行事が無形民俗文化財として国の指定を受ける
H25	・郷土資料館が震災復旧を終えて再オープン ・スポーツ推進審議会設置
H26	・生涯学習課文化振興係新設 ・スポーツ交流館設置 ・主なスポーツ事業を（公財）地域振興公社へ移管
H27	・角田市市民センター研修棟リニューアルオープン ・かくだ田園ホールオープン ・角田市いじめ防止基本方針を策定 ・角田市教育振興基本計画を策定
H28	・銀河連邦にカクダ共和国が加入 ・あしたの日本を創る協会より，角田市生活学校が全国表彰 ・角田市子ども読書活動推進計画策定（第２次） ・高蔵寺阿弥陀如来坐像修復作業開始（H30 年度完了）
H29	・東根小学校が子どもの読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰を受賞 ・かくだ田園ホールにて仙南初のオペラ「トスカ」上演 ・阿武隈リバーサイドマラソン 30 周年を迎える
H30	・東京オリパラ競技大会パラオ共和国事前キャンプ時の施設使用に係る協定締結 ・福島県石川町・角田市姉妹都市締結 40 周年を迎える ・東京都目黒区・角田市友好都市締結 10 周年を迎える ・北海道栗山町・角田市姉妹都市締結 40 周年を迎える ・角田市文化協会創立 60 周年を迎える ・角田市市制施行 60 周年を迎える
R1	・「むかでの絵馬館」完成 ・「道の駅かくだ」オープン ・Ｋスポかくだウォーク初開催
R2	・各地区自治センターが市長部局に移管 ・「道の駅かくだ」にウォーキングステーション開設 ・すばらしい角田を創る協議会解散 ・角田市生活学校解散

蔵　王　町

蔵　王　町

【少年教育】

主な事業	内容	実施年度
蔵王町子ども会育成会	子ども会組織の連絡提携・健全育成を図ることを目的とした組織。	～継続 （R2 中止）
蔵王町インリーダー 合宿研修会	蔵王町子ども会育成会事業。小学 4～6 年生を対象に，子ども会のリーダーを担う会員の創出と資質向上を目的とした研修会。	～継続 （R2 中止）
蔵王ボランティア サークルこだま	ジュニア･リーダー組織。子ども会行事では会員に近い目線で行事を支援する役割を担っている。	～継続 （R2 中止）
蔵王町子ども会育成会 「ジュニア・リーダー 沖縄交流合宿」	非日常で他のジュニア･リーダーや高齢者との交流，自然体験活動や地域の PR 活動などを実施。地元の素晴らしさを見つめ直し，郷土愛を持った次代の地域リーダー創出を目指す研修会。	R1

【考察】

蔵王町子ども会育成会は，地域の子ども会をまとめる事務を行うだけではなく，会員の交流行事やジュニア・リーダーの育成にも取り組んでいる。ジュニア・リーダー沖縄交流合宿は，カメイ社会教育財団の助成を活用し実施され，学びの多い研修会であると理事や参加者から評価を得たが，団体の予算規模に対し費用対効果を検討した結果，単年度の実施となった。

少子高齢化により，子ども会やジュニア・リーダー活動の衰退が嘆かれているなかで新型コロナウイルスの影響によって拍車がかかっている。しかし，単に会員数を増やすのではなく，魅力や学びの多い活動を提供することによって，個人のスキルや会員相互の連携を向上することが望ましいと考えられる。

【青年教育】

主な事業	内容	実施年度
蔵王町青年団体連絡協議会	青年の有志が集まり，ボランティア活動や地域の行事参加・参画を行うなど，地域活性化の一助となる活動を行っている。	～継続

【考察】

近年，会員数の減少から活動のモチベーションが低下し，会員自身も団体の存続を危ぶんでいた。しかし，平成３０年度に蔵王町ふるさと文化会館で開催された仙南青年文化祭の実施経験が活動意欲を盛り返すきっかけとなった。令和２年度には青年会カフェと称し，住民と青年会の交流スペースを町文化会館で開催するなど，新規事業へも前向きに取り組んでいる。

【家庭教育】

主な事業	内容	実施年度
親子ふれあい教室 （H23 親子リズム体操）	２歳６か月児健康診査に訪れた親子を対象に手遊び等でふれあい楽しむ機会をつくり，心身の育成とスキンシップを図る。また，同年代の親子が集う場で，参加者が社会生活に触れる機会を提供する。	～継続
町公民館事業 「リフレッシュ MamaCafe」	未就学児の母親が，ものづくりや子育てに関する学習，子育てサポーターとの交流を行い，気分転換や参加者同士のネットワークづくりの機会を提供することで，育児に対する不安の減少を目指す。	H26～継続 （R2 中止）
子育てサポーターチーム 「すまいるハート」	子育てサポーター養成講座で得た知識や自身の子育て経験を活かし，子育て中の親が，学習やリフレッシュ，癒しや子育て世代交流の場など「楽しい子育て」を支える活動を提供。	H26～継続
ございんドライブインシアター	ふるさと文化会館の駐車場にて親子で楽しめる映像を上映するドライブインシアターを実施。	R2～継続
教育講演会	町内の子どもたちの健やかな成長と，より良い家庭教育・地域教育環境の実現を目指した教育，子育て，健全育成などに関する講演会。	～継続

【考察】

蔵王町では協働教育の一環として家庭教育事業が実施されている。
その中でも，子育てサポーターチーム「すまいるハート」は行事中の託児支援や，子育て中の親に対する学びの場の提供を行い，家庭教育をリードする役割を担っている。しかし，コロナ禍や行事の終了に伴う活動数の減少，また，多くの活動が託児支援の依頼が主となっている現状で，会員のモチベーション維持と明確な目標設定の必要性が懸念される。

教育講演会はＰＴＡ，母親クラブ，子ども会育成会の役員等が実行委員となり，輪番で委員長を担当している。テーマ設定や講師の選定なども実行委員会で行うが，毎年，必要課題と要求課題のマッチングに苦慮している。

【高齢者教育】

主な事業	内容	実施年度
町公民館講座 「セルフケア入門」	ヨガやマッサージの学習をとおし，家庭で簡単にできる体のケアを身に着け，健康増進の意識を高めることを目的とした講座。	H25～H28
町公民館講座 「豊かな生活の準備教室」	成年後見人制度についての学習や趣味の講座をとおし，老後の生活を豊かで安心なものにするための工夫や知恵を学ぶ講座。	H27～継続 （R2 中止）

【考察】

「セルフケア入門」では，一つのテーマを深めていく内容で講座を実施していた。平成２７年度から実施されている「豊かな生活の準備教室」では，美味しいコーヒーのいれ方や足つぼマッサージ，成年後見人制度についての学習などを実施。高齢者教育に位置付けている行事は少数だが，広い分野を学ぶことができる機会を提供している。

【協働教育】

主な事業	内容	実施年度
蔵王町地域学校協働活動 推進協議会	地域学校協働活動推進事業の計画及び推進について協議を行う。地域の団体の長などが幅広く参画している。	H23～継続
ざおうっ子応援団	登録ボランティアが学習活動の支援や見守り活動，学習環境の整備などを行う。地域コーディネーターが学校とボランティアとのパイプ役を担っている。	H23～継続
放課後子供教室	ボランティアが公民館等で体験活動を児童に提供し，放課後を安全に過ごせる居場所を提供する。	R1～継続
職場体験学習	町内の事業所に生徒を受入れてもらう。仕事の体験をとおして，社会の仕組みに関する学びや，将来を考える機会を提供する。	～継続
キャリアセミナー	生徒が社会人とのふれあいの中で様々な仕事や人生経験にふれ，将来に対する夢や希望，志をふくらませ，人生について深く考えるきっかけを作る。	R2～継続

【考察】

蔵王町地域学校協働活動推進事業は地域コーディネーターが地域と学校の連携を担い，ざおうっ子応援団の登録ボランティア協力のもと，多岐にわたる活動が行われてきた。平成２８年度には事業（協働教育プラットフォーム推進事業）に対し，文部科学大臣からの表彰を受けている。

放課後子供教室，キャリアセミナーについては事業が開始されているものの，体系が確立しておらず，今後検討が要されている。

【スポーツ振興】

主な事業	内容	実施年度
日本の蔵王ヒルクライム・エコ	エコスポーツである自転車レースの開催によって，地域住民が自転車競技に対する興味・関心を持つきっかけづくりを行うと共に，環境保全の町であることを全国にアピールする。	H22～継続
三遊亭円楽ゲートボール大会	三遊亭円楽プロデュースの下でゲートボール大会を開催することで，参加者の健康意識，運動意欲の向上を図ると共に，広く蔵王町の活力を全国に発信する。	H25～継続 （R1～2 中止）
パラオ共和国東京オリンピック 事前合宿	東京オリンピック開催に併せ，パラオ共和国選手の事前合宿を開催することで町全体のオリンピックに対する興味・関心を高めるとともに，地域の魅力を国内外に発信し，地域活性化を図る。	H30～R1

【考察】

社会体育では，スポーツに親しんだり健康を増進したりする行事を推進しているのはもちろんのこと，全国から参加者を募るスポーツ行事も実施しており，まちの情報発信にも寄与している。また，東京オリンピックの開催に先立ち，ホストタウンとして蔵王町にゆかりのあるパラオ共和国への派遣・受け入れ事業や，パラオ選手団の事前キャンプを行いオリンピックに対する機運を高める事業も実施してきた。

【芸術文化振興】

主な事業	内容	実施年度
学校訪問音楽アウトリーチ	音楽家が小学校を巡回し，コンサートやワークショップを開催。児童が音楽に親しむ機会を提供。	～継続
三遊亭円楽落語会	三遊亭円楽を招き，日本伝統の文化である落語に親しむ機会を提供。	H24～継続 （R2 中止）
加川広重アートプロジェクト	町内在住の画家，加川広重の巨大絵画展示や描画ワークショップをとおして，絵画を中心とした芸術に親しむ機会を提供。	H28～継続

【考察】

学校訪問音楽アウトリーチは(一財)地域創造からの助成金をきっかけに，加川広重アートプロジェクトは芸術銀河の助成金をきっかけに継続して実施されている。前者は，演奏会やワークショップをとおしてアーティストと児童がふれあい，間近で芸術に触れる機会を提供しており，後者も講師の下で描画のワークショップを行ったり，絵画を鑑賞したりといった貴重な機会を提供している。

三遊亭円楽落語会は，スポーツ振興課「三遊亭円楽ゲートボール大会」と合わせて実施している。三遊亭円楽氏は平成２６年度から蔵王町ふるさと文化会館の名誉館長に就任しており，同氏の館長就任は蔵王町ふるさと文化会館がまち文化芸術の発展と振興を担う施設である象徴となっている。

以上から，蔵王町の文化振興は町外にある魅力を取りいれたり，町内の人材にフォーカスしたりしながら，学びと魅力にあふれる取り組が実施されている。

【文化財保護】

主な事業	内容	実施年度
仙台真田氏周知事業	企画展や郷土史に関する講座，ポスターやリーフレットの頒布，講演会，関連する史跡の整備など，町と真田氏のゆかりについて多岐にわたる周知事業を展開。	H21～継続
谷地遺跡発掘調査・周知事業	H23～24 に発掘調査が行われ，10t の遺物が出土。企画展やリーフレットの頒布で周知が行われ，R1 にはふるさと文化会館に常設展を開設。	H23～継続

【考察】

仙台真田氏周知事業では，町内の事業者においても関連商品の製作やイベントを多数実施している。真田幸村公を軸とした大河ドラマ上映を要望する全国署名運動では，町民ほかから約１万２千人分の署名が集まるなど，事業の効果はまち興しへも波及している。

【情報化・国際化】

主な事業	内容	実施年度
町公民館事業 「イングリッシュカフェ」	ネイティブ講師との定期的な異文化交流で，グローバルな感覚を養うと共に，役に立つ英語表現と異文化交流を積極的に楽しむ能力・感覚を身に着けてもらうことを目的とした講座。	H29～継続
文化会館事業 「イングリッシュシネマ」	英語圏の映画館を疑似体験することにより，楽しみながら自然な形で，英語に対する興味を持ってもらい，学校で学んでいるスピーキングやリスニング技術実践の場を提供。	H30～継続 （R2 中止）
文化会館事業 「イングリッシュフェスタ」	「英語」を主題とした講演会を開催し，国際交流の機運を高めることを目的とした行事。	R1

【考察】

平成２９年度，蔵王町の英語特区指定を好機とし，町民が英語に親しむ機会を提供するため，様々な行事が開催されてきた。イングリッシュシネマでは小学生がＡＬＴなどのネイティブスピーカーからポップコーンやドリンクを購入する機会を，イングリッシュカフェでは，成年がネイティブ講師から講義を受けるなど，老若男女が生きた英語に触れる機会を提供している。

【生涯学習振興】

主な事業	内容	実施年度
町公民館まつり 「ございんまつり」	町公民館で活動するサークルや文化団体を中心に，ステージ発表やワークショップを開催し，日ごろの活動成果を発表する。	H27～継続 （R1，2 中止）
蔵王町公民館講座 「蔵王のお宝探検隊」	普段なかなか触れる機会がない「蔵王の良いところ」を見学・体験することで，地域に対する理解と関心を培うとともに郷土愛を醸成する。	R1～継続
蔵王町公民館講座 「蔵王の石ころ図鑑を作ろう」	種類が豊富な岩石を体系的に研究し，地域資源の面白さを実感してもらうと共に，蔵王の魅力として発信できる人材を育成する。	R1～継続

【考察】

ございんまつりは，平成２９年度から団体参画型で実行委員会を開催し，会議は４～５人の小グループに分かれて進行している。当初，出席者らはグループワークに違和感を覚えていたようであったが，現在はスムーズに会議が進行するようになり，多くの発想や意見を引き出すことが出来ている。

蔵王のお宝探検隊・蔵王の石ころ図鑑を作ろうは，食や歴史，地質など様々な蔵王の魅力をテーマに見学・体験活動を実施。参加者が地域の魅力を再確認することによって，蔵王町の魅力を発信できる人材の創出・育成を目指している。

【防災教育】

主な事業	内容	実施年度
蔵王町防災キャンプ	H27 はジュニア・リーダーと小学生を対象にそれぞれ合宿研修会を開催。蔵王山の噴火で災害についての学習や火おこし体験などを実施した。 H28 はジュニア・リーダーを対象にふるさと文化会館で合宿研修会を開催。避難所運営ゲームや，サバメシ作りなどを体験した。	H27～28 （R1 中止）

【考察】

平成２７年度の防災キャンプは，仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業補助金を活用し実施した。令和元年度にも同補助事業が予定されていたが，台風１９号災害の影響により中止した。町子ども会育成会と共催し行事を実施することで，リーダー育成を目的とした行事に防災の要素を加え，より学びの多い行事となったことが推察される。青少年のリスクマネジメント力の向上に資することや，昨今の気象災害の増加を鑑みると，今後も継続的に行うべき事業であると考察される。

【読書活動推進】

主な事業	内容	実施年度
子ども読書活動推進計画	子供の自主的な読書を促し，健全な成長に資するため，図書館を中心に家庭・地域・学校等が連携し，子供の読書環境の整備を進めることを目的とした計画。	H21～継続

【考察】

関係各課において，それぞれ計画に沿った読書活動の推進を行っている。しかし，現状の共有や連携を図るには至っていない。

【年表】

年度	項目
H23	・「協働教育プラットフォーム事業（後の地域学校協働活動推進事業）」がはじまる ・「谷地遺跡発掘調査」がはじまる ・全国視聴覚教材コンクールで「蔵王ふるさとの昔話」が最優秀賞を受賞
H24	・「蔵王町協働教育プラットフォーム協議会（後の地域学校協働活動推進協議会）」設立 ・蔵王球場で「ねんりんピック 2012 ゲートボール競技」を開催 ・「日本の蔵王ヒルクライム・エコ」が JCA４大大会に参入
H25	・蔵王町ＰＲキャラクター「ざおうさま」が誕生 ・蔵王火山で火山性微動が観測される ・「第１回三遊亭円楽杯ゲートボール大会」を開催
H26	・ふるさと文化会館が竣工 10 周年を迎える ・ふるさと文化会館名誉館長に三遊亭円楽氏が就任 ・蔵王町子育てサポーターチーム「すまいるハート」結成 ・蔵王球場の名称が「楽天イーグルス蔵王球場」に変更
H27	・町政施行 60 周年を迎える ・B&G 海洋センターの拡張・改修工事が開始される
H28	・B&G 海洋センターの拡張・改修工事が竣工する ・蔵王町協働教育プラットフォーム協議会が「地域学校協働活動推進に係る文部科学大臣表彰」を受賞 ・蔵王町学校施設長寿命化計画を策定
H29	・文科省より「英語特区」の指定を受ける ・「蔵王町・常陸大宮市東京オリパラ協議会」が発足 ・「東京オリパラ競技パラオ共和国選手団事前キャンプに関する基本合意」を締結 ・白石市，角田市，柴田町，仙台大学と「東京オリパラ事前キャンプにおける協定」を締結
H30	・大河原教育事務所管内「仙南青年文化祭」が蔵王町で開催 ・パラオ共和国の東京オリンピック事前合宿が開始 ・「みやぎミュージックフェスタ 2019」がふるさと文化会館で開催 ・「ざおう・パラオ子ども国際交流事業」を開催。パラオの子供たちを蔵王町に招く
R1	・文化会館に常設展示「谷地遺跡～蔵王山麓に育まれた縄文ムラ～」がオープン ・パラオ共和国の東京オリンピック事前合宿が実施される ・「ざおう・パラオ子ども国際交流事業」を開催。蔵王町の子供たちがパラオを訪問
R2	・B&G 海洋センタープールを修繕 ・パラオ共和国「ホストタウンフレーム切手」を製作

七ヶ宿町

七　ヶ　宿　町

【少年教育】

主な事業	内容	実施年度
クリスマス会 (子ども会育成会と共催)	小学生を対象とし，クリスマス企画（工作，料理）やジュニア・リーダーとのレクリエーションを実施。	～継続
青少年指導者研修会 兼ジュニア・リーダー 初級研修会	ジュニア・リーダーとしての基本的な知識や，地域ボランティアとしての資質の向上を図ることを目的とした研修会。	～継続
鹿児島県宇検村との交流事業	ジュニア・リーダーと児童5･6年生が夏は宇検村へ行き海の体験，冬は七ヶ宿町へ来て雪の体験をする交流会。 （R1，R2は新型コロナ感染防止対策のため中止）	H26～継続
わんぱく探検スクール 「通学合宿」	小学生が，家を離れて一週間合宿し，調理や身の回りの事を自力で行い，通学する事業。	～H27
ジュニア・リーダー自主企画 「ジュニア・リーダーと遊ぼう」	子ども会育成会主催の雪合戦大会が前年度に終了し，代わりにスタートした。ジュニア・リーダーが企画・運営する行事。	H27～継続

【考察】

わんぱく探検スクールの事業では，「海の体験合宿」や「不忘山登山」と「キャンプ」，「通学合宿」，「農業体験（春・夏）」等の様々な活動を行っていた。近年は，これらの事業が学校行事と類似してきたこと，ジュニア・リーダーが部活動等で多忙となりサポートが減少したこと，また対象となる児童数が減少していることから，事業の見直しを行った。

現在までの少年向け行事は，親との学びの機会として「親子講座」等を行い，家庭教育支援を重視，または対象が児童・生徒であることから子ども会活動に統合して実施している。ジュニア・リーダー活動の推進と合わせて今後の事業を組み立てていく必要がある。

【青年教育】

主な事業	内容	実施年度
成人式実行委員会	成人式の新成人を祝福し，特色ある成人式を創り出すため，10 代から 20 代の青年で実行委員会を組織し，成人式式典の運営，第２部の企画･運営を行う。	H25～継続

【考察】

成人式実行委員会を組織し，若者の手で成人式が作り上げられている。実行委員としての参加を契機とし，町内の若者が交流し，これをきっかけとして将来のリーダーとなる青年の育成に取り組んでいる。少年や成人向けの講座は開催されているが，青年をターゲットとした教育は手薄となっているのが現状である。進学や就職で町外へ出る青年が多い中で，数少ない青年層と地域との間にどのように関わりを持たせるかが課題である。

【家庭教育】

主な事業	内容	実施年度
親子ふれあい教室	親子の絆と豊かな心を育むことを目的として，児童と親を対象にした工作教室や，保健センター・食生活改善推進部と連携した料理教室等を開催している。 （R2は新型コロナ感染防止対策のため中止）	H23 以前～継続
子育て支援講座	保育所と連携し，未就学児と親を対象に，子育てに役立つ学習の機会，同年代の子を持つ親同士の交流の機会を提供している。	H27～継続
親の交流会	月１回程度，保護者同士の交流の場を提供する。工作活動等を行いながら，情報交換や仲間づくりの機会として実施している。「ままカフェ」「ぽっぽクラブ」	H24～継続 （R1～休止中）
学ぶ土台づくり事業 「親の学び研修会」（県主催）	幼児～中学生の保護者を対象に，家庭教育の必要性や子供の理解を深めるための講演会等を開催。	R2～継続

【考察】

「ままカフェ」は保育所・保健センターと共催で１～２歳児の親子を対象にスタートした。栄養士，保健師と情報交換をしながら行っていたが，平成２７年度に保育所に関する事務を教育委員会に委任されたことを受け終了した。その後は，保育所と公民館で連携し未就学児の親を対象とした「ぽっぽクラブ」の運営を開始したが，コロナ禍のため休止となり再開時期を検討している。

七ヶ宿町では移住者も増えている中，これまで以上に親の交流・仲間づくりの場の提供が求められており，重点的に取組んでいく方向である。

【高齢者教育】

主な事業	内容	実施年度
豊齢者大学	高齢者が健康で明るい日常を過ごす知識と技術を習得することをねらいとしている。ニーズに応じたクラブ活動も実施している。 （R2 は新型コロナ感染防止対策のため中止）	～継続
Ｎｏ！ぽっち運動	高齢化が進む町で「町民みんなで高齢者を支え，だれもが安心安全に暮らせる町をつくる」ことをねらいとして，一人暮らし高齢者，高齢者のみの世帯を対象に町内の小～高校生が手紙を送る。社会福協議会や郵便局等と連携して会議を持ち，声掛け運動も行う。	H25～継続

【考察】

高齢化が進む中，各地区から高齢者が集まり，受講登録をして豊齢者大学とクラブ活動事業を実施している。クラブ活動は現在，「園芸」，「ディスコン」，「１・２・３お散歩クラブ」の３つが活動している。平成２５年度～３０年度は書道と陶芸も行われていた。働いている高齢者が多くなり，６０代～７０代の新規参加者が少なく，受講生は減少傾向にある。

Ｎｏ！ぽっち運動は，手紙をもらった高齢者が児童・生徒に向けた返事を書くケースもあり，高齢者と地域をつなぐ重要な活動となっている。令和３年度からは，高齢者が児童・生徒へ返事の手紙を送る支援事業もスタートしている。

【成人教育】

主な事業	内容	実施年度
地区ぐるみ講座	地区で抱える課題や地域の方々が学びたいテーマについて，地区と教育委員会が協力して講座を企画し，多様な住民の学びや地域課題解決の糸口とする。 （R2 は新型コロナ感染防止対策のため中止）	H23～継続
成人講座	町民の要望に応じた学習講座を開設し，地域に生活する成人のスキルアップや地域活性化，生きがい作りの一助となる講座を開催する。	～継続

【考察】

地区ぐるみ講座は，地区担当や各地区に設立しているまちづくり組織「地域づくり委員会」とも連携して実施している。ニーズに合わせた講座や地域づくりの活性化につなげる企画をするために，地域づくり委員会との意識共有を図っている。

成人講座は，アンケートを実施することで，ニーズに合ったテーマ設定や，地域の新しい人材を講師として起用することで，これまで参加の無かった比較的若い層の参加が増えてきている。

今後は，近年増加している移住者と住民が交流する機会を提供し，地域活性化につなげる方策が望まれる。

【女性教育】

主な事業	内容	実施年度
女性講座	女性を対象に豊かな人間性や生活を彩る知性を培うとともに，資質や能力の向上を図る。	～継続
婦人会館一日研修	保健連合会と共催してみやぎ婦人会館研修を実施する。 （R2 は新型コロナ感染防止対策のため中止）	～継続

【考察】

料理や健康づくりに関するテーマ設定が多く，継続的に女性講座を実施している。近年では地域おこし協力隊関連の移住者を講師として招き，工作をテーマにした講座も実施している。地域の人材が講師を務めることで，繋がりが生まれるだけでなく，これまで参加したことがなかった若い世代や移住者等，幅広い層の参加があり交流に広がりを見せている。

婦人会館一日研修は，保健連合会と共催で実施しているが，参加者の減少が課題となっている。

【協働教育】

主な事業	内容	実施年度
地域学校協働活動推進事業	学習支援活動として，地域人材活用事業や地域担当教員との連携を図っているほか，家庭教育支援，地域活動支援を実施。七ヶ宿町教育推進協議会が，地域学校協働本部として機能している。	～継続
七ヶ宿の歴史探訪	町の歴史を学び，町のルーツを知り地域愛を深め，人間性豊かな心を身につけるため，小学校の高学年を対象に社会科の授業に講師を派遣する。現在は「自慢の学校づくり補助金事業」の一環として実施されている。	H23～継続

【考察】

平成２４年度～２７年度は協働教育プラットフォーム事業を受託していた。

平成１４年度から完全学校週５日制となり，学校外で社会体験や自然体験の必要性が高まることを受け，町では平成１４年度より「七ヶ宿町教育推進協議会」（昭和６２年度～）の構成員をＰＴＡ会長，商工会長，体育協会長，社会福祉協議会等各種団体とし，町全体で町の生涯学習の推進教育に取り組む体制を構築した。

平成２８年度に町内小中学校がコミュニティ・スクールに指定され，協議会と連携しながら協働教育活動を推進している。

【スポーツ振興】

主な事業	内容	実施年度
宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭町内大会	管内ヘルシー大会予選を兼ねた，家庭バレーボール，ペタンク，グラウンド・ゴルフの大会。	～継続
町民体育大会	子供から高齢者まで広く町民が一堂に会し，楽しく運動やレクリエーションを行うことにより，体を動かす機運を高め，地区や年齢の壁を越えたコミュニティ醸成の場として開催する。 （H24 はねんりんピック，H30 は悪天候，R2 は新型コロナ感染防止対策のため中止）	～継続
グラウンド・ゴルフ大会 （体育協会主催）	小学生から高齢者まで，班編成してホールをまわる。交流しながらスポーツに親しむことを目的としている。	～継続
七ヶ宿ジャイアントスラローム大会 （ふるさと振興課）	小学生からマスターズまで，幅広い年齢層を対象とした町主催のスキー大会。	～継続

【考察】

町民体育大会や，町長杯グラウンド・ゴルフ大会等，町全体の大きなイベントは町民の交流・親睦を深める事業として継続して実施することが出来ている。

町民体育大会では，町内すべての地区対抗戦となるが，高齢化により選手の確保が難しい一面もある。今後，競技種目の変更や，新たなルール設定を視野に入れて検討する必要がある。

【視聴覚教育】

主な事業	内容	実施年度
視聴覚教材センターの活用	町としての主な取組は行っていないが，視聴覚教育指導員を中心に，視聴覚教材センターでの会議等への出席や，イベントに関わりながら，町内での周知等活用を促している。	～継続

【考察】

平成１６年度を最後に１６ミリ映写機操作技術講習会は終了し，その後は視聴覚教材センターの取組の周知や，連絡調整に留まっている。

【芸術文化振興】

主な事業	内容	実施年度
町学校音楽祭	町内の保育所～高校が一堂に会して合唱・合奏の発表を行う。観客として町民も参加し，児童・生徒と地域の交流の場となっている。 （R2 新型コロナ感染防止対策のため中止）	～継続
人形劇を楽しむ会	保育所と小学校低学年，その保護者を対象に人形劇を開催。	～継続
ふるさと祭り	趣味や芸能活動の成果を発表する場を設けるほか，地場産品の販売を実施。町政，福祉及び教育などに功労のあった方々の表彰式も行う。 （R2 新型コロナ感染防止対策のため中止）	～継続

【考察】

学校音楽祭は，担当校を決め，プログラムの作成やステージの運営等各校と連携して実施している。ふるさと祭りは，「町民まつり」や「山中七ヶ宿芸能発表会」，「地域の教育力を考える町民のつどい」，「ふくし祭」が合わさり実行委員会形式で開催している。現在はふるさとＬＩＶＥと題して文化協会の所属団体がステージ発表を行う貴重な場となっている。文化協会の所属団体は年々減少傾向にある中，新型コロナウイルス感染拡大の影響でさらに活動が縮小している。活動の周知や新会員募集への支援を検討する必要がある。

【文化財保護】

主な事業	内容	実施年度
水と歴史の館事業	考古資料・民俗資料・古文書資料等の歴史に関する資料や，水とダムに関する資料を収集・保管し，これらに関する企画展，特別展，歴史学講座を開催する。	～継続
保護・周知事業	史跡の指定，H28 に発掘した湯原館跡の環境整備，天然記念物大峰桜の環境整備，文化財標柱の立て替え等を実施。	～継続

【考察】

文化財の研究や行事は，水と歴史の館が主導となり実施している。令和元年度からは，水と歴史の館と公民館の館長が兼務となり，文化財や町の歴史の調査研究の時間の確保が課題となっている。文化財の専門職員が不在のため，発掘調査等を行う場合は県から協力をもらい実施している。

【情報化・国際化】

主な事業	内容	実施年度
国際交流事業	町内に住む外国人の方と町民が交流することにより，参加者が広い視点と前向きな目標を持つためのきっかけとすることをねらいとしている。また，外国人の方が町内で生活する上での不安や課題を解決する糸口としていくことを目指している。	H29，R2

【考察】

講座を通じて，外国人との交流ができ，他文化との違いを知ることでお互いに気づきがあった。町内に在住する外国人が増えてきており，町内で生活する中で課題解決のための支援等も必要性が高まってきている。

【生涯学習振興】

主な事業	内容	実施年度
ふくし祭･地域の教育力を考える町民のつどい	町民が幅広く集い，教育に関するテーマの講演会が実施されていた。	～H25
七ヶ宿町教育推進協議会	家庭教育，学校教育，社会教育の連携を図り，青少年の健全な育成と地域の教育力向上を目指し，協議や研修会等の事業を実施。	～継続

【考察】

平成２６年度以降，「ふくし祭・地域の教育力を考える町民のつどい」が「ふるさと祭り」に一本化している。七ヶ宿町教育推進協議会を中心に、地域と連携した教育力向上・生涯学習振興を推進している。

【防災教育】

主な事業	内容	実施年度
防災関連講座	女性講座の中で，防災グッズの作り方や，防災に役立つ収納術を学んだ。	～H24，R1

【考察】

講座の中で防災の話題を取り扱うことはあっても，防災担当課が中心となって，訓練等に取り組んでおり防災メインでの事業は実施していない。

【読書活動推進】

主な事業	内容	実施年度
図書担当者打合せ会	小・中学校，まちづくり株式会社，公民館で連携し，図書利用の促進や図書教育についての会議。	R2～継続
本読み応援隊への支援	保育所と小学校に出向き読み聞かせを行うボランティア団体（本読み応援隊）の支援と養成支援を行う。 （R2 新型コロナ感染防止対策のため中止）	～継続

【考察】

平成３０年度に公民館図書機能が町の交流施設へ移設されたことをきっかけに，学校等と協力して読書推進のための取組をスタートしている。子供だけでなく，町民全体の読書推進を図るため，担当者打合せ会の中で令和３年度スタートの読書通帳やスタンプカードの発行等を企画した。また，必要に応じて研修会を実施している。

本読み応援隊は，メンバーの減少により，新たに養成支援が必要である。

【年表】

年度	項目
H23	・湯原保育所　閉所 ・「ふくし祭・地域の教育力を考える町民のつどい」が「七ヶ宿ふるさと祭り」に編入
H24	・湯原保育所が関保育所に統合 ・「ねんりんピック宮城・仙台２０１２」グラウンド・ゴルフ交流大会開催
H25	・第 15 回米・食味分析鑑定コンクール：国際大会【小学校部門】関小学校金賞受賞 ・FIS グラススキー世界選手権開催 ・湯原小学校，関小学校　閉校
H26	・七ヶ宿小学校　開校 ・鹿児島県宇検村交流事業開始
H27	・機構改革により「社会教育係」から「学び支援係」へ係名変更
H28	・七ヶ宿小学校，七ヶ宿中学校をコミュニティ・スクールに指定 ・七ヶ宿中学校タブレット学習開始
H29	・賑わい拠点施設なないろ広場に「ミニスーパー」オープン ・町制施行 60 年 ・鹿児島県宇検村と友好都市提携協定締結式 ・「湯原城跡」町指定文化財　指定 ・文化財調査報告書第５集「湯原城跡」発行
H30	・七ヶ宿まちづくり株式会社設立 ・賑わい拠点施設なないろ広場に「多目的交流棟 Book&Cafe こ・らっしぇ」「ガソリンスタンド」オープン （Book&Cafe こ・らっしぇ内に公民館図書機能を移設） ・旧湯原小学校校舎を改修し，ふるさと体験交流館「街道 HOSTEL おたて」オープン
R1	・青少年のための宮城県民会議　在学青少年社会参加活動善行団体として 七ヶ宿町ジュニア・リーダーズサークルぽっぽ組が受賞 ・賑わい拠点施設なないろ広場に「日帰り入浴施設 wood&Spa や・すまっしぇ」オープン ・便利屋商店移動販売開始
R2	・町民プール終了 ・南蔵王青少年旅行村が「七ヶ宿町南蔵王やまびこの森」としてリニューアルオープン ・文化財調査方報告書第６集「桧木沢遺跡ほか」発行

大 河 原 町

大　河　原　町

【少年教育】

事業名	内容	実施年度
ジュニア・リーダーサークル「さくらっ子」の育成	ジュニア・リーダーの活動に対し，指導・助言を行い育成に力を入れている。月１回の定例会で計画・立案を行い，会員のスキルアップのための研修も開催。年度末には小学生を対象に，自主企画事業を実施している。	S46～継続
ジュニア・リーダー初級研修会	ジュニア・リーダーに必要となる基礎的な知識・技術・態度を身に付けることを目的とし，集中的かつ効果的な研修を１泊２日で行っている。（R2，R3 はデイキャンプで実施）	S50～継続
ジュニア・リーダーキャンプ研修会	ジュニア・リーダーに必要となる野外活動等の技術習得を目的とする。	S50～H29
ジュニア・リーダー派遣事業	子ども会育成会協議会と連携し，地区子ども会や児童館へジュニア・リーダーの派遣を行い，行事活動支援を行っている。	S50～継続
インリーダー研修会	地区子ども会活動等を牽引する小学 4～6 年生を対象として実施。 野外活動等を行い，主体性・自主性の養成，知識・技術の習得を目的として開催。	H10～継続
親子昆虫教室	H27 より中央公民館事業へ移行。 昆虫に関する学習，自然体験教室を実施。	H10～継続
小学生書き初め（毛筆）練習会	中央公民館主催事業。講師による書き初め（毛筆）の指導を行う。	～継続
ちびっこ公民館	金ケ瀬公民館主催事業。 科学教室，親子参加型事業等。	～継続 （R2，R3 中止）
こども夏まつり	金ケ瀬公民館主催事業。地域住民の参画により開催。模擬店，ステージショー等。	H2～継続 （R2，R3 中止）

【考察】

近年，単独行動化が進み集団活動が苦手な小中学生が増加している中，ジュニア・リーダーの重要性はますます高いと捉えている。地区子ども会への派遣をとおしての事業支援や，小学４年生から６年生を対象として行っているインリーダー研修会での指導助手活動は，参加している小学生の自主性・協調性・自己肯定感を醸成するのに大いに役立っている。ジュニア・リーダー会員も活動をとおしてスキルアップしており，まさに子供と子供を繋ぐ架け橋と言えるだろう。しかし，ここ２０年でジュニア・リーダーの会員数が半減していることから，今後，会員が増加するための対策が課題となっている。

親子昆虫教室，ちびっこ公民館，こども夏まつりの事業は，それぞれ特色ある事業内容であり，参加した親子がコミュニケーションを取りながら楽しく活動できる事業として開催している。

【青年教育】

主な事業	内容	実施年度
成人式（成人式実行委員会）	新成人の中から 10～15 名で実行委員会を立ち上げ，式典の運営を行っている。実行委員は，受付，司会，代表の“二十歳に思う”発表，恩師からのメッセージ動画を上映。	～継続
大河原町青年会『Smile@逢河原』	H20.2 に仙南青年文化祭を大河原町で開催。そのとき参加した大河原町の青年が H20.4 に大河原町青年会「Smile@逢河原」を結成。大河原町青年会は，通年で活動している。これまでの主な活動事業内容は，仙南青年文化祭への参加，桜まつりにおけるエコリサイクル活動，寺の本堂でのコンサート，寺の墓地を借りての夏休み親子きもだめし，オータムフェスティバルでの出店活動，ふるさとＣＭ大賞作品出品，佐藤屋プロジェクト企画展支援，自主企画移動研修など。（R2，R3 は新型コロナの関係で活動縮小）	H20～継続

【考察】

成人式は，新成人で実行委員会を組織し企画から当日の運営まで担っていただいている。実行委員が関わっている成人式は手作り感満載であり，実行委員はじめ新成人の参加者からも達成感を感じ取れる。受付，司会，代表の“二十歳に思う”発表，恩師からのメッセージ動画を上映など，式典は短時間だが内容は充実していると言える。

大河原町青年会「Smile@逢河原」は令和３年度で結成１３年目を迎えている。青年会員は常に事業に参加してくれる町民の満足度が上がるよう企画・運営をしている。令和２年度と令和３年度は新型コロナの影響から活動を自粛している状況であるが，今後，活動の再開と更なる活躍が期待するところであり，生涯学習課はできる限りの支援を行っていく予定である。

【家庭教育】

事業名	内容	実施年度
子育て親育ち講座 就学時健診時家庭教育講座	町内保育園・幼稚園・児童館・児童センター・小中学校における保護者の参集機会を活用し，子育て親育ち講座を開催。内容は，家庭教育の向上に繋がる講座・実習・情報提供等実施している。	～継続
子育てサポーター養成講座	家庭教育の立場から子育て支援を行う「子育てサポーター」の養成を実施。講座や実習をとおし，親世代を地域全体で支援する意識の醸成に繋げる。また，子育てサポーター「笑（えみ）」との協力体制を取り実施している。	～継続

【考察】

子育て親育ち講座については，多くの参加者が集まる機会に家庭での子育ての中で，親が気づいてほしいこと・身に付けてほしいことをテーマに実施。就学時健診時の家庭教育講座については，家庭教育手帳の活用と保護者の心構えについて学習機会を提供しているものであり，今後とも継続して実施する必要がある。

子育てサポーター養成講座は，毎年参加者が数名単位ではあるが，人材育成を図ることが重要と捉え，今後も継続して実施していく予定である。

【女性教育】

主な事業	内容	実施年度
婦人団体の育成・援助	大河原婦人会の運営を援助し，団体活動の活発な継続を支援する。 町からの活動推進補助金の交付。研修会への支援。	～継続

【考察】

ここ１０年間で町内の単位婦人会が縮小や解散するところがあるが，町全体としての大河原婦人会は存続しながら活動を続けている。本町としても婦人会の活動の重要性を強く受け止めていることから，今後も継続した支援体制をとる必要がある。

【高齢者教育】

主な事業	内容	実施年度
福祉施設慰問事業	老人福祉施設を慰問し文化芸能を発表。町内施設の桜寿苑，さくらの杜を1年おきに訪問している。	～継続 （R2，R3 中止）
ゆうゆう学園	中央公民館主催事業。 演芸講話，健康いきがい講話，防犯講話，終活講話　など 4～5 回の講座。	～継続 （R2，R3 中止）
ゆうゆう学園課外講座 「楽しみ倶楽部」	郷土史，唱歌，パソコンなど。趣味を生かした自分力アップ講座を開催。	～継続 （R2，R3 中止）

【考察】

合唱団体と文化芸能団体が老人福祉施設を毎年訪問し，発表を行っている。老人福祉施設の入所者からは大変喜ばれている事業であり，今後も継続して実施予定である。

合唱団体のカトレアコーラスが令和元年に解散したことにより，大河原婦人会コーラス部にお願いし対応している。また，文化芸能団体は，町指定無形民俗文化財の小山田やすとこにお願いをしているものである。

ゆうゆう学園・ゆうゆう学園課外講座は，約５０名の申し込みがあり，高齢者に大変人気の講座である。令和２年度と令和３年度は新型コロナの影響から講座を中止しているが，高齢者の楽しみ・生きがいを支援することが重要と考え，コロナ収束次第，講座の再開を考えている。

【視聴覚教育】

主な事業	内容	実施年度
土曜アニメ映画会	中央公民館主催事業。大ホールを会場としたアニメ映画等の上映会を実施。	～H29

【考察】

以前は，１６ミリ映写機による上映会を実施していたが，現在はＤＶＤメディアによる映画上映を行っている。１６ミリ映写機は“映画会”という雰囲気がとても高いが，作品メニューを選択するうえで視聴覚教材センターが保有している最新作はほとんどがＤＶＤのため，現在はＤＶＤ動画による映画会として実施。とはいえ，大型スクリーンに映し出される映像は，テレビで見るのとは比較にならないほどの迫力感があるため，今後も継続して実施を考えている。

【協働教育】

主な事業	内容	実施年度
学校教育支援ボランティア事業	学校支援ボランティアバンクの管理運営を行う。町内小中学校の支援要請に応じ，講師・ボランティア派遣を実施する。	～継続
中学生の子育て理解講座（妊婦体験学習）	家庭科の学習支援として実施。町保健師による講義，沐浴人形を使用したおむつ替え体験，妊婦シミュレーターを装着しての妊婦体験。	～継続
職場体験学習	主に中学２年生を対象とする。町内事業所等に対し，生徒の受け入れに関する意向調査を行う。各店舗等における人数，負担等を考慮。	～継続（R2 中止）
職業人に聴く会	中学１年生を対象とする。様々な分野の方々から講話等をいただき，進路選択の意識及び関心を高め，職業観を磨く機会とする。各学校からの要請に応じ，就業者への依頼及び連絡調整等を行う。	～継続
放課後子供教室	放課後の時間を活用し，地域住民との交流や多様な活動プログラムをとおし，登録小学校児童の安心安全な環境づくりを行う。	～継続
地域学校協働本部	地域と学校が連携・協働する地域学校協働活動の組織的，継続的な推進を図ることを目的としてネットワーク会議を開催。	R2 新規設立 ～継続

【考察】

学校教育支援事業については，各学校との連携を図り，支援ボランティアバンクの整備・活用を通じ，普及・啓発活動を展開している。学校のニーズに合わせた派遣及び活動について，適切な評価と検証が継続課題となっている。

大河原町地域学校協働本部の新規立上げにより，より多くの地域住民や団体等の参画，活動のネットワーク化が期待される。協働教育に係る組織的な目標及びビジョンの共有を図り，地域における包括的な事業展開を今後も目指していく。

【スポーツ振興】

主な事業	内容	実施年度
町民レクリエーション大会	健康増進と親睦を目的として，町内行政区からチームをエントリーしていただき大会を開催。大会種目は，ソフトボール，ビニールバレーボール，ペタンク，グラウンド・ゴルフの４種目である。	～継続（R2，R3 中止）
夏休み小学生スポーツ大会	夏休み期間におけるスポーツに親しむ機会の創出により，スポーツ人口の拡大と小学生の体力増進に寄与し，地区内外の交流・親睦を通じて，小学生の健全育成に資することを目的として開催。種目は，長なわとび，10 人 11 脚競走の２種目である。	～継続（R2，R3 中止）
おおがわら町民学園 健康まつり	町内の全行政区の住民が一堂に会し，町内行政区対抗による各種競技スポーツや健康に関するレクリエーション内容で開催。参加者：約 4,000 人	H27
大河原クロスカントリー大会	これまで 46 回開催している大会であり，本町における最大の陸上大会である。選手は，幼児から高齢者まで幅広い年代層の大会として開催。	～継続（R2，R3 中止）
町体育協会との共催 及び後援事業	各種スポーツ大会 ※新型コロナウイルス対策のため，令和２年度は中止多数	～継続（R2 中止）
スポーツ振興基金の活用	本町ではスポーツ振興基金を国民体育大会や全国大会に出場した大河原町民へ報奨金を贈呈している。	～継続
行政区スポーツ・レクリエーション活動奨励事業	町内各行政区がスポーツやレクリエーション活動と通じて，融和と親睦を目的に活気ある地域づくりのため，各行政区が行ったスポーツ・レクリエーション活動に助成を行っている。	～継続（R2 中止）
学校体育施設開放事業	町内小中学校５校（小学校３校，中学校２校）の学校体育館，グラウンド，武道場を，町内で活動している団体が利用登録をして利用するもの。また，それに伴い，年１回学校体育館の一斉清掃を利用団体が行っている。	～継続
スポーツ推進委員活動事業	スポーツ振興事業に係る運営や指導助言を行い，スポーツ活動の推進に努めている。また，各行政区からのニュースポーツ活動の要請に対し，地区スポーツ協力員と連携の上，指導も行っている。	～継続
金ケ瀬公民館長杯ゲートボール大会 金ケ瀬地区家庭バレーボール大会 金ケ瀬地区ペタンク大会	金ケ瀬公民館主催事業として実施。金ケ瀬地区民の親睦と体力増進を目的として開催している。	～継続（R2，R3 中止）

【考察】

行政区民の繋がりが薄れていると言われている近年，人と人が，認めあい・支えあい・活かしあうことで住民自治の繋がりを再構築できるよう，町民レクリエーション大会，行政区スポーツ・レクリエーション活動奨励事業を引き続き推進することが重要である。また，夏休み小学生スポーツ大会は，夏休み期間に小学生の体力増進と地区内外の交流・親睦を通じて，小学生の健全育成に資するため，今後も開催すべき事業と捉えている。

学校体育施設開放事業における，団体利用の仕方に多少の問題が生じる場合がある。今後，利用に対し，使う側と教育委員会が理解を深めることが必要と捉えている。

スポーツ推進委員は，本町スポーツ推進に大きく寄与している。更にスポーツ人口の増加を図るため調整をしていきたい。

【芸術文化振興】

主な事業	内容	実施年度
各種文化団体による定例展示会・発表会等	・町文化協会所属団体等への活動支援「発表・展示」 ・町民文化祭の開催（中央公民館・金ケ瀬公民館） 舞踊，民謡，展示，洋楽，ダンスパーティー，スクエアダンス，お茶会 子ども短歌・俳句・川柳展	～継続 （R2，R3 中止）
みやぎの文化育成支援事業「青少年劇場小公演，巡回小劇場」	町内小中学校の児童・生徒に芸術文化を身近で鑑賞する機会を提供。会場は仙南芸術文化センターで実施している。	～継続 （R2，R3 中止）
短歌の文人・佐藤佐太郎展	中央公民館主催事業として開催。大河原町出身の歌人，佐藤佐太郎のヒストリー，文献や，作品を展示し広く町民に公開している。	～継続

【考察】

大河原町文化協会へ事業活動支援を行い，町内文化団体の育成を図っている。また，町民文化祭は文化協会と中央公民館・金ケ瀬公民館が共催で事業実施している。

みやぎの文化育成支援事業は，生の芸術を身近で触れてもらうため，毎年開催している。町内小中学校の学年を固定した形で毎年開催。（大小６年，金小６年，南小５年，大中１年，金中１年）

佐藤佐太郎は現上皇后美智子様に短歌を指導した歌人であり，その業績や作品の数々を毎年展示し，地元出身の文人を町民に紹介している。今後も継続して展示会を行っていく予定である。

【文化財保護】

主な事業	内容	実施年度
文化財講演会	大河原町文化財友の会と生涯学習課の共催事業として，文化財に関する講師を招き，様々なテーマによる文化財講演会を実施。	～継続 （R2，R3 中止）
町民文化財めぐり	町内や，近隣各地の文化財を訪ね，郷土史等への関心を持っていただくことを目的に開催。	～継続 （R3 中止）
民俗資料収蔵室の活用	・施設見学受入（町内小中学校，一般町民），　・民族資料収蔵室一般公開 ・町内小学校における社会科見学への活用，　・収蔵品貸出 ・民族資料企画展，　・収蔵台帳整備　※令和３年度中に解体予定。	～R2
民俗資料収蔵室解体事業	令和３年２月の地震により民俗資料収蔵室の躯体が危険建物と判定されたことにより，令和３年度中に解体するもの。収蔵されていた歴史的資料については，保管するため別の施設にすべて移動したもの。	R3
文化財防火デーに伴う防火査察，消火訓練の実施	指定文化財の所有者に対し，防火施設の査察及び消火訓練を実施。 毎年１月第３日曜日に実施。（大高山神社，繁昌院）	～継続
埋蔵文化財包蔵地調査	県教育委員会委嘱の文化財保護地区指導員による埋蔵文化財包蔵地の現状把握を目的とした遺跡調査を毎年５ケ所実施。	～継続
無形民俗文化財団体への補助事業	大河原町指定無形民俗文化財の堤神楽と小山田やすとこに事業推進補助金を交付し無形民俗文化財の保護に努める。また，小山田やすとこは，年１回社会福祉施設等へ民俗芸能披露のため訪問事業を行っている。	～継続
史跡標柱，史跡説明板設置事業	町内の文化財の標柱を年度計画で取替や設置を実施。更には，主だった史跡や文化財の史跡説明板を設置している。	～継続
町史デジタル化事業	これまで編纂した紙ベースの大河原町史・通史編，諸史編，通史続編，年表をデジタル化し資料の保存に努めた。	R2

【考察】

広く町民に文化財への興味・関心を持ってもらい，先人たちが残した歴史的文化遺産を町民が学習できる環境づくりに努めた。

文化財講演会，町民文化財めぐりは，貴重な文化財を町民に再確認・再認識していただくため，今後も継続する必要性があると捉えている。また，民俗資料収蔵室は，令和３年２月の地震により躯体が危険建物と判断されたため，解体という形になったが，建物そのものが昭和５年建造の小学校校舎であり，歴史的価値が高いものであり，やむなく解体となるものである。収蔵品は別の建物に移設しているが，早期に展示できる形態で町民に公開ができるようになることが今後の課題と言える。

無形民俗文化団体の２団体（堤神楽，小山田やすとこ）は，後継者不足が大きな課題となっているため，町教育委員会として支援を強化すべきと捉えている。

町史は，最後に通史続編が作られてから１８年経過しており，その後２０年分の町史を作成しなければならない時期と捉えており，これから作成に向けた準備が必要となっている。

【生涯学習振興】

主な事業	内容	実施年度
明日の青少年を育てる会事業役員会，明日青のつどい	健全な青少年育成のために，家庭，学校，地域，及び関係機関が連携や協力をしながら，町ぐるみで一体となり実践活動を展開している。 また，“明日青のつどい”を開催し，小中学校の児童生徒から教職員，保護者が集い意見交換，発表を行っている。	～継続

生涯学習ガイドの発行	毎年４月 15 日と９月 15 日の広報おしらせばんが全戸配布されるのに合わせ上半期，下半期の生涯学習事業案内を町民に周知している。	～継続
生涯学習情報紙「キャンバス」の発行	毎年３月に，その年度に実施した生涯学習事業活動を広く町民に周知している。	～継続

【考察】

“明日青のつどい”では，明日を担う青少年の健全育成に関わる学校・家庭・地域の関係者が一堂に会し，町ぐるみで青少年を取り巻く諸問題について研究を深め，情報交換を行った。小中学生や高校生が地域の方々に自分の思いや考えを伝える体験活動をとおして，これまでの生活を振り返るとともに，自己肯定感を高められた。

【読書活動推進】

主な事業	内容	実施年度
お話し会	ボランティアと司書による，絵本や紙芝居の読み聞かせ，手遊びなどを実施することにより，本への興味を育て，読書習慣を育む。	H12～継続
配本定期便	約２ケ月周期で町内保育所，幼稚園へ図書資料を貸出及び運搬する。子どもが幼いころから自ら読書を楽しむ習慣を身に付けていけるよう，読書に親しむ機会の提供を行い，読書環境を整えるもの。	R3～継続
雑誌リサイクル	一定の期間が経過したバックナンバーを無償配布し図書館の利用促進を図る。	～継続
プラネタリウム おおがわら星空さんぽ	講座開催当日の星空の上映と解説，星座や星のお話しなどを実施。自然科学についての学びと教養の場を提供する。合わせて読書に親しむきっかけをつくる。	H29～継続
絵本と学びのへや	駅前図書館の分館として H29.10 にリニューアルオープン。分館はナチュラルカラーの木製の家具を使用しているので木の香り気持ちよく，温かみも感じられる。「絵本ふれあいエリア」，「絵本読み聞かせエリア」，「ベビーエリア」，「学びエリア」の４つに分かれていて，絵本の読み聞かせとミニシアター，室内星空ウォッチングも楽しめ，授乳・おむつ替えスペースも完備。また，学びの部屋は学習スペースとして防音ガラスで仕切られ静かな環境で個人の読書や学習ができる。	H29～継続
放送大学宮城学習センター 大河原視聴学習室	学びエリア内では放送大学宮城学習センターと連携し，放送大学生が希望する放送教材（ＤＶＤ・ＣＤ）の提供を受け，放送大学生へ視聴・貸出及びネット視聴も実施し学びの場の提供を行っている。（放送大学生以外の方も学びエリア内放送大学視聴ブースで放送教材の視聴可能）	H30～継続
本の木	来館者（子ども）から寄せられた季節の行事に因んで記入してもらったカード等を，壁に配置した「本の木」に飾り付けしている。	R2～継続
こども読書週間	R1 からはこどもの年代を４区分に分け，本のお楽しみ袋を作成。普段，手に取らない本との出会いで読書の幅を広げてもらうため実施。	～継続
読み聞かせ ボランティア研修	駅前図書館読み聞かせボランティアを対象に，育成とさらなる資質向上のため読み聞かせ等の基礎知識と技能の習得を図るため実施。	～継続
新小学１年生 図書利用カード作成案内	利用カードの申請を通して，読書や調べ学習の大切さを学校・家庭・図書館が連携して働きかける。内容は町内の新小学１年生とその家族を対象に，学校経由で利用カード登録の申請案内を配布し，後日，利用カードを配布。	H16～継続
夏休み絵本のつどい	お話し会拡大版と，参加して体験できる手作り工作講座を実施し，図書館に親しんでもらえる機会とする。	H15～継続 （R2，R3 中止）
読書週間 マナーアップキャンペーン	継続で行っているが，R1 からは本のお楽しみ袋６区分作成。本との新たな出会いを願いおすすめの本を取りまとめる。また，来館者に葉っぱ型のカードを配布しおすすめしたい本のタイトル等を記入，壁に配置した「本の木」に貼ってもらう。	～継続
点字本とふれあいフェスティバル～さわってみよう！…みんなで体験～	館内の点字資料，大河原町福祉協議会等貸出によるユニバーサルデザインの展示及び体験等による様々な催しによりボランティアの存在の認知と視覚障害者への理解を深めるもの。	H30～継続
紙芝居リレー	「世界 KAMISHIBAI の日」にちなみ，ボランティアと司書で休みなくリレー形式で紙芝居を演じる。	R3～継続
お正月の遊びとお話し会	お正月という季節にふさわしい読み聞かせや紙芝居・手遊び，正月の遊びを行う。図書館に親しんでもらえる機会とする。	H16～継続 （R2 中止）
読み聞かせ講座	町内学校図書館関係者，読み聞かせボランティア及び当館ボランティア・司書を対象とし，更なるスキルアップのため開催。	R2～継続
ブックスタート参加	４ケ月・１歳６ケ月検診と合わせて行う大河原町社会福祉協議会によるブックスタート事業の際に，図書利用者登録申込書と図書館利用案内及び主催事業チラシの配布を行い，図書館利用促進を図る。	～継続

【考察】

ＩＣＴが促進されてきたことにより，書籍離れの傾向が高まっている。主催事業を更に創意工夫して各種主催講座を実施し，利用促進につなげることが必要である。これからも，テレビ・インターネットの普及や子どもの生活環境の変化による「読書離れ」の改善を図るため，読書活動の推進を行っていく。

【年表】

年度	項目
H23	・「大河原町プラットフォーム事業協議会」設置 ・大河原町観光物産協会イメージキャラクターが「さくらっきー」に決定 ・東部屋内運動場東部グラウンドの利用開始 ・全日本ギターコンクールで 6 年連続最優秀賞の大商ギター部と，全国高等学校生徒商業研究発表大会で優秀賞の商業研究グループの生徒が役場へ表敬訪問 ・平成 23 年度仙南地域文化祭・第 28 回仙南長持唄大会 ・町立不動保育所の閉所式
H24	・台風 4 号で町内に浸水，倒木，冠水等の被害 ・デマンドタクシー「さくらっきー号」の運航開始 ・ハローワーク大河原がオーガ 1 階へ移転 ・町内各施設で総合防災訓練 ・大河原中学校生徒会有志による「復興支援特別委員会」が「第 16 回ボランティアスピリット賞「北海道・東北地区コミュニティ賞」を受賞 ・中央公民館で大河原町文化協会創立 40 周年記念式典 ・国道 4 号バイパス金ケ瀬地区拡幅開通記念式典
H25	・金ケ瀬さくら大橋・大谷こ線橋開通式 ・みやぎ県南中核病院増築棟完成記念式典 ・役場 1 階ロビーで第 1 回ロビーコンサート ・金ケ瀬中学校に愛知県岡崎市立竜南中学校の生徒が訪問し交流会 ・町と町内 4 郵便局との間で「安心生活見守りに関する協定」が締結 ・役場で「第 1 回子ども・子育て会議」 ・東日本広域で記録的な大雪，町内でも交通の乱れや休校，ビニールハウスやカーポートの倒壊などの影響
H26	・役場正門前で町内では初となる衣類等回収事業を実施 ・広表 1 号公園で広表土地整理事業の完工記念碑除幕式が開催 ・金ケ瀬中学校に愛知県岡崎市立竜南中学校生徒が防災・減災の話し合いのために来校。防災絆宣言を両校で交わす ・橋本交流センター落成式 ・デマンドタクシーに電気自動車を導入に関して中央タクシー(有)との調印式 ・東日本広域における大雪被害 ・世代交流いきいきプラザ開館 ・仙南夜間初期急患センター開所式 ・金ケ瀬さくら大橋下流右岸堤防に桜の苗木 130 本以上を植える記念植樹祭 ・大河原夜間初期急患センター診療開始 ・役場敷地内に電気自動車充電設備を設置
H27	・大河原小学校が仙台大学の連携校に指定 ・台風 18 号の影響で大雨特別警報が発令，町内で浸水・冠水被害 ・県庁で行われた県教育委員会主催の「算数チャレンジ大会」で大河原小学校代表チームが優勝 ・おおがわら町民学園「健康まつり」開催 ・役場正面玄関前で「電気自動車活用事例創発事業」に基づく電気自動車の車両貸与式 ・金ケ瀬中学校で完成した新体育館の引き渡し式
H28	・えずこホールでＮＨＫラジオ「民謡をたずねて」の公開録音 ・町ＰＴＡ連絡協議会より「ゲーム・携帯・スマホのよりよい使い方」プロジェクトにおける「おおがわらルール」の周知のため寄贈された懸垂幕の掲揚式 ・南小学校にイギリスのエスコム小学校生徒児童 6 名と教員・保護者 6 名が来校し交流 ・えずこホールを会場に「仙南青年フェスティバル 2017 inおおがわら」が開催。 ・総合体育館で「歩いて健幸システム」オープニングイベント
H29	・「大河原町地域学校協働推進事業」へ名称変更 ・役場組織体制について，町民生活課，地域整備課，税務課，子ども家庭課の一部係の統合，業務変更等を行った。 ・大河原町ご当地ナンバープレートの交付開始 ・大河原公園スケートパークがオープン ・駅前図書館の「絵本と学びのへや」がリニューアルオープン ・金ケ瀬カトリック保育園が新園舎に移動
H30	・広報おおがわら 600 号達成 ・大河原町にぎわい交流施設がオープン ・駅前広場でさくらっきーの石像除幕式
R1	・新大河原町学校給食センター開所式 ・台風 19 号の影響で大雨特別警報が発令，町内で冠水・浸水被害が発生 ・フレスコ株式会社より大河原町にプログラミング教材が寄附
R2	・6 月 1 日，新型コロナの関係で町内小中学校が 3 か月ぶりの再開 ・佐藤屋プロジェクト結成 10 周年を記念し製作された「奥州街道　大河原宿と金ケ瀬宿」が役場と教育委員会に計 300 部が寄贈 ・児童生徒用タブレット端末等を 1 人 1 台整備 ・「大河原町地域学校協働本部」新規設立

村　田　町

村　田　町

【少年教育】

主な事業	内容	実施年度
サイエンスクラブ	自然のもの・現象，ものの性質，力や光，電気などの科学の基本要素を楽しく学ぶことができる実験や創作活動をとおし，科学への興味・関心を高め，科学的なものの見方や，考え方を養う。	～継続
野外活動体験事業 （夏･春の子ども村キャンプ 等）	自然体験活動をとおして，自主性，責任感，協調性を育むとともに，参加者同士の交流を図る。	～継続
お祭りに参加しよう （布袋まつり引手）	昔から伝わる地域の風習や芸能といった「伝統行事」を実際に体験することで郷土の祭りに愛着を持たせる。	～継続
マボック発表会	ジュニア・リーダーが子どもたちへ自ら企画する手作りの楽しいクリスマス会をプレゼントする。また，共通の目標に向かって一丸となり活動することにより，自主性や協調性を養う機会とする。	～継続
文化体験事業 （七夕飾りづくり，小正月行事体験 等）	年中行事や民俗芸能について，子どもたちが体験しながら学習する機会を提供し，郷土の伝統文化に対する興味関心を高め理解を深める。	～継続
イキイキ楽習ポイント事業	小学生を対象に実施する体験事業や学習講座に「楽習ポイント」を設け，楽しく学べる学習機会を提供することで子どもたちの学ぶことへの動機づけや意欲の向上を図る。	H28～継続
防災キャンプ	東日本大震災や異常気象による自然災害を教訓に，防災に対する知識を身につけ，命を大切にし，たくましく生きる力を育む。	R1～継続
発見合宿	宿泊体験をとおして子どもたちが自由に集い交流できる機会をつくり，その中で新しい出会いや楽しみを発見していく。	R1～継続
天体観測講座	天体観測をとおして，月，太陽，星座などの基礎的な天文の知識を幅広く学習し，科学への興味・関心を高め，科学的なものの見方や考え方を養う。 ※H31 以降はサイエンスクラブと統合	～H30
サイエンス教室	東日本大震災に際し，被災地の子どもたちに対してサイエンス教室を実施したいという岐阜県のＮＰＯ法人からの申し出を受け，子どもたちの科学に対する興味・関心を高めることを目的として実施。	H23～H24
ジュニア・リーダー初級研修会	ジュニア・リーダーとしての基礎知識を学ぶ。	～継続
秋季研修会	ジュニア・リーダーが自ら資質向上を目的に研修を行う。	～継続
冬季研修会	ジュニア・リーダーが企画実施する「マボック発表会」に向け，研修を行う。	～継続

【考察】

自然や地域文化などに触れる体験活動をとおして，学ぶことの楽しさや豊かな心と社会性を育む少年教育事業を展開している。また，ジュニア・リーダー活動をとおして，青少年リーダーの育成及び青少年の社会参加を促進する地域ボランティア活動の充実に努めている。

【青年教育】

主な事業	内容	実施年度
ヤングカレッジ （青年講座）	青年たちの体験活動をとおして親睦を図り，ネットワークづくりを推進する。	～H30

【考察】

青年講座は平成３０年度を最後に行っていないが，青年教育事業としては，仙南青年文化祭に参加することで地域活動への参加・参画に対する意識の高揚を図っている。

【家庭教育】

主な事業	内容	実施年度
家庭教育学級	子育ての中心である家庭教育の向上を目指し，保護者向けの学習の場を提供する。また，子どもとのふれあいや保護者同士のつながりをとおした，よりよい子育て環境づくりに努める。	～継続
家庭教育出前講座	家庭教育の推進及び生涯学習ボランティアの活用を目的とした講座の開設。 ※H29 以降は「むらたっ子応援団事業におけるボランティア派遣」として継続	～H28
子育て・家庭教育セミナーin 村田	協働教育事業における「家庭教育支援事業」の一環として，生・性・食をテーマとした講演会を実施。	H27

【考察】

保護者の学びの場として家庭教育学級を開催し，毎年様々な切り口からテーマを取り入れることとしており，充実した子育てや家庭教育につながる機会となっている。また，事業実施の際には，子育て支援関係機関との連携を重要視している。平成２７年度に健康福祉課や子育て支援課等と連携して

開催した「子育て・家庭教育セミナーin村田」では，保護者のみならず，地域住民を参加の対象とすることで，地域で取り組む子育て支援について考える貴重な機会となった。

【高齢者教育】

主な事業	内容	実施年度
むらた庭木剪定講習会	趣味やボランティア活動に活かせる庭木選剪定について，実技をとおして技術や知識の習得を図る。	～継続

【考察】

成人教育同様，高齢者の生きがい発見や自己実現につながる事業として，毎年庭木剪定講習会を開催している。ボランティア養成（協働教育事業）の位置づけとしても実施しており，教養を深める機会を提供している。

【成人教育】

主な事業	内容	実施年度
むらた本の読み聞かせ研修会	実技をとおして本の読み聞かせ等の基本的な技術や知識を習得する。また，むらたっ子応援ボランティアの研修の一助とする。	～継続
成人式	成人者の新しい門出を祝福するとともに，その喜びを分かち合い将来の限りない活躍を祈念し，式典を開催する。また，新成人による実行委員会を組織し，アトラクション等の検討を行う。	～継続
成人講座	学習や体験活動等の機会を提供するとともに，世代間交流やネットワークづくりを推進する。	R1～継続
トークフォークダンス	対話型ワークショップ「トークフォークダンス」をとおして高校生と地域の交流を図り，参加者のコミュニケーション能力の向上や新たな価値観の発見につなげる。また，むらたっ子応援ボランティアの研修の一助とする。	R1～継続
パソコン講習会	パソコンの基本的な操作方法を学び，パソコンを有効に活用するための知識や技能を学習する。	～R1
郷土（むらた）を食べよう	豊かな緑と水に恵まれた自然の下で先人からはぐくまれてきた地域の産物を活用し，食に関する意識を高め，「食」に関する知識と「食」を選択する力の習得の一助とする。	H26
男の料理教室	男性を対象とし，参加者の交流を深めながら料理を学ぶ。	H23～H25
家系図作成講座	過去の歴史や生活因習と家系図の関係性を学ぶとともに，具体的な家系図の書き方について学ぶ。	H25
新春顔合わせ会	町内各企業や団体などの代表者等を対象に，新春の顔合わせ（交流）の場として実施。 ※H25～総務課へ所管移行	～H24
ノルディックウォーキング講座	ノルディックウォーキングを基礎から学び，文化史跡を見学する。	H23～H24

【考察】

成人を対象に，生きがい発見や自己実現につながる学習講座等を実施し，多くの参加者の興味・関心を広げる取組を行っている。また，公民館を拠点とした，町民ニーズに合った多様な学習活動を展開している。多様な内容の講座等を開催することにより，幅広い年齢層の方が参加している。

【女性教育】

主な事業	内容	実施年度
女性教養講座	女性としての資質の向上と健康で心豊かな生活を送るための教養を深める。	～H30

【考察】

令和元年度からは「女性教育事業」として特化せず，より幅の広い学習機会の提供を図るため，「成人教育事業」として実施している。

【協働教育】

主な事業	内容	実施年度
むらたっ子応援団事業	学校・家庭・地域の協働により，子どもたちの学びの充実を図るとともに，地域が一体となって子どもたちを育む体制を推進する。また，地域住民が培ってきた知識や技能を生かせる生涯学習機会の充実を図る。 ※H24までは村田町学校支援事業として実施	～継続
むらたっ子応援団事業研修会	むらたっ子応援ボランティアと学校職員等が，子どもたちの学習活動を充実させるための理解を深め，むらたっ子応援団事業に対する意識の向上を図る。	～継続

【考察】

村田町における地域学校協働活動として実施している「むらたっ子応援団事業」をとおして，様々な地域財産（人，歴史，文化，もの）を生かした子どもたちの豊かな学びの創出に努めている。子どもたちの学び活動をとおして，大人も共に学ぶ魅力ある生涯学習機会の提供と自己実現の場を創出するとともに，地域住民とのふれあいをとおした子どもたちの地域への愛着心と，地域の将来を担う人材の育成に努めている。

【スポーツ振興】

主な事業	内容	実施年度
ゲートボール大会	管内ヘルシー大会予選会を兼ねた，町内ゲートボール大会。	～継続
グラウンド・ゴルフ大会	管内ヘルシー大会予選会を兼ねた，町内グラウンド・ゴルフ大会。	～継続
村田町ヘルシースポーツ大会	管内ヘルシー大会予選会を兼ねた，町内ソフトボール・ペタンク・家庭バレーボール大会。	～継続
ニュースポーツ普及事業	ニュースポーツの紹介を兼ねた講習会。	～継続
体力・運動能力調査	ファミリースポーツ・コミュニティスポーツの普及振興を目的に実施。	～継続
三宅宏実選手リオデジャネイロオリンピック報告会	リオオリンピック銅メダリストの三宅宏実選手と，本町出身の三宅義行監督よりオリンピックの報告及び夢を実現することの大切さの講話をいただき，トップアスリートの心境や日々の努力の大切さを考えるとともに，競技スポーツへの意欲向上につながった。	H28
三宅宏実選手ロンドンオリンピック報告会	町出身でロンドンオリンピックウエイトリフティング競技コーチの三宅義行氏（メキシコオリンピックウエイトリフティング競技銅メダリスト）と，同氏の長女であり同大会ウエイトリフティング女子 48kg 級で銀メダルを獲得した三宅宏実選手が来町し，村田第二中学校を会場に報告会を行い，町長より三宅選手に対し，賛辞の盾を贈呈した。会場には第二中学校，第二小学校，沼辺幼稚園の生徒児童をはじめ，多くの町民の方々が集まり，三宅選手の功績を盛大に祝福した。	H24

【考察】

子どもから高齢者まで，スポーツに親しめる事業を展開し，多くの町民がスポーツを行う機会となるよう，スポーツイベントや各種スポーツ大会を開催している。また，健康増進や体力の向上につなげるスポーツ活動の推進を図り，幅広い世代が楽しみながら体を動かし，体力の向上につながるニュースポーツの普及に努めている。

【視聴覚教育】

主な事業	内容	実施年度
16 ミリ映写機講習会	16 ミリ映画利用の意義を理解し，実践できる知識と技術の習得を図る。	～H27

【考察】

１６ミリ映写機講習会は平成２７年度を最後に行っていないが，視聴覚教育に関連し，成人教育事業において仙南地域広域行政事務組合視聴覚教材センターの出前講座を活用している。

【芸術文化振興】

主な事業	内容	実施年度
町民文化祭	文化団体及び一般町民の文化活動の発表（作品展示・ステージ発表）の機会として開催する。	～継続

【考察】

町民の文化活動が活発となるよう，その成果を発表する機会として，毎年町民文化祭を開催している。町文化協会と中央公民館とで毎年文化祭のあり方を検討し，広報活動をはじめ体験コーナーの設置など，新たな企画を取り入れながら開催している。

【文化財保護】

主な事業	内容	実施年度
文化財めぐり	文化財への理解を深めるため，町内外に所在する文化財を見学する。	～継続
歴史みらい館企画展	歴史・民俗などに関する資料等を収集，保存及び展示を通して，町民の歴史や文化を学ぶ機会を提供する。	～継続
歴史みらい館常設展	村田町の歴史・民俗・考古に関する資料等を展示することにより，町民の歴史や文化を学ぶ機会を提供する。	～継続
郷土民俗芸能発表会 「ふるさと民俗芸能まつり」	日頃の練習成果を披露する場として，町内の郷土民俗芸能保存団体が出演する発表会を隔年開催する。	～継続
むらた町家の雛めぐり	町家に古くから伝わる雛人形などを，村田町村田伝統的建造物群保存地区等蔵の町並み通り及び歴史みらい館に展示。商店会等との共催事業。	～継続

村田町歴史講座	参加者同士の交流を図りながら町の歴史や文化を学ぶことによって，郷土に対する愛着を増し,歴史や文化の担い手を育成する。	H25～継続
建物講座「町並みにある建物のことを知ろう！」	村田町村田伝統的建造物群保存地区の建造物について，住民をはじめ多くの人々に理解を深めてもらうために，講演会および伝統様式調査の報告会を実施。	H29
土壁づくり体験講座	伝統的建造物に対する興味喚起及び知識・理解の深化を目的に，伝統的な建築技術の一つである土壁づくりの工程を体験できる講座。	H28
修理・修景工事現場見学会	保存整備事業についての理解を促すことを目的とし，町民を対象に，H28 の修理・修景工事現場及び前年度工事完了物件を，町歩きをしながら紹介。	H28
被災ミュージアム再興事業	東日本大震災により被災した博物館・資料館等を支援する文化庁補助事業として，収蔵資料の整理とデータベース化作業，ならびに仮設収蔵庫の建設を行った。	H24～H27
文化遺産を活かした観光振興･地域活性化事業	無形文化遺産継承事業，また，地域の文化遺産記録作成調査研究事業として，古文書調査事業と近代医院建築調査事業を実施。	H24～H26
村田町村田重要伝統的建造物群保存地区選定･村田町歴史みらい館開館 20 周年記念事業	村田町村田重要伝統的建造物群保存地区選定記念シンポジウム及び村田町歴史みらい館開館 20 周年記念村田町郷土芸能発表会を実施。	H26
歴史を活かした個性あるまちづくり講演会	町の歴史的建造物と村田町村田伝統的建造物群保存地区制度についての講演。	H24
文化財ドクター調査	主に東日本大震災による解体家屋からの資料収集・保全を目的に実施。	H23
文化財講演会 「蔵の復興-あすへの希望-」	東日本大震災により被害にあった町内建築物の復旧等についての講演会。	H23

【考察】

文化財にふれ，理解を深めることができる機会を創出するとともに，伝統文化や年中行事等の保存と情報提供に努めている。また，展示・講座・体験をとおして歴史・文化を学ぶ機会の提供を図り，歴史・民俗的価値の高い貴重な資料を多数展示する企画展等を実施している。加えて関連事業も行うことで，町内外の観覧者から興味関心を得ることができている。

【生涯学習振興】

主な事業	内容	実施年度
生涯学習情報の発信	学習講座の開催案内や参加者募集，学習活動の様子など，生涯学習活動に関する情報を町広報紙やホームページ，フェイスブック等を活用し，発信を行っている。また，公民館内に，実施した生涯学習事業の写真を掲示し，活動の様子を紹介している。	～継続

【考察】

町民の多様な学ぶ意欲に応えるため，様々な事業の企画立案や情報収集をし，丁寧な発信に努めている。

【読書活動推進】

主な事業	内容	実施年度
図書室の管理運営	歴史みらい館において，図書の貸出・整備等運営業務を行っている。	～継続
新刊図書の紹介及び図書利用の促進	町広報紙やフェイスブック等で図書を紹介している。	～継続
子どもの本移動展示会	前年度に出版された児童書を多数展示している。	～継続
図書館情報ネットワーク活用事業	県図書館等との図書の相互貸借を行っている。	～継続

【考察】

図書に親しむ機会の提供と利用者ニーズに応える図書の充実による読書活動の推進を図っている。事業では，定期的に子どもの本移動展示会を実施するなど，子どもから大人まで児童書に触れる機会を提供している。

【年表】

年度	項目
H23	・「宮城県協働教育プラットフォーム事業（後の宮城県地域学校協働活動推進事業）」実施（補助事業　～R2） ・優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰受賞
H24	・村田町総合型地域スポーツクラブ設立 ・「三宅宏実選手ロンドンオリンピック報告会」開催 ・「村田町民文化祭第40回・村田町文化協会30周年記念行事」開催 ・「被災ミュージアム再興事業」実施（補助事業　～H27） ・「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」実施（補助事業　～H26）
H25	・むらたっ子応援団協議会を設置 ・「仙南青年文化祭」が村田町を会場に開催される ・歴史みらい館企画展「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム in むらた　恐竜が蔵の町にやってきた!!」開催 ・「村田町歴史講座」開催 ・派遣社会教育主事が配置される（～H27）
H26	・村田町村田伝統的建造物群保存地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定される ・村田町歴史みらい館が開館20周年を迎える ・「村田町村田重要伝統的建造物群保存地区選定・村田町歴史みらい館開館20周年記念事業開催
H27	・「子育て・家庭教育セミナーin村田」開催 ・「宮城ヘルシーふるさとスポーツまつり大河原管内大会」が村田町で開催される
H28	・「大河原教育事務所管内社会教育推進大会・協働教育研修会」が村田町で開催される ・「三宅宏実選手リオデジャネイロオリンピック報告会」開催 ・「イキイキ楽習ポイント事業」実施
H29	・伊達政宗生誕450年記念「村田町の伊達政宗書状」展開催
H30	・旧大沼家住宅（村田商人やましょう記念館）が国の重要文化財に指定される
R1	・村田町地域学校協働本部を設置 ・「防災キャンプ」開催 ・「発見合宿」開催 ・「成人講座」開催 ・「トークフォークダンス」開催
R2	・新型コロナウイルス感染症が流行し，事業の中止や公民館・体育館の休館など，社会教育事業が様々な影響を受ける

柴　田　町

柴　田　町

【少年教育】

事業名	内容	実施年度
ジュニア・リーダーサークル「かぐや姫」の育成	子ども会活動の支援を中心に活動。自らサークルを運営し，毎月開催している定例会ではレクリエーションプログラムの打合せや練習を行う。活動拠点を船迫公民館に置いている。	S47～継続
ジュニア・リーダー初級研修会，中級研修会，上級研修会	ジュニア・リーダーとしての基礎的な研修を実施して資質向上を図っている。公民館，蔵王自然の家で行った。	～継続
姉妹・歴史友好都市シニアリーダー研修・交流会	亘理町，山元町，福島県新地町，北海道伊達市と柴田町のＪＬの研修交流会。戊辰戦争後，先人が北海道開拓に行った縁でふるさと姉妹都市や歴史友好都市を結んでおり，5 市町の高校生ＪＬが毎年輪番で訪問し交流している。	H9～継続（R2 中止）
子どもフェスティバル	農村環境改善センターが会場。地区子ども会育成会，単位子ども会が主体となって開催。様々な遊びを体験することで小学生が人と関わることを学び，地域の垣根を超えた子ども同士の交流を推進。	H23～継続（R1,2 中止）
子ども広場(船迫セ)･子ども開放ひろば(船岡セ)(改善セ)	放課後に小学生が集団遊びや体験活動を行いながら社会性や協調性を育むことを目的に開催。	H23～継続
体験茶会（船迫セ）	船迫生涯学習センターが会場。小学生が日本の伝統文化である茶道に触れ，和室での礼儀作法等を身につけることを目的に開催。	H23～継続
夏休み子ども工作教室，子ども体験教室，親子ふれあい体験教室（槻木セ）	槻木生涯学習センターが会場。親子でオリジナルの作品を作る工作教室や，不用品を使ったものづくり，料理教室を開催した。また，夏休み期間に仙台市天文台でプラネタリウムや企画展を見学し天体について学習した。	H24～継続
子ども映画まつり（槻木セ）（改善セ）	子どもたちに夢や希望，感動を与え，豊かな感受性を育てるため，優良な映画を触れる機会を提供した。	H29～継続
自然体験キャンプ（船迫セ）	小学生が夏休みに親元を離れ，川崎町のセントメリースキー場で 1 泊 2 日の共同生活を行った。仲間たちやジュニア・リーダーと協力しあい，普段体験できない野外活動やキャンプファイヤー，レクリエーションを体験した。	～H28
チャレンジ合宿通学 週末チャレンジ合宿 夏休みチャレンジ合宿	町内の小学校の 5･6 年生児童が家庭を離れ，異年齢集団との共同生活を営むことで，基本的生活習慣や家庭の大切さを学ぶとともに，自主性や協調性，社会性，リーダーシップなど豊かな人間性を育成するため開催した。	H23～25 H26～27 H28

【考察】

生涯学習課では子ども会及び育成会，ジュニア・リーダー育成のための事業を行った。ジュニア・リーダーの会員数はこの１０年減少しており，今後は会員の確保が必要となる。社会教育施設では，小学生が参加しやすい土日や長期休暇の際に，体験茶会や映画会，工作，料理の体験教室を開催した。子ども広場や子ども開放ひろばは，生涯学習センターのホール等を開放し，放課後児童クラブに登録していない児童がレクリエーション活動を行う。船迫生涯学習センターでは仙台大学レクリエーション部の協力を得て実施し，異世代交流にもなっていた。また，平成２１年度より小学４年生を対象に自然体験キャンプ（～平成２８年度）を相馬海浜自然の家で行っていたが，平成２３年度からは川崎町のセントメリースキー場に会場を移して開催することとなった。町内の小学４年生を対象にして１泊２日で行われたものだったが，ジュニア・リーダー初級研修会を併催し，ジュニア・リーダーが活躍する場でもあった。

【青年教育】

主な事業	内容	実施年度
成人式典	H21 から新成人による実行委員会を立ち上げ，式典の一部を運営し，アトラクションでは実行委員が作成した「恩師からのビデオレター」を上映している。	～継続

【考察】

青年による地域活動組織は１０年以上前に解散している。青年教育の中核であった勤労青少年ホームが平成１９年度に閉館してから，趣味や教養を中心とした青年教育事業は減少した。成人式典は実行委員会形式をとってアトラクションを設けるなど，成人としての当事者の意識づけを行っている。

【家庭教育】

事業名	内容	実施年度
子育て・親育ち講座	年長児の保護者が小学校の就学時発達検査の待ち時間に，家庭における基本的なしつけの重要性について学ぶ機会を提供。	～継続
子育て・親育ち思春期講座	小学６年生の保護者が中学校の入学説明会時に，心構えとして思春期を迎える子どもの特徴や親としての関わり方を学んでいる。	H28～継続
親のみちしるべ出前講座	子育て中の親同士が宮城県版の親の学びのプログラムを活用し，交流を図りながら親自身の気づきや子育てについて学び合うための出前講座を開催。	H27～継続
イクメン講座	父親が家事や子育てについて語り合う交流の場を提供し，積極的な子育ての参加を促すとともに，親子で一緒に体験することによって子どもの成長を身近に感じながら家族の絆を深め，健全な家庭を築くことを目的に開催。	H24～継続

【考察】

家庭教育支援事業は長年行っていたが，保健・福祉部門が担う子育て支援との役割分担の必要性もあった。生涯学習課では平成２０年度より子育て・親育ち講座を，平成２８年度より子育て・親育ち思春期講座を開催し，小学校，中学校に進学する前に，親としての心構えを学ぶ場を提供した。今後は子ども家庭課，こどもセンターや健康推進課など，家庭教育に関連する他部局とも連携を取りながら事業を推進する必要がある。

【高齢者教育】

主な事業	内容	実施年度
豊齢者教室（槻木セ）・ 豊齢者教室（船迫セ）・ いきいき教室（船岡セ）	それぞれ月 1 回程度開催している。高齢者が健康で豊かな生活を送るために，健康のための講座や生活に役立つ講座を開講。以前は年に 1～2 回，県内外に社会見学に行くことが恒例となっていた。	～継続
シルバーダンス教室（槻木セ）	健康で豊かな生活を送るため，高齢者対象の初歩の社交ダンス教室を開催。H29 以降サークル化。	～H29

【考察】

高齢化社会が進み，高齢者教育のニーズは増えている。高齢者教育は６５歳以上が対象ではあるが，６０代は高齢者という意識が低く，成人教育とのすみ分けは曖昧になっている。また，男性の参加が少ないのが現状である。

【成人教育】

主な事業	内容	実施年度
地域デビュー事業 「20 歳×3 回目の成人式」	船迫生涯学習センターが会場。60 歳になる方が対象。これまで地域とのつながりが少なかった現役世代が，地域活動への参加のきっかけづくりと，同世代との新たな交流の場を提供するために開催。	～H28
地域デビュー・生きがい探し講座（槻木セ）	子育ての終了や定年退職など，地域活動への参加が増える 50 歳以上が対象。趣味・興味づくりの場を提供し，共通の趣味を持つ人たちの交流の促進と，生涯学習にふれる機会や地域デビューを促すことをねらいとして実施。	H26～H29
里山ハイキング（槻木セ）	ガイドブックを片手に町内の里山ハイキングコースを歩く。それぞれの季節に町内の様々なコースを歩くことで，四季折々の自然の豊かさを体感するともに，町内の名所・文化財も見学し，郷土愛を育むことを目的に開催。	H25～継続
暮らしを楽しむ野菜づくり講座（船岡セ）	夏野菜の植え方，管理の仕方を学習し，成長や収穫の楽しさ・喜びを実感し，食の安全安心や地産地消について学ぶことを目的に開催。地域の方の畑地を借用して実施した。	～H30
団塊の世代の元気塾 健康元気塾 （船岡セ）	船岡生涯学習センターのホールが主会場。心身の健康増進を図りながら元気で地域活動を続けていけるよう，健康管理などについて学習するとともに，地域の人との交流を広げることを目的に開催している。	～H28 H29～継続
男の料理教室（船岡セ）	調理の基本的な技術を学び，地域の仲間づくりや生きがいづくりを通して，地域で活躍する男性を育成することを目的に開催している。	R1～継続
「ビートルズ」メロディーを歌おう（船迫セ）	団塊の世代が青春時代に活躍したザ･ビートルズの名曲を歌うことで活力を見いだし，同世代の仲間をつくりながら地域活動に関わるようになることを目標に実施。平成２５年以降サークル化。	～H24

【考察】

地域や住民のニーズにこたえ，成人向けの様々な講座を企画していたが，この１０年は「２０歳×３回目の成人式」や，生きがい探し講座，団塊の世代の元気塾（平成２９年度からは健康元気塾），「ビートルズ」メロディーを歌おうなど，団塊の世代が活躍できる環境づくりを主眼とした事業を多く実施した。里山ハイキングや野菜づくりなど，屋外で活動する講座も多く開催した。

【女性教育】

主な事業	内容	実施年度
健康講座	保健センターが会場。R2 は船岡生涯学習センターが会場。みやぎ婦人会館の出前講座を活用し H30 まで各婦連主催で，その後は地婦連主催で毎年健康講座を行っていた。	～継続
地域婦人会連絡協議会の支援	婦人会は男女平等の推進，青少年の健全育成，家庭生活・社会生活の刷新，高齢化社会への対応，地域社会の福祉増進などを目的とした団体である。団体の減少により R2 末に解散となった。	～R2
各種婦人団体連絡協議会の支援	各地域の婦人会だけではなく，農協や商工会などの女性部も加入。団体の減少により H30 度に解散となった。	～H30
ゆかたを着て夏祭りに行こう（船迫セ）	夏のイベントなどに浴衣を気軽に着こなせるよう，着付けの技術を習得するとともに，家庭においてその伝承ができることを目的として開催した。	～H29
お正月に着物を着よう（船迫セ）	日本の民族衣装である着物を，お正月に自分で着て過ごせるようになることと，家庭で着付けの伝承ができることをねらいとして開催した。	～H28

【考察】

地域婦人会連絡協議会や各種婦人団体連絡協議会の解散があり，女性団体の在り方に大きな変化があった。婦人会は地域コミュニティを担う成人女性の修養・趣味・社会活動などを目的として結成された団体だったが，高齢化や役員不足など時代の変化によって会員数，団体数が減少しており，婦人会に限らず青年団，老人クラブなど多目的の地域団体は減少傾向にあり，それらに対する社会教育のあり方も模索する必要がある。

【協働教育】

主な事業	内容	実施年度
しばたっ子応援団（学校支援ボランティア）	ボランティアを町内小中学校の支援要請に応じて，コーディネーターが中心となりコーディネートを行い派遣している。また，活動推進のための研修を毎年実施している。	H23～継続
職場体験学習受入先のコーディネート	中学生が体験したい業種と，受け入れを了承した事業所とのマッチングなど，きめ細かいコーディネートができる体制を整えている。	H26～継続
キャリアセミナー「職業人の話を聞く会」	中学生のキャリア教育支援として，町内 3 中学校で町内外のさまざまな職業人を学校に招き，少人数の車座形式で職業観や人生観を語っていただいた。	H24～継続
学社連携推進委員会(～H25) 協働教育推進委員会(～H26～28) 協働教育推進委員会（地域学校協働本部）（H29～）	推進委員の資質向上のための研修や，協働教育（地域学校協働活動）推進のための方策，事業の方向性や現状，課題等を共有している，また，地区部会と称してワークショップを行い，委員相互の情報交換・共有を図り，連携と信頼を深めている。	～H25 H26～H28 H29～継続

【考察】

宮城県では平成１７年度から国に先駆け「協働」という言葉を使い，地域と学校の連携・協働体制の構築を図る「みやぎらしい協働教育」に取り組み，平成２５年度からは名称を「みやぎの協働教育」とし，より発展させる体制を整えた。柴田町では平成２３年度に協働教育プラットフォーム事業を開始。平成２５年度には協働教育コーディネーターを配置し，協働教育の充実を図る体制を整えた。

【スポーツ振興】

主な事業	内容	実施年度
水中トレーニング教室・シニア水中トレーニング教室	ヒルズ県南総合プールが会場。65 歳以上の高齢者を対象に，水中で無理のない運動を行い，有酸素運動を取り入れ，生活習慣病の予防など健康づくりを目的に開催。	H23～継続 （R1,2 中止）
ボクシングエクササイズ教室	船岡体育館が会場。体力増進と基礎代謝の向上やダイエット，ストレス発散の効果も高いボクシングエクササイズで，健康の増進を図るとともに運動の日常化を推進することを目的に開催している。	H23～継続 （R1,2 中止）
シニアいきいきスポーツ教室	船岡体育館が会場。高齢者を対象に，健康体操やグラウンド・ゴルフ，パークゴルフ，バドミントン，ラージボール卓球など様々な種目を通して，日常的なスポーツ活動の場を提供し，生涯スポーツへの取り組みを推進している。	H23～継続 （R1,2 中止）
キッズサッカー・ジュニアサッカー	仙台大学サッカー・ラグビー場が会場。キッズサッカー（未就学児の部）とジュニアサッカー（小学 1～3 年生の部）に分け，サッカーボールを使った遊びやゲームなどを取り入れ，保護者と一緒に楽しい時間を過ごしながら，スポーツの楽しさを理解してもらうために開催。	H23～継続
町民ラジオ体操のつどい	船岡体育館が会場。H24 に開催したラジオ体操・みんなの体操講習会（船岡小体育館）と，夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会を皮切りに（仙台大学第 1 グラウンド，2,000 名参加），H26 から全国ラジオ体操連盟の指導員（元ＮＨＫテレビ・ラジオ体操アシスタント）を講師に招き，ラジオ体操の基本を正しく学んだ。	H26～継続
行政区対抗玉入れ大会	船岡小学校体育館が会場。町民一人ひとりのスポーツ活動への参加意欲を喚起し，地域住民や行政区の地域コミュニティ再構築のために開催。	H24～継続 （R1,2 中止）

【考察】

スポーツ振興課が主催。柴田町教育振興基本計画，柴田町スポーツ推進計画並びに柴田町スポーツ都市宣言の趣旨を踏まえ，町民が自主的・主体的にスポーツ・レクリエーションに親しみ，自ら心身の健康や体力の増進を図ることができるよう支援している。スポーツ活動を通して町民相互の連帯と協調を深め，健康づくり，仲間づくり，子どもたちの健全育成を推進し，明るく住みよい，心豊かな地域社会を目指している。柴田町には体育学部を擁する仙台大学と，体育学科を擁する柴田高校があり，スポーツ都市宣言を行うなど，スポーツの推進活動を積極的に行っている。町民体育館が老朽化のため平成２２年度をもって利用できなくなり，後に解体した。今後，総合体育館の建設が計画されている。

【視聴覚教育】

主な事業	内容	実施年度
子ども映画まつり（槻木セ）	槻木生涯学習センターのホールが会場。感受性の豊かな児童期に，子どもたちに優良な映像を鑑賞させることで，夢や希望，感動を与え，心豊かな生活の一助となるよう，子どもたちが優良な映画に触れる機会を提供している。	H29～継続

【考察】

夏休みやクリスマスの時期に，槻木生涯学習センターと農村環境改善センターを会場として映画会を開催した。教材は視聴覚教材センターのＤＶＤ資料で，日本の昔ばなし，世界の名作，ムーミン，ミッキーマウス，トムとジェリー，ズッコケ三人組，名作絵本をアニメ化した作品などを上演した。資料借用については視聴覚教材センターに頼っている状況で，上映できる作品は限られている。

【芸術文化振興】

主な事業	内容	実施年度
柴田町合唱祭	合唱祭実行委員会と教育委員会の共催。会場は槻木生涯学習センターのホール。町内で活動する５団体が，さまざまな合唱曲を披露している。	～継続
仙台フィルハーモニー管弦楽団室内楽コンサート（槻木セ）	仙台フィルのメンバーがクラシック音楽の室内楽の名曲を奏でる芸術鑑賞会。毎年２月頃に開催。	～継続（R1 中止）
クリスマスコンサート（船岡セ）	地元のピアノ奏者を中心に据えたクラシック音楽の鑑賞会を開催。	～継続
スプリングコンサート（船迫セ）	地域住民と豊齢者教室生を対象に，ポピュラー，クラシック，吹奏楽など多様なジャンルの音楽鑑賞会を開催。毎年２月頃に開催。	H23～継続（R1,2 中止）
新春囲碁将棋大会（槻木セ）	囲碁，将棋で交流を促進し，伝統的な室内遊戯の文化を継承している。	～継続
しばた茶会（郷土館）	しばたの郷土館で春と秋に開催。国宝の茶室如庵の写しである如心庵で濃茶席を，ほかに初心者でも参加しやすい薄茶席や立礼席を設け，運営委員会の協力のもと開催している。町内外から多くの茶道愛好者が参加している。	H5～継続
中庭観月会（郷土館）	しばたの郷土館の中庭で名月観望，和室での琴演奏，柴田かたりべの会による民話，立礼のお茶席など，中秋の名月を楽しむ機会を提供した。	H8～継続
トンボ玉づくり体験学習・トンボ玉づくり体験会（郷土館）	町内の古墳からも発掘されているトンボ玉を制作して，その楽しさを知ってもらうため，初心者でも気軽に参加できる場を提供した。	～H28
しめ縄作り体験学習（郷土館）	正月を迎える伝統行事を継承するため，玄関飾り作りの体験会を開催した。	～継続
さくら回廊 in しばた（郷土館）	さくらまつり期間中に，しばたの郷土館の利用団体を中心により組織された実行委員会が主体となり，美術・創作作品の展示を行った。また，中庭でオカリナやバンドの演奏，ヒップホップダンスなどのイベントを開催した。	～H29
槻木地区ふるさとまつり（槻木セ），ふるさと文化祭（船迫セ），ふるさと交流のつどい（改善セ），東船岡地区ふるさとまつり（船岡セ），西住地区文化祭（西住公）	各地域の地域づくり推進協議会や行政区と協力し，各学習センターや公民館で開催した。民謡，舞踊，合唱，歌唱などの舞台，生花，盆栽，書道，絵画，陶芸などの展示，バザーや頒布会など多彩な文化祭となっている。	～継続（R2 中止）

【考察】

各生涯学習センターや公民館で，コンサートや茶道の体験，伝統文化や行事などの文化活動を行っている。しばたの郷土館では，茶室如心庵や中庭を利用した茶会，季節の行事が恒例となっている。トンボ玉づくり体験学習やトンボ玉づくり体験会はしばたの郷土館の開館直後から長年行っており，並行してサークル活動も盛んであったが，主催としては平成２８年度に終了し，以後はサークル活動となった。また，しめ縄づくりも，長く続いている年末の恒例行事である。

【文化財保護】

主な事業	内容	実施年度
しばたの郷土館資料展示館思源閣常設展	常設展「３６５万日のしばた」により，柴田町の歩んできた歴史，文化，人々の暮らしをわかりやすく展示している。	H5～継続
しばたの郷土館資料展示館思源閣企画展	柴田町出身で伊達政宗騎馬像の作者として著名な小室達とその作品を数年おきに紹介している。また，柴田町に縁のある美術作家や漫画家の作品，伊達騒動や戊辰戦争など柴田町に関する歴史，発掘の成果を紹介する企画展を開催した。	H5～継続
町史探訪	町や仙台藩，宮城県の歴史・地誌にまつわる町内外の史跡を訪問し，その理解を深める機会を設けた。	～継続
古文書解読ボランティア養成講座	町内に残る古文書を教材として，古文書解読を学ぶ場を提供し，古文書解読ボランティアの養成を図った。	H29～継続
古文書に親しむ講座	槻木生涯学習センターを会場に，古文書に親しむ機会を設けた。	～継続
リレー朗読会	山本周五郎の小説「樅ノ木は残った」，R28 から柴田町出身の直木賞作家，大池唯雄の小説「炎の時代－明治戊辰の人びと－」，R1 から穂高健一の「芸州広島藩神機隊物語」，R2 は「伊達騒動実録」を教材として，参加者が自ら音読し史実を学ぶ講義を開催した。	～継続
埋蔵文化財発掘事業	中名生・下名生地区，葉坂地区のほ場整備事業に伴い，県大河原振興事務所からの委託事業として，県文化財課の協力を得ながら，埋蔵文化財発掘調査，確認調査を実施した。	H30～継続

【考察】

文化財保護業務は，しばたの郷土館で行っている。平成２３年に，しばたの郷土館内ふるさと文化伝承館内に柴田町図書館が開館して以降，町民ギャラリー的な展示事業は縮小され，さくら回廊 in しばたも平成２９年度に終了した。平成３０年度からは，ほ場整備に伴い埋蔵文化財発掘事業が本格化した。

【情報化・国際化】

主な事業	内容	実施年度
国際姉妹都市丹陽市･往来都市鎮江市・柴田町国際交流書画展	中国の丹陽市（国際姉妹都市）と，丹陽市を管轄する鎮江市（往来都市）と柴田町が，生活風俗の相互理解を図り，友好交流を促進することを目的に，市民・町民レベルの文化交流作品展を開催した。	H8～継続

【考察】

柴田町日中友好協会との共催で，日中両国の相互理解と友好を深めることを目的としている。両国の小学生の絵画と中学生の書道，そして書家の作品を中心に展示し，文化交流を行っている。平成８年度から継続して開催されている。

【生涯学習振興】

主な事業	内容	実施年度
生涯学習センターだよりの発行	各生涯学習センターで事業のお知らせや地域に根ざした話題，図書室の新着図書の紹介などを定期的にお知らせしている。	～継続
関係団体の育成	町内各地域の協議会，すばらしい柴田を創る協議会や文化協会，体育協会，婦人会など生涯学習関係団体と連携を取りながらで，住民を巻き込んでの生涯学習を推進している。	～継続
メタセコイアの奇跡！光り輝け槻木駅	槻木地域づくり推進協議会｢メタセコイアの奇跡！光り輝け槻木駅｣実行委員会主催。柴小地区地域づくり推進協議会，槻木地区子ども会育成会，柴小地区子ども会育成会等の協力で毎年 12 月～1 月に開催。槻木駅前のメタセコイアの木のイルミネーションとイベントで地域の活性化を図っている。	H23～継続

【考察】

「メタセコイアの奇跡！」は地域づくり事業の好例といえる。槻木小学校，柴田小学校，槻木中学校の児童生徒，太鼓や踊り，よさこい等の団体の参加で点灯式を盛り上げ，年末年始の槻木駅前にイルミネーションを灯した。住民が主体となって地域の活性化を図っている。

【防災教育】

主な事業	内容	実施年度
覚えておくと役に立つ防災講座（船岡セ）	小学生と保護者を対象とした。災害時にあわてず対応できるよう応急対処法を学び，また非常時に身近にある食材等を使った炊飯や調理法を親子で体験することを目的に開催した。	H29～H30（R1 中止）

【考察】

平成２３年の東日本大震災や令和元年東日本台風の被害により，この１０年間で町民の防災に対する意識は高まっている。防災教育については防災担当や保健・福祉部門でも関連のある分野であり，社会教育では避難所にもなっている船岡生涯学習センターで開催した。

【読書活動推進】

主な事業	内容	実施年度
図書室の管理・運営	生涯学習センターや公民館，農村環境改善センターの図書室で，図書の貸出返却，整理などを行っている。	～継続
図書館事業	柴田町図書館及び槻木分室の管理・運営。図書や雑誌等の貸出，レファレンスサービスや，お話し会やブックトーク，図書館まつり等のイベントの開催で，読書活動の推進を図っている。また，放課後児童クラブや幼稚園，保育所に出向き，「お話の部屋」として読み聞かせを行っている。	H22～継続
学校図書館司書の派遣	H23 年度に学校司書が１名配置されたのを皮切りに，R3 年度までには小学中学校すべてに計９名の学校司書を配置。柴田町図書館と小・中学校の連携はより密になり，学校図書室の充実が図られている。	H23～継続
子ども読書活動推進事業	H18 年に第一次，H23 年に第二次，H28 年に第三次の柴田町子ども読書活動推進計画を策定した。その一環として幼児や児童，生徒に絵本や文庫本のプレゼントを行っている。	H18～継続
絵本読み聞かせ（船迫セ）	子どもが本に親しむ習慣を身につけることを目的に，読み聞かせボランティアが中心となって，四季折々の行事を取り入れながら開催した。	～継続

【考察】

みやぎ子供読書活動推進計画策定の２年後の平成１８年３月に，柴田町子ども読書活動推進計画（第一次）を策定した。長年，町民から図書館建設が要望されていたが，平成２２年度に既存の施設を利用し改装した柴田町図書館が開館した。司書の採用や，学校司書の配置，施設の充実，図書購入予算の増加など，この１０年間で最も変化した分野ともいえる。既存の施設（しばたの郷土館内ふるさと文化伝承館）が手狭であり，蔵書スペースが増やせないことや施設の老朽化などもあり，新図書館の建設が計画されている。

【年表】

年度	項目
H23	・東日本大震災の影響で社会教育施設や事業に影響がでる ・第５次柴田町総合計画開始（H23～H30） ・第二次柴田町子ども読書推進活動推進計画策定開始（H23.4～H28.3） ・船岡中学校体育館開館 ・派遣社会教育主事開始（H23.4～H26.3） ・協働教育プラットフォーム事業開始 ・第１回柴田町子どもフェスティバル
H24	・柴田町ＰＲキャラクター「はなみちゃん」誕生 ・家庭教育支援事業イクメン講座開始 ・学校支援事業　しばたっ子応援団の定着,キャリアセミナー開始 ・「体育指導委員」が「スポーツ推進委員」へ移行
H25	・里山ハイキング開始 ・協働教育コーディネーター配置 ・柴田町ジュニア・リーダー「かぐや姫」東北子連表彰
H26	・第 18 回姉妹･友好都市シニアリーダー研修交流会（柴田町で６年ぶりに開催） ・柴田町総合型地域スポーツクラブ発足
H27	・スポーツ振興課発足（スポーツ振興室から移行） ・文部科学大臣表彰子どもの読書活動優秀団体絵本読み聞かせの会「おむすびころりん」
H28	・柴田町制施行６０周年 ・第三次柴田町子ども読書推進活動推進計画策定 ・柴田町図書館槻木分室を槻木生涯学習センター内に開設 ・しばたの歴史ガイド発刊（町制施行 60 周年記念事業） ・子育て親育ち思春期講座，親のみちしるべ出前講座開始 ・柴田町図書館が文部科学大臣表彰子どもの読書活動優秀図書館となる
H29	・仙南青年文化祭が柴田町で開催 ・東京オリンピックのベラルーシ共和国新体操チームのホストタウン登録
H30	・入間田テニスコート開場 10 周年 ・埋蔵文化財発掘事業開始（中名生・下名生地区確認調査） ・埋蔵文化財発掘事業（葉坂地区確認調査） ・子どもの心のケアハウス開所（船岡公民館内） ・柴田町各種婦人団体連絡協議会解散 ・しばたの郷土館企画展「小室達生誕 120 年展」
R1	・第６次柴田町総合計画開始（R1～R8） ・中名生・下名生地区埋蔵文化財発掘調査 ・令和元年東日本台風の被害により船迫公民館休館，阿武隈運動場閉鎖(～R2.9.30) ・柴田町地域婦人会連絡協議会解散
R2	・新型コロナウィルス感染拡大防止のため社会教育施設・事業に影響がでる ・船岡公民館（旧柴田町公民館）50 周年 ・柴田町図書館開館 10 周年 ・柴田球場にネーミングライツの募集,翌年度 4 月より 5 年間「アステムチャレンジスタジアム」となる

川　崎　町

川　崎　町

【少年教育】

主な事業	内容	実施年度
ジュニア・リーダーサークル Ｐ・Ｔ・Ｅ	町内の中学生・高校生対象 ジュニア・リーダー組織。 子ども会行事への派遣や自主企画をとおして，町内のジュニア・リーダー及び子ども会の発展に尽くすとともに交流を行い，会員相互の親睦を深めることを図る。	S47～継続
ジュニア・リーダー初級研修会	町内の中学生・高校生対象 直接的な指導者としての知識や技術を習得し，活動のための資質向上を図る。	～継続
小学生サマーキャンプ	町内の小学生対象 まちの地域特性を生かし，参加者同士の交流を深めながらふるさと意識を高める。	S53～継続
セカンドスクール （小学５年生宿泊学習）	町内の小学５年生対象 社会教育学習に係る支援を行い，相互の交流親睦を図る。	～継続
児童・生徒書き初め会	町内の小学３年生から中学３年生対象 毛筆の技能を高めるとともに，作品の展示と賞賛により，書道に対する意欲を高める。	S50～継続
子ども会育成団体の育成・援助	川崎町子ども会育成会協議会（R2 現在８団体） 子ども会育成団体の運営を援助し，活動の活性化を図る。	～継続
小学生ペタンク大会	町内の小学生対象 スポーツをとおして，小学生が相互に親睦を図るとともに，体力向上と競技スポーツの意識向上を目指す。	～継続
小学生ドッジボール大会	町内の小学生対象 誰にでもできるスポーツを通して，地域の団結と青少年の健全育成を目指す。	～継続

【考察】

少年教育では，自然や地域文化などに触れる体験活動をとおして，学ぶことの楽しさや豊かな心と社会性を育む事業を展開している。また，ジュニア・リーダー活動をとおして，青少年リーダーの育成及び青少年の社会参加を促進する地域ボランティア活動の充実に努めている。

現在は，少子化や習いごとの多様化により，子ども会に加入する会員やジュニア・リーダー会員数が減少傾向の中，新型コロナウイルス感染症の影響によって，事業の中止や縮小で，活動する姿を見せる機会が減り，ジュニア・リーダー会員数の減少に拍車がかかっている。しかし，マンネリ化を避けるため，ジュニア・リーダーは自主企画行事の内容を創意工夫し，参加する小学生は，ここ数年で増えてきている。

今後は，単に会員数を増やすのではなく，魅力や学びの多い活動を提供することによって，個人のスキルや会員相互の連携を向上すること，地域の行事にも積極的に参加していくことが望ましい。

【青年教育】

主な事業	内容	実施年度
成人式	新成人を祝福し，ふるさとの良さを認識させ，社会の一員としての責任と自覚を持たせる。	H8～継続
成人式実行委員会	新成人による実行委員会を立ち上げ，成人式式典を運営し，式典後の記念パーティーの企画・運営を行う。	H8～継続
仙南青年文化祭	町内の 35 歳以下の青年対象 仙南２市７町の青年が一堂に会し，親睦と交流を深めながら，文化の向上と青年活動の活性化を図る。川崎町では，H23 と R1 に開催地になった。	～継続

【考察】

青年教育では，新成人による成人式実行委員会を組織して成人式式典を運営し，式典後の記念パーティーの企画・運営を行っている。令和２年は新型コロナウイルス感染症の影響により記念パーティーを中止した。代わりに実行委員同士の話し合いの中から「恩師ビデオレター及びスライドショー」を制作することが決まり，成人式で上映した。また，現在は，少年や成人を対象とした講座や教室は開催しているが，青年を対象としたものが手薄になっていることから，今後は，継続的にジュニア・リーダーを卒業したＯＢ・ＯＧや，成人式実行委員といった青年を巻き込んでいく事業の展開が必要である。

【家庭教育】

主な事業	内容	実施年度
家庭教育学級	家庭での基本的なしつけについて学ぶ。	H2～継続
子育てサポーター研修会	子育て支援グループ「おひさまピカピカ」と町民の方対象 子育てサポーターの役割について学ぶ機会とする。	～継続
おひさまカフェ	子育て支援グループ「おひさまピカピカ」と町民の方対象 子育てに悩む保護者に対してよりそい，支援する。	～継続
親子バレーボール大会	町内の小学生とその保護者対象 親子の対話と友情や連帯感を深め，体力の向上を図る。	～継続

【考察】

家庭教育では，保護者の学びの場として家庭教育学級を平成２年度から開催し，毎年様々な視点からテーマを取り入れることで，充実した子育てや家庭での教育につながる機会となっている。また，有志による子育て支援グループ「おひさまピカピカ」が平成２６年１０月に発足した。「おひさまピカピカ」は，読み聞かせ活動や川崎レイクサイドマラソン大会での託児支援ボランティア活動や，子育てをしている親子を対象としたふれあいや育児相談の場として「おひさまカフェ」を年２回開催していたが，新型コロナウイルス感染症の影響で事業の中止が続き，会員の活動意欲が低下している。今後は，明確な活動目標設定と活動する機会を増やし，活動意欲を向上するとともに活動の周知や会員募集により，新たな子育てサポーターの発掘にも力を入れていかなければならない。

【高齢者教育】

主な事業	内容	実施年度
川崎シニア大学	町民の方（60 歳以上）対象 年間の学習活動をとおして，教養を高めながら連帯の輪を広げ，積極的な社会参加の促進と生きがいづくりを図る。	S56～継続
高齢者地区ゲートボール大会	町民の方（60 歳以上）対象 スポーツ活動により，仲間づくりや積極的な生きがいづくりを目指し，有意義な余暇活動を図る。	～H25

【考察】

高齢者教育では，「川崎町高齢者大学」の名称で，昭和５６年６月２０日に川崎町老人クラブ連合会の入会者を対象に受講生を募集していた。昭和から平成，令和へと高齢化社会もますます進展し，在籍する受講生数も発足当時から約２倍に増加した。受講生一人ひとりの学習意欲の向上と相まって，学習内容への期待感やニーズもますます膨らんでいる。

一方で，近年の各企業や法人の雇用延長，シルバー人材センター発足により，シニア世代の勤労のニーズが高まり，６０歳を過ぎてもなお仕事に就いている方も多くいる。そのため，６０代，７０代の新規受講生があまり見込めない状況でもある。また，平成２７年には，「川崎町高齢者大学」という名称が，現在の生活様式や価値観等の生活を取り巻く環境が大きく変化していることを受け，「川崎シニア大学」へと名称を変更し，最近では川崎町老人クラブ連合会の入会者以外の町民も対象としている。

【成人教育】

主な事業	内容	実施年度
公民館趣味の講座	町民の方対象 町民のニーズに対応した講座を開設し，余暇の有効利用と趣味の拡大を目指し，受講者の親睦と交流を図る。 ・陶芸教室・つる細工・リースづくり教室・クリスマスツリーづくり教室 ・お菓子づくり教室・紙甲冑制作講座・大人のそば打ち教室・絵手紙教室 ・Zoom の使い方講座・リメイクエプロン教室・プレゼンテーション講座 ・ビデオ・写真編集講座・親子で参加わくわくクッキング教室　等	～継続
町民大学（成人講座）	町民の方対象 町民のニーズに対応した講座を開設し，余暇の有効活動と趣味の拡大を目指し，相互の親睦と交流を図る。	H8～H27
成人向けスポーツ教室	川崎町総合型スポーツクラブ「運動笑楽校」会員対象 軽い筋トレ，ストレッチ運動や水中ウォーキング等を通じて，心肺機能の向上等，健康増進を図る。 ナチュラルヨガ，ピラティス，タオルストレッチ，水中ウォーキング ダイエット・サーキット・トレーニング，ダンス教室　等	H24～継続

【考察】

成人教育では，公民館や海洋センターを拠点とした，町民ニーズに合った様々な学習講座・教室を開催している。令和２年度には，仙南視聴覚教材センター（あずなびあ）の協力のもと，コロナ禍で

の利用する機会が増えたオンライン会議ツール「Ｚｏｏｍ」の使い方講座を実施した。今後は，各講座や教室に参加したことをきっかけとしたコミュニティ形成やサークル化へとつなげていきたい。

【女性教育】

主な事業	内容	実施年度
婦人団体一日研修会 （会員研修会）	川崎町婦人団体連絡協議会対象 相互学習とレクリエーションを通し，親睦を図る。	～継続
婦人団体リーダー研修会	川崎町婦人団体連絡協議会対象 親睦融和を図りながら，活動推進のリーダーとしての知識や技術の習得を目的とする。	～継続
婦人団体の育成・援助	川崎町婦人団体連絡協議会（R2 現在 4 団体） 婦人団体の運営を援助し，団体活動の活性化を図る。	～継続

【考察】

女性教育では，川崎町婦人団体連絡協議会の４団体（川崎町婦人会，商工会女性部，ＪＡ女性部，生活研究会）の育成・支援や婦人団体研修会等を開催している。婦人会は，地域コミュニティを担う成人女性の修養・趣味・社会活動などを目的として結成された団体だったが，会員の高齢化や入会者の不足など時代の変化によって，役員などの担い手が不足している。また，新型コロナウイルス感染症拡大の影響により，「川崎支倉常長まつり」や各種研修会が中止となり活動ができない状況も続いている。今後は女性団体の育成・支援を続けていくほか，に講座やワークショップ等を通じて，女性団体の会員の増加を促していきたい。

【協働教育】

主な事業	内容	実施年度
協働教育	家庭・学校・地域が協働し，地域全体で子どもを育てる環境づくりと教育力の向上を図る。	H23～継続
かわさきっ子応援団 （学校支援ボランティア活動）	学校支援学校支援ボランティアが学習活動の支援や見守り活動，学習環境の整備等を行う。生涯学習課職員が学校とボランティアとのパイプ役を担っている。	H23～継続

【考察】

協働教育では，平成２３年から「かわさきっ子応援団（学校支援ボランティア）」の事業が始まった。「かわさきっ子応援団」に登録している学校支援ボランティア協力の下，様々な地域財産（人，歴史，文化，もの）を生かした子どもたちの豊かな学びの創出に努めている。また，子どもたちの学びの活動をとおして，大人も共に学ぶ魅力ある生涯学習機会の提供と自己実現の場を創出すると共に，地域住民とのふれあいをとおした子どもたちの地域への愛着心と地域の将来を担う人材の育成に努めている。しかし，「地域学校協働本部」が未設置であり，地域コーディネーターを配置していないことから組織の体制づくりと地域ボランティアと学校をコーディネートする人材確保が課題である。今後は，コミュニティ・スクール設立と並行し「地域学校協働本部」の設置を目指すとともに，放課後子ども教室やキャリアセミナーにも力を入れていかなければならない。

【スポーツ振興】

主な事業	内容	実施年度
川崎レイクサイドマラソン	健康・体力づくりを目指し，さわやかな汗を流しながら，参加者相互の交流を図る。	H29～継続
かわさきウォークラン大会	町民の方対象 健康・体力づくりを目指し，さわやかな汗を流しながら，参加者相互の交流親睦を図る。	H7～H28
川崎町ペタンク大会	町民の方対象 健康・体力づくりを目指し，さわやかな汗を流しながら，参加者相互の交流を図る。	H22～継続
武道一万人寒稽古	町民の方対象 酷寒を克服して武道に励み，体力の向上と武道の振興を図る。	～H24
町民水泳大会	町民の方対象 水泳の技術力と体力の向上，地区間の親睦交流を図る。	～H25
川崎町総合型スポーツクラブ 「運動笑楽校」活動支援	いつでも，誰もスポーツに触れながら，地域コミュニティの場として，会員同士の交互交流，コミュニケーションの促進を図る。	H24～継続
学校体育施設開放	社会体育普及のため，学校体育施設を学校教育に支障のない範囲で開放する。	～継続
行政区スポーツ レクリエーション活動奨励事業	町民がスポーツに親しみながら親睦と融和を深め，心身ともに健康で地域コミュニティの活性化を促進する。	H20～継続
上級大会・競技会等の出場者に対する助成事業	競技スポーツの技術水準向上に向けた環境充実のため，東北大会規模以上の大会・競技会出場者等に対し助成する。	～継続

体協・スポ少団体の育成・援助	川崎町体育協会（現在 12 団体） 川崎町スポーツ少年団（現在 6 団体） 社会体育団体の運営を援助し，団体活動の活性化を図る。	～継続

【考察】

スポーツ振興では，子どもから高齢者までスポーツに親しめる事業を展開し，多くの町民がスポーツを行う機会となるよう，スポーツイベントや各種スポーツ大会を開催している。また，スポーツ推進委員や行政区ごとに地区スポーツ員を委嘱し，スポーツの親睦・推進を図っている。更に，健康増進や体力の向上につなげるスポーツ活動の推進を図り，幅広い世代が楽しみながら体を動かし，体力の向上につなげるニュースポーツ（ペタンク・卓球バレー）の普及に努めている。

平成２４年には川崎町総合型スポーツクラブ「運動笑楽校」が設立され，平成２９年からは，かわさきウォークラン大会に代わり，川崎レイクサイドマラソン大会を開催し，全国から約１，７００名のランナーが参加している。運営には各種スポーツ団体や町民の方々が大会ボランティアとして携わり，まちおこしの一環にもなっている。今後は，少子化の影響等によりスポーツ少年団に加盟する団体や団員が減少していることから町民の運動する場として，総合型スポーツクラブがより一層重要になってくることが想定される。

【視聴覚教育】

主な事業	内容	実施年度
16 ミリ映写機操作技術講習会	教職員・町民の方対象 視聴覚機器の操作技術を養成し，教材の活用と指導者の育成を目指す。	～R1
視聴覚教材センターの活用	町として主な取り組みは行っていないが，視聴覚教育指導員を中心に，視聴覚教材センターでの会議等への出席や，イベントに関わりながら，町内での周知等活用を促している。	～継続

【考察】

視聴覚教育では，教職員や町民の方を対象に１６ミリ映写機操作技術講習会を行っていたが，１６ミリ映写機の利用減少や機器管理の問題から令和元年以降実施していない。現在，視聴覚教育としては，視聴覚教育指導員の派遣や仙南視聴覚教材センター（あずなびあ）の事業への協力のみとなっている。しかし，昨今，情報機器（ＩＴ機器）の普及が進む一方で，操作法や使い方が分からない方々も多いことが目に見えていることから，あずなびあの出前講座などを活用して情報機器の操作法や使い方を学習する講座や講習会等の機会を増やしていかなければならない。

【芸術文化振興】

主な事業	内容	実施年度
川崎町音楽祭	町民の方対象 町内外で活動をする音楽家の様々な音楽にふれることで，音楽への関心を高め豊富な感性を育む。	～H23
川崎町民文化祭	一般，サークル等での活動成果の作品を展示・鑑賞し，文化団体の発表の場を提供することにより，文化活動の底辺拡大を図る。	H3～継続
わらび座ミュージカル 「ジパング青春記」鑑賞	町民の方々に，伊達政宗・支倉常長の偉業をミュージカルから伝え，郷土の誇りを育む。	R1
文化協会団体の育成・援助	川崎町文化協会（現在 18 団体） 文化協会の運営を援助し，活動の活性化を図る	～継続
子どものための演劇鑑賞会	著名な劇団等を招き，迫力ある演劇を鑑賞することで，豊かな感性を育む。	～継続
青少年劇場小公演 （巡回小劇場）	かおり高い芸術を身近に鑑賞する機会を提供し，豊かな情操を養い，健全な心身の育成を図る。	～継続

【考察】

芸術文化振興では，町民の方の文化活動が活発となるよう，その成果を発表する機会として，平成３年から町民文化祭を開催している。町文化協会と毎年文化祭のあり方を検討しながら，広報活動をはじめ，プログラムの作成，来場者アンケートの実施，新たな企画を取り入れながら開催している。

しかし，年々文化協会に加盟する団体，会員数が減少している中，会員の高齢化も進み後継者が必要不可欠となっている。そんな中，新型コロナウイルス感染症拡大の影響でさらに活動が休止となり，活動できない期間が続いている。今後は，若い世代を取り入れるため，文化祭のあり方や工夫の検討，文化協会の活動周知，新規会員募集への支援が必要となる。

【文化財保護】

主な事業	内容	実施年度
遺跡等維持管理	遺跡等の刈り払いや清掃を行うことで，保全と周知を図る。	～継続
指定文化財の管理と整備	国，県，町指定天然記念物や文化財の管理と整備を行う。指定文化財の保護，標柱・案内板等の管理	～継続
遺跡分布調査 （文化財パトロール）	遺跡をパトロールすることで，現状の把握と保全に努める。	～継続
前川本城跡・小野城跡の整備	前川本城跡（錦ヵ館・中之内城），小野城跡の整備と調査を行う。	前川本城跡 ～継続中 小野城跡 R1～
かわさき歴史文化講座	川崎町の歴史を学び，郷土の名勝と旧跡を巡り，先人の足跡をたどることにより郷土への愛着と活性化を図る。	～継続
史跡案内 ボランティア養成講座	町民の方対象。 川崎町の史跡を学び，案内をしていただける方を養成する講座。町外の観光客に対して対応できるよう養成する。	H26～H27
郷土芸能団体育成・援助	4 団体（支倉豊年踊り保存会，本砂金鹿踊り保存会，小野田植踊り保存会，神明神楽保存会） 無形民俗文化財保護団体の活動を助成する。	～継続

【考察】

文化財保護では，国・県・町が指定及び登録した文化財などを保護・整備する文化財パトロール，遺跡等維持管理や遺跡の発掘調査，文化財の講演会の開催や調査報告書等の発刊を行い，文化財の保存・活用・普及に努めている。令和元年には，上廣倫理財団共催による歴史文化フォーラムを開催し町内外から約２５０名が訪れた。現在は山城である前川本城跡，小野城跡の調査や整備に力を入れており，多くの方々が訪れる名所となった。今後は「川崎町は（文化財の）宝の山！」であることからその文化財を活用してＰＲに力を入れていきたいと感じる。

【情報化・国際化】

主な事業	内容	実施年度
かんたん英会話教室	町民の方対象 ALT を講師に一般市民等を対象として英語に慣れ親しみ，外国の異文化に触れ，理解を深めていく機会を提供する。	H23・H26

【考察】

情報化・国際化では，ＡＬＴが講師となり，町民を対象とした英会話教室を開催していた。

しかし，近年，町内企業の外国人労働者の雇用増加，令和２年からは小学校で英語教育が必修化されるなど，情報化・国際化がますます進んでいることから英会話教室を再び実施するほかに，外国人の方との異文化交流の場をつくる機会が必要になる。

【生涯学習振興】

主な事業	内容	実施年度
生涯学習課設置	一生涯学習という理念により，「町民ひとり１学習・1 スポーツ・1 文化活動」をテーマとした社会教育の推進と文化的水準の向上に努め，地域コミュニティとふるさと意識の向上を図る。	H11～継続
花いっぱい運動	町の景観づくりの一環として，花いっぱい運動を推進する。	～継続
川崎版「漢字検定」	町民の方対象 小学校 6 年間で学習する 1,006 字の漢字に対して，様々な角度から「興味」と「関心」をさらに高める。	H25～継続
学習情報の提供	町広報紙や生涯学習要覧等を通じて情報を提供する。	～継続

【考察】

平成１１年度に「社会教育課」から「生涯学習課」へ移行した。生涯学習振興では，一生涯学習という理念により，「町民ひとり１学習・1 スポーツ・1 文化活動」をテーマとした社会教育の推進と文化的水準の向上に努めている。また，「花いっぱい運動」では，年２回，町内の景観づくりの一環として公民館及び分館，こども園，幼稚園，各小中学校，バイパス等の花壇に花の苗を植えている。今後は地域づくりや様々な場面で生涯学習の重要性が必要不可欠となってくることが想定されるため，さらに生涯学習振興に力を入れていかなければならない。

【防災教育】

主な事業	内容	実施年度
防災キャンプ	災害時に必要な避難所開設や避難誘導等の知識を身に付ける。	H27
防災教育	町内の小学生・中学生対象 町総務課防災係と連携し，防災についての知識等を高める。	R2～継続

【考察】

平成２３年の東日本大震災や令和元年東日本台風による被害により，この１０年間で町民の防災に対する意識は高まっている。主に，総務課防災係が中心となり，避難所運営マニュアルの作成，各種訓練，町民を対象とした防災指導員養成講習会（防災士育成）等を開催している。また，生涯学習課に「防災士」として認証されている職員がいるため，令和２年から町内小中学校からの要望があり，総務課防災係と連携をして，避難所備蓄品の使い方や避難生活スペース「がんばるーむ」の組み立て体験の機会を提供している。体験を通じて，児童生徒は避難所運営や過去の災害状況を振り返りながら，防災についての知識や経験が身についている。今後は，災害等が起きた際に若い力が必要となり即戦力として期待されることから，こういった防災教育の場が求められる。

【読書活動推進】

主な事業	内容	実施年度
川崎町子ども読書活動推進計画	子供の自主的な読書を促し，健全な成長に資するため，図書館を中心に家庭・地域・学校等が連携し，子供の読書環境の整備を進めることを目的とした計画。川崎町では，第三次計画まで策定している。	「第一次」 H22～H26 「第二次」 H27～R1 「第三次」 R2～継続
子どもの本展示会	新刊行された本や話題の本を多数展示し，良書にふれる機会を提供する。	～継続
図書貸出事業	教養の向上を図るため，話題の本や様々なジャンルの図書を整備し，貸し出しをする。	～継続
県図書館オンライン システムの活用	県図書館オンラインシステムを活用し，貸し出しをすることで，図書の有効活用を図る。	～継続

【考察】

読書活動推進では，町内の小学生・中学生及びその保護者を対象としたアンケートをもとに「子ども読書推進計画」を５年に一度策定し，子ども読書活動の推進を行っている。また，公民館内の図書室の図書の充実に努め，町広報紙や図書室だよりで新書・新刊のお知らせ等をして，図書を利用する機会を増やし，読書活動の推進を図っている。そして，令和元年度には，図書の貸し出し方法が台帳管理（図書カード記入）からエクセルデータを活用した「バーコード電子化」となり，利便性が向上した。今後は，さらなる読書活動推進のために，電子書籍の導入や現在のニーズに合った施設整備等が必要になる。

【年表】

年度	項目
H23	・かわさきっ子応援団（協働教育プラットフォーム）事業開始 ・「オリンピックデー・フェスタ in かわさき」開催　谷本歩実選手・鶴岡剣太郎選手来場 ・仙南青年文化祭 in 川崎　Ｓ1 グランプリ～まるまるもりもりみんな食べるよ～開催
H24	・川崎町総合型スポーツクラブ「運動笑楽校」設立 ・青根温泉「不忘閣-佐藤仁右衛門旅館」古文書調査開始 ・各小学校閉校（青根分校・碁石小・川内小・支倉小・本砂金小） ・富岡小学校新設 ・スクールバス運行開始
H25	・無形民俗文化財に 4 団体（本砂金鹿躍保存会・小野田植え踊り保存会・ 宮城蔵王支倉豊年踊り保存会・川崎神明神楽保存会）が町指定となる ・川崎町Ｂ＆Ｇ海洋センターアリーナの年間利用者が初めて 2 万人達成
H26	・歴史講演会「川崎のほこり-笹谷街道沿線の戦国志～砂金氏の動向を中心に～」開催 ・国の有形文化財に青根温泉「不忘閣」の 7 棟が登録 ・教育委員会 川崎町 志 18 年教育「学びの架け橋レインボープラン」文部科学大臣賞受賞 ・史跡案内ボランティア養成講座開始 ・大河原教育事務所管内社会教育推進大会・協働教育研修会が川崎町で開催 ・今宿地区の方々による川崎二小応援団（見守り隊）が設立 ・子育て支援グループ「おひさまピカピカ」が発足
H27	・町村合併 60 周年記念「川崎町郷土史年表」発刊 ・「川崎町高齢者大学」が「川崎シニア大学」へ名称変更 ・川崎町Ｂ＆Ｇ海洋センターの多目的コートにナイター照明が設置 ・川崎町歴史友の会が発足
H28	・国の有形文化財に青根温泉「岡崎旅館」北棟・南棟が登録 ・みやぎヘルシー2016 ふるさとスポーツ祭大河原管内大会が川崎町で開催 ・仙南地域広域文化祭仙南長持唄大会が川崎町を会場として開催
H29	・第 1 回川崎レイクサイドマラソン大会開催 ・『川崎町の文化財第 12 集 古文書』発刊
H30	・川崎町の文化財第 12 集「古文書」発刊記念講演会開催 ・上廣歴史文化フォーラム「川崎の戦国時代」開催 ・大河原教育事務所管内文化財担当者等研修会 「山城から見えるものとは」・「本城見学会」開催
R1	・仙南青年フェスティバル 2020in かわさき～みんながあつまればおもし令和～開催 ・仙南地区子ども会育成会連絡協議会子ども会育成成人指導者研修会 「避難所運営ゲームＨＵＧ(ハグ)体験」開催 ・上廣歴史文化フォーラム「仙台藩の街道・古道－笹谷街道中心に－」開催 ・わらび座によるミュージカル「ジパング青春記」開催 ・パネル展示　川崎町の古絵図，地域の歴史を知る「川崎町の近代-温泉･交通･災害-」 ・青少年のための宮城県民会議　在学青少年社会参加活動善行団体として 川崎町ジュニア・リーダーサークルＰ・Ｔ・Ｅが受賞 ・川崎町図書館貸し出し方法が台帳管理からエクセルによる「バーコード電子化」へ変更 ・川崎町Ｂ＆Ｇ海洋センター10 年連続「特Ａ」評価を獲得し表彰
R2	・川崎町Ｂ＆Ｇ海洋センター改修（アリーナＬＥＤ化等）工事　※Ｂ＆Ｇ財団修繕助成活用 ・小野城整備・測量調査 ・川崎要害調査 ・国の特別天然記念物「コウノトリ」が飛来し巣作り始める ・仙南地区子ども会育成会連絡協議会表彰（ジュニア・リーダー組織の部）を川崎町ジュニア・リーダーサークルＰ・Ｔ・Ｅが受賞 ・ジュニア・リーダー移動研修会開催（石巻市　サン・ファン館・旧大川小学校視察） ・前川小学校閉校

丸　森　町

丸　森　町

【少年教育】

主な事業	内容	実施年度
ジュニア・リーダー初級研修会	地区子ども会の活動支援において，重要な役割を持つジュニア・リーダーを養成するため研修会を開催する。	～継続
少年講座	体験的活動を中心とした少年講座を全町対象に開催し，心豊かでたくましい子どもの育成を図る。R1 の 10 月以降は，令和元年東日本台風災害のため，R2 は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。	H12～継続
山の子キャンプ	町内小学５・６年生を対象に，野外活動を行うことにより，自主性や協調性などを育み，参加者同士の交流やジュニア・リーダーとの交流を図る。	～継続

【考察】

体験的活動を中心とした少年教育の推進を図り，子ども会活動の充実のため支援を行っている。また，ジュニア・リーダーの養成と日常活動の推進をするとともに，活動の促進と資質の向上を図っている。

丸森町のジュニア・リーダーは平成２８年度から減少してきており，平成２８年度と令和２年度のジュニア・リーダー数を比較すると半減している状況である。その理由として，初級研修会の受講者が近年は２～４人となっていることが挙げられ，活動者が限定していることや，後輩への技術継承が課題となっている。

今後，ジュニア・リーダーの課題解決に向けて，どのようにすれば活動者を増やすことができるかなどを考え，ジュニア・リーダーと共にＰＲ活動などを積極的に行っていきたい。

【青年教育】

主な事業	内容	実施年度
丸森町成人式	丸森町として大人への仲間入りをする新成人の新しい門出を祝福し，今後の活躍を祈念し励ます目的で開催する。令和元年東日本台風災害のため，R2 の成人式は８月に延期し開催した。	～継続
はたちの記念事業	青年自らが企画立案し，青年相互の交流を深めるとともに，青年活動への参加を促進するため，はたちの記念事業実行委員会を組織する。令和元年東日本台風災害及び新型コロナウイルス感染症拡大のため R1,R2 は中止となった。	H12～継続
青年講座	青年の町内での活動機会の提供と青年活動の定着化や青年相互の交流機会の提供を目的とした事業を実施する。	～H28

【考察】

青年の町内での活動機会の提供と青年活動の定着化や青年相互の交流機会の提供を目的とした事業として青年講座を実施していたが，平成２９年度から実施できていない。

丸森町では，「まるもり町青年団 Re:birth.」という青年団組織があり，主な活動内容として，町内の清掃活動やジュニア・リーダーとの交流を行っている。

青年をターゲットとした事業展開が難しく，青年を集めるためにはどのようにすればよいのか，青年の町内での活動機会の提供と青年活動の定着化を図るため，青年団組織と連携し，事業を展開していかなければならない。

【家庭教育】

主な事業	内容	実施年度
家庭教育セミナー	家庭教育の意義や重要性を認識するため，家庭，学校，地域が連携して心豊かな子どもたちの育成を図るため講演会を実施する。R2 は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。	S59～継続
読み聞かせ講座	保育所及びこども園利用児童の保護者を対象に読み聞かせ講座を実施し，読み聞かせの大切さを学ぶ講座を開催している。	～継続
読み聞かせボランティア講座	中高生を対象に読み聞かせの基本的な知識と実演の技術を学び，実際に読み聞かせを体験し，今後の活動参加へのきっかけづくりを行う。	～継続

【考察】

家庭の教育力の低下，情報化に伴う様々な青少年問題などに対応するため，ＰＴＡ連合会，子ども会育成会と共催で，家庭教育セミナーを開催し，心豊かな子どもたちの育成を図っている。

また，子どもの成長・発達を促す読み聞かせ活動の定着化を目指し，こども園・保育所等との連携を図り，家庭における読み聞かせ活動を推進しているほか，読み聞かせの基本的な知識と実演の技術を学び，実際にこども園で読み聞かせを体験しながらボランティア活動の喜びを感じ，今後の活動のきっかけづくりとしている。

【高齢者教育】

主な事業	内容	実施年度
はつらつ学園	健康で生きがいのある生活を送るための学習を行い，高齢者の社会参加活動と生涯にわたる学習活動の推進を図る。	H16～継続

【考察】

丸森町は超高齢社会の地域であり，高齢化率が令和３年３月３１日時点で４２．５％となっている。

高齢者教育のねらいは，「高齢者の安らぎと生きがいの創造」「高齢者の自立」「高齢者の現役支援」などを目的としており，「はつらつ学園」は，一般教養や健康，生きがい等に関する内容を講義や実技講習により年間で全５～８回で学習する。講座の参加者は例年多く，参加することによって一定の効果はあるが，学習企画運営などといった自主活動やリーダーの養成を図るとともに，学習の成果や高齢者の知恵・技能を活かす活躍の場をつくる必要がある。

今後の課題として，どの事業もリピーターの参加が多数を占め参加者の固定化がみられるため，今後新しい層の参加を促していかなければならない。

【成人教育】

主な事業	内容	実施年度
成人講座	講座の種類は多岐にわたり，生涯にわたる生きがいづくりのため，成人講座を開催している。	～継続
齋理蔵の講座	東北大学と連携・協力し，「学ぶ」ことの意義と知識を身につける「楽しさ」を知ってもらい，学習意欲を喚起する。	H20～継続
ふるさと学習事業	地域の団体と連携して「ふるさと学習バス」事業を実施し，ふるさと学習を通して地域の理解と郷土愛を深める。R1 の 10 月以降は，令和元年東日本台風災害のため，R2 は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。	H29～継続

【考察】

平成２７年度から平成２９年度までの３年間，成人講座の初心者向けの基礎講座としてアクリル絵画入門講座を開催し，自主的活動を進めるためのアクリル絵画愛好会の設立を支援し，当時の参加者で構成された組織化に成功した。また，ふるさと学習を通して，地域の理解と郷土愛を深めることを目的として，平成２９年度からは地域の団体と連携して「ふるさと学習バス」事業を実施し，初年度は６団体８２名の参加があった。

参加者は，年齢層の高い方や女性が多く，青年層を含む若い男性が少ないのが現状であり，様々なニーズがある中で，魅力あるテーマの設定など参加者を今後増やしていく方法を検討していかなければならない。

【女性教育】

主な事業	内容	実施年度
女性講座	女性の学習活動を奨励し，時代の進展にあわせた教養を深めることを目的に講座を開催する。R2 は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。	H11～継続
女性団体活動支援	丸森町連合婦人会の活動支援と財政援助を行うとともに，組織の運営や課題に関する研修を奨励し女性団体の活動を推進する。	～継続

【考察】

女性講座では，エコクラフト講座や着物レッスン，料理教室等を開催した。その他に，女性団体活動の支援として，「丸森町連合婦人会」の活動支援を行っている。しかし，会員の高齢化による後継者不足や担い手不足が深刻であり，地区婦人会を解散するという地区も出始めており，会の存続や活力衰退が大きな課題の一つである。

魅力ある事業や，魅了ある組織づくりを行い，誰もが参加しやすい組織とするためにはどのようにしていくべきなのか，検討していかなければならない。

【協働教育】

主な事業	内容	実施年度
放課後子ども教室	放課後子ども教室を開設し，地域の方々の協力を得て，子どもたちの安全で安心な居場所づくりに努める。	H18～継続
地域学校協働活動推進事業	県の補助事業を受け，学校教育支援，家庭教育支援，地域活動支援の各事業を実施する。	～継続

【考察】

学校教育と社会教育の協働により，効果的な事業を展開するため，学校教育・家庭教育・地域活動を支援する地域学校協働活動事業を推進している。

学校教育と社会教育の連携によって，効果的な事業を展開するため，情報共有・意見交換のための会議を開催（年２回）するほか，放課後子ども教室を開設している。

【スポーツ振興】

主な事業	内容	実施年度
丸森ウォークラリー大会	誰もがスポーツ･レクリエーション活動に親しめるよう，老若男女を問わずに参加できるウォークラリー大会を開催し，健康づくりや世代間･地域間交流を図り，ひいては地域力の向上に寄与すること，さらには町内外へ丸森町の持つ魅力を発信することを目的として開催する。令和元年東日本台風災害及び新型コロナウイルス感染症拡大のため R1，R2 は中止となった。	H7～継続
こどもリレーカーニバル 角田・丸森大会	角田市と共催し，陸上競技への参加機会を提供し，競技力の向上を図る。R2 は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。	～継続
社会体育団体支援	スポーツ少年団及び体育協会の運営支援と財政援助を行うとともに，各種大会開催を支援する。	～継続

【考察】

誰でも気軽に楽しめるニュースポーツ行事として丸森ウォークラリー大会を毎年１１月に開催しており，町内外から多くの参加者が集まっている。また，丸森町体育協会や丸森町スポーツ少年団の活動支援や，スポーツ推進委員事業として各地区でニュースポーツ研修会を開催するなど，町内のスポーツ振興を図っている。

【視聴覚教育】

主な事業	内容	実施年度
自作教材制作支援	身近な教材・ふるさと教材を自作し学校教育・社会教育の学習に活用するため，視聴覚教材自作活動を奨励し，制作活動者の支援を行う。	～継続

【考察】

自作教材制作支援のほか，視聴覚教育指導員並びに社会教育専門部員を配置し，仙南視聴覚教材センター（あずなびあ）と連携・協力して、視聴覚教材及び機材の充実と活用を図っている。

【芸術文化振興】

主な事業	内容	実施年度
町外芸術鑑賞	優れた芸術文化を鑑賞する機会を提供するため，町バスを運行し，芸術鑑賞活動の支援を行う。	H9～継続
芸能発表大会・総合文化祭	町民の文化活動の発表機会の提供や芸術文化活動の振興発展を図る事業を行った。	～継続

【考察】

町バスを運行し優れた芸術文化を鑑賞する機会を提供するほか，心豊かな子どもを育成するため，青少年劇場小公演や巡回小劇場を開催し，優れた芸術を生で鑑賞する機会を提供している。
また，芸能発表大会や総合文化祭の開催を通じて，町民の文化活動の発表機会の提供や芸術文化活動の振興発展を図る事業を実施している。

【文化財保護】

主な事業	内容	実施年度
丸森町民俗芸能鑑賞のつどい	民俗芸能の保存・伝承と発表機会を提供する。R1 は令和元年東日本台風災害のため，R2 は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。	H24～継続
文化財めぐり	文化財に対する理解と関心を高めるため，文化財友の会と連携し，文化財めぐりを行う。	～継続
丸森ふるさと歴史講座	町の歴史文化等への興味関心を高め，郷土愛を育むため，町の歴史を学ぶ講座を開催する。	R1～継続
遺跡発掘調査	開発行為に伴い埋蔵文化財の範囲確認，性格確認のため県文化財課と協力し，発掘調査等を実施する。	～継続
文化財調査報告書の発行	発掘調査の結果の記録保存のため，文化財調査報告書を発行する。	～継続

【考察】

町の指定文化財への指定や遺跡の発掘調査，文化財研修会や文化財調査報告書の発刊を行い，文化財の保存活用に努めている。また，民俗芸能の保存・伝承と発表機会提供を目的に，民俗芸能鑑賞のつどいを行っている。しかしながら，令和元年東日本台風災害及び新型コロナウイルス感染症拡大の影響から，事業が中止となっている。

【情報化・国際化】

主な事業	内容	実施年度
ヘメット市との姉妹都市交流	アメリカ合衆国のヘメット市と姉妹都市となっており，中学生の相互訪問を中心に交流を図っている。	H2～継続
ザンビア共和国のオリンピックホストタウン	東京 2020 東京オリンピック・パラリンピックホストタウン事業の一環として，ザンビア共和国のホストタウンとなった。	R1～継続

【考察】

アメリカ合衆国のヘメット市と姉妹都市となっており，中学生の相互訪問を中心に交流を図っている。また，東京２０２０東京オリンピック・パラリンピックホストタウン事業の一環として，ザンビアのホストタウンとなった。

近年の情報機材の普及は目覚ましく，職場や家庭にパソコンが普及し，インターネット，メールなど世界中の人々と交流している。また，新型コロナウイルス感染症拡大の状況から，非対面で会議等のやり取りをすることができるオンラインシステムも普及しつつある。職場の会議や講演等もオンラインによる開催が多くあり，基礎技術の習得が必要となっている。

【生涯学習振興】

主な事業	内容	実施年度
生涯学習推進町民のつどい	生涯学習への理解と関心を高めるとともに学習団体の発表の機会を提供し，生涯学習の振興を図った。R1 は令和元年東日本台風災害のため，R2 は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。	H2～継続
出前講座	地域の人材活用の促進と，町民の学習を支援するため，要望等に基づき出前講座を実施し講師を派遣する。	～継続

【考察】

生涯学習への理解と関心を高めるとともに，学習団体の発表の機会を提供し生涯学習の振興を図った。また，地域の人材活用の促進と町民の学習を支援するため，要望等に基づき出前講座を実施し講師を派遣した。

【防災教育】

主な事業	内容	実施年度
山の子キャンプ	町内小学 5･6 年生を対象に既存の事業へ防災教育を取り入れ，防災講話や段ボールベット体験等を行った。	R2

【考察】

平成２３年３月１１日の東日本大震災による原発被害や，令和元年東日本台風による被害により，丸森町はここ１０年で２度の大きな災害に見舞われている。特に，令和元年１０月の東日本台風災害は，町政史上最悪な出来事であり，家屋倒壊や町内中心部の浸水による役場機能の停止，死者・行方不明者も発生する事態となった。この教訓を活かし，既存の事業に防災学習を取り入れ，学習内容に防災教育に関するメニューを積極的に盛り込んでいきたい。

【読書活動推進】

主な事業	内容	実施年度
セカンドブック事業	小学校新入学児童への本の提供事業。本を読む楽しさを感じてもらい，将来的な読書活動を促す。また，保護者に読み聞かせをする機会をもってもらうことによって読書の大切さを感じてもらう。	R1～継続
丸森町読書感想文大賞	子どもや若者が本に親しむ機会を提供し，読書の楽しさやすばらしさを体験させ，読書の習慣化を支援する。	R1～継続

【考察】

金山図書館及び丸森まちづくりセンター図書室の図書の充実に努め，朗読会を開催するなど，読書活動の推進を図っている。また，読み聞かせの基本的な知識と実演の技術を学ぶ機会を図った。

【年表】

年度	項目
H23	・東日本大震災　震災復興支援コンサートを開催 ・丸森町の文化財第 32 集「丸森の猫神さま」発行 ・中学校再編により丸舘中学校・大内中学校・丸森東中学校・丸森西中学校が閉校
H24	・放課後子ども教室　大内小学校「うりぼうズ」が放課後児童クラブとの併設に移行 ・奉謝祭（小斎）を丸森町無形民俗文化財に指定 ・7 年ぶりに丸森町民俗芸能鑑賞のつどい開催 ・丸森中学校が開校 ・仙南青年文化祭を丸森町で開催
H25	・夏季巡回ラジオ体操・みんなの体操会を丸森中学校で開催 約 1100 名が参加し全国放送される
H26	・丸森町文化財第 33 集「丸森橋のあゆみ」発行 ・丸森町合併 60 周年記念式典を実施 ・丸森小学校羽出庭分校　閉校
H27	・文部科学省補助事業「放課後子ども教室推進事業」を受け，小斎小学校に放課後子ども教室を開設 ・オリンピック・デー・フェスタを開催 ・丸森町文化財調査報告書第 22 集「台町遺跡・台町古墳群－阿武隈川下流右岸金山地区河川改修事業に伴う発掘調査報告書－」発行
H28	・文部科学省補助事業「放課後子ども教室推進事業」を受け，耕野小学校に放課後子ども教室を開設 ・ふるさと学習を通して地域の理解を深め，郷土愛を持った生徒を育成するため，「子ども郷土誌」を発行
H29	・「ふるさと学習バス」事業を開始 ・丸森町文化財調査報告書第 23 集「台町遺跡・台町古墳群－阿武隈川下流右岸金山地区河川改修事業に伴う平成 28 年度発掘調査報告書－」発行
H30	・丸森町の文化財第 34 集「平成新訂版丸森町郷土史年表」発行
R1	・放課後子ども教室　小斎小学校「こめっ子クラブ」が放課後児童クラブに移行 ・小学校新入学生児童を対象に，選定したリストから希望の絵本 1 冊を提供する「セカンドブック事業」を開始 ・新規事業　丸森ふるさと歴史講座を開始 ・新規事業　読書感想文大賞事業を開始 ・丸森町文化財調査報告書第 24 集「長内遺跡－町道改良事業に伴う平成 29 年度発掘調査報告書－」発行 ・令和元年東日本台風災害により，家屋倒壊や町内中心部の浸水による役場機能の停止，家屋への浸水や土砂崩れにより死者・行方不明者が発生
R2	・放課後子ども教室　大内小学校「うりぼうズ」が放課後児童クラブ単独事業に移行

仙南地域広域行政事務組合

【少年教育】

主な事業	内容	実施年度
えずこ ワークショップ事業	演劇，ダンス，照明・音響などの様々な体験を提供する事業。	H23～継続中
えずこ 中学生招待公演	大河原町・村田町・柴田町の中学２年生を対象に，本物の舞台芸術を鑑賞・体験いただくとともに芸術文化をとおして感性豊かな人材育成を図る事業。	H8～継続中

【考察】

えずこホールでは継続してワークショップ事業を実施。また，中学生招待公演として舞台芸術の鑑賞・体験の機会を提供している。

【高齢者教育】

主な事業	内容	実施年度
えずこ 60 歳からのたのしいクラブ活動	60 歳以上の方を対象とした，誰でも楽しく参加できる音楽・演劇の参加体験プログラム。H25 は「60 歳からのたのしいエンゲキ」として実施。	H25～継続中
教セ 出前講座（高齢者パソコン講座）	教材センター職員が出向き，住民の細かな要望に対応した講座を開催し，学習活動を支援する出前講座の一環として実施。	H27～H29
教セ シニアにやさしいかんたん！ビデオ講座	基礎的なパソコンの操作方法と，少し発展させた複数の画像や動画を組み合わせた動画制作の方法を修得する。 H27 は「シニアライフに向けたパソコン講座」として実施。 R1 より「初心者にやさしいかんたんビデオ講座」として対象年齢を設けず実施。	H27～R1

【考察】

高齢化が進む中，えずこホールでは平成２５年度より６０歳以上を対象とした事業を開始。教材センターでも平成２７年度より高齢者対象のパソコン講座を開始した。

【成人教育】

主な事業	内容	実施年度
えずこ 圏民参加体験事業（ワークショップ，アウトリーチ）	アーティストが地域に出向き，各種ワークショップや参加体験を通し，日ごろ文化芸術に触れる機会の少ない地域に対して，施設が働きかける事業。	H8～継続中
教セ 出前ｄｅあずなびあ（出前講座）	教材センター職員が出向き，住民の細かな要望に対応した講座を開催し，学習活動を支援する事業。	H26～継続中
教セ 初心者にやさしいかんたん！ビデオ講座	基礎的なパソコンの操作方法と，少し発展させた複数の画像や動画を組み合わせた動画制作の方法を修得する。	R1～継続中

【考察】

えずこホールでは各種ワークショップやアウトリーチ事業を，教材センターでは視聴覚機材を活用した講座を継続して実施している。

【協働教育】

主な事業	内容	実施年度
えずこ えずこキャラバン（各種アウトリーチ事業）	学校，福祉施設ほかさまざまな社会機関と連携，協働して展開する事業。アーティストが地域内の学校，施設へ出向いて実施。	H12～継続中
教セ 現場訪問事業	視聴覚教育指導員と共に圏域の学校等各種施設を訪問し，現場で求めるニーズを調査。今後の事業に活用する。	H25～継続中 （R2 中止）
教セ おでかけ！あずなびあ！	教材センターとえずこの共同事業。仙南地域の各教育機関，福祉ボランティアグループ等と連携し，視聴覚教材や体験活動を通して地域の将来を担う子どもたちの情操を育む事業。	H29～継続中

【考察】

えずこホールでは以前から学校等と連携しアウトリーチ事業を展開してきた。
視聴覚教材センターでも，学校等のニーズを把握するため平成２５年度から現場訪問事業を実施し，教材・機材の整備や事業計画に反映しているが，令和２年度についてはコロナウイルス感染症対策のため，中止した。平成２９年度からはえずこホールとの共同事業として，おでかけ！あずなびあ！を行い，教材・機材の活用機会を増やしている。

【視聴覚教育】

主な事業	内容	実施年度
教セ 出前ｄｅあずなびあ（出前講座）	教材センター職員が出向き，住民の細かな要望に対応した講座を開催し，学習活動を支援する。主な内容は，ビデオ編集講座，プロジェクター操作講座，ビデオ通話（zoom）講座，タブレット端末講座など。	H26～継続中
教セ 教育メディア研修会	情報通信技術の進展に伴い，学校教育及び社会教育において教育メディアを適切に，効果的に活用するため，それらについての知識や技術の向上を図る目的で実施。	H19～H26
教セ ビデオ編集講座	自作視聴覚教材を製作するための知識や技術の習得を目的に開催。編集はパソコンのほか，令和２年度からはタブレット端末でも行っている。	H26～継続中
教セ あずなびあまつり	視聴覚教材センターをより身近に感じていただき，親しみを持ってもらうために開催。	H20～継続中
教セ 仙南ふるさとC-M（コミュニティメディア）グランプリ	自作教材の制作技術の向上・教材制作の奨励及び自作教材の整備充実を図るため開催。優秀作品については，全国自作視聴覚教材コンクールへの推薦を行っている。	S53～継続中

【考察】

平成２８年１月１日に視聴覚教材センターは，仙南地域広域行政事務組合庁舎からえずこホールに事務所を移転し，愛称を「あずなびあ」とした。

あずなびあまつりについては，平成２７年度からおもちゃを交換できる「かえっこプログラム」を利用して実施。平成２８年度から教材センターの愛称に合わせた名称に変更した。

教材・機材については，１６ミリ映写機やビデオデッキの生産が終了し，修繕することが難しくなった。１６ミリフィルムの使用回数も減少したため，定期開催していた１６ミリ映写機操作技術講習会は，依頼のあった時のみの開催となった。現在はＤＶＤ教材を中心に整備をしているが，オンデマンドサービス等の普及により，教材の貸し出し需要は減少傾向にある。

主催講座の内容はパソコン中心で行っていたが，令和２年度よりタブレット端末を使用したものや，ビデオ通話アプリの使い方などが主流となってきた。

仙南ふるさとＣ-Ｍ（コミュニティメディア）グランプリは，昭和５３年度から「仙南地区自作視聴覚教材発表会」として実施していたが，平成２９年度に名称を変更した。

【芸術文化振興】

主な事業	内容	実施年度
教育委員会 AZ9ジュニア・アクターズ養成事業	演劇への参加を通して，将来の文化活動を担う人材の育成と，郷土の共有意識の醸成，交流の拡大を図るため実施。仙南地域２市７町に住む小学校４～6年生が参加し，毎年２月に公演を行っている。	H5～継続中
教育委員会 AZ9パスポート事業	仙南圏域及び県南６圏域の社会教育施設等の無料開放を受けることができるパスポートを作成。圏域内の小中学生に配付している。3年ごとに更新。	H5～継続中
教育委員会 AZ9エリアマップ事業	地域の文化や観光を紹介する観光マップを作成し，圏域内外の主要な施設，交通拠点等で配布する。	H5～H23

【考察】

文化振興事業については，圏域分活性化事業の一環として，仙南地域ふるさと市町村圏計画の下位計画である広域活動計画に基づき，ふるさと市町村圏基金の運用益を財源として行っている事業であり，平成１８年度より教育委員会所管となった。

近年は長期金利の低下や市町村の厳しい財政状況などもあり，平成２８年に２億円（構成市町１億，県１億）を残して構成市町に返還し，令和４年度までは２億円の運用益とこれまでの基金繰入金（残余金）で事業を実施する予定となっている。事業継続について，令和５年度以降の財源をどうするかが課題となっている。

【情報化・国際化】

主な事業	内容	実施年度
教セ ホームページ作成講座	ホームページビルダーの操作，WebサイトやWebページの作成，画像や表の挿入など視聴覚教材制作に必要なホームページ作成についての応用的な知識や技術を習得する。	H14～H26

【考察】

情報発信教育として，ホームページ作成講座を展開していたが，近年ＳＮＳ等が発展したためか，需要が減少したことにより平成２６年度で終了している。

【年表】

年度	項目
H23	・全国自作視聴覚教材コンクール 入選　「蔵王連峰　湿原物語」（社会教育　ビデオ） 制作：大河原町自作視聴覚教材制作グループ　大浦 利昭
H24	・全国自作視聴覚教材コンクール 最優秀賞　「蔵王町　ふるさとのむかしばなし」（社会教育　紙しばい） 制作：蔵王町教育委員会
H25	・全国自作視聴覚教材コンクール 入選　「船岡用水と六沼干拓」（学校教育　ビデオ） 制作：柴田町立東船岡小学校　大脇 賢次
H26	
H27	・全国自作視聴覚教材コンクール 入選　「雨乞いの壺　～鹿島神社の伝説　その２～」（学校教育　紙しばい） 制作：齋藤良治，引地昭夫，丸森町教育委員会
H28	・教育委員会事務局および視聴覚教材センターを，えずこホール内へ移転。 ・視聴覚教材センター愛称が「あずなびあ」に決定。 ・全国自作視聴覚教材コンクール 入選　「木の命を活かす」（学校教育　ビデオ） 制作：柴田町立東船岡小学校　大脇 賢次
H29	・全国自作視聴覚教材コンクール 入選　「ふるさと柴田の桜」（社会教育　ビデオ） 制作：柴田町立東船岡小学校　大脇 賢次
H30	
R1	・全国自作視聴覚教材コンクール 入選　「もみの木はなぜのこったの？」（社会教育　紙しばい） 制作：あべひろこ 入選　「はしれ！あぶきゅう」（社会教育　紙しばい） 制作：玉手富士夫
R2	・全国自作視聴覚教材コンクール中止（翌年に２年分をまとめて審査）

グループワーク

１　グループワークの実施に至るまで

平成２３年からの１０年間の変遷について調査を進める中で，それぞれが所属している市町の社会教育の変遷について理解を深めることができた。さらに，所属する市町にとどまらず，大河原地区全体の変遷へと視野を広げ，共通の課題や今後に生かせる光を見出すためにグループワークを取り入れることとした。

今回は１５の分野について調査・集約を行ってきたが，全ての分野を掘り下げてグループワークを実施することは時間の都合上，困難であったため，一部の分野に絞り実施することとした。

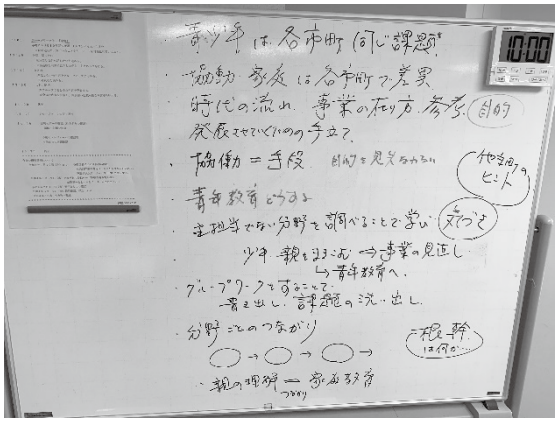
分野の選定には，この１０年間で特に変化が大きい分野について理解し，今後の取組に生かしたいという理由から「協働教育」が挙げられ，同分野に連携する「家庭教育」「青少年教育」を合わせて取り上げることとした。

１）　期　日　令和３年１２月１５日（水）※第７回研修委員会

２）　内　容　①「青少年教育」②「協働教育」③「家庭教育」

３）　手　順　経験者，未経験者が混在するよう２グループに分かれ，それぞれの市町における１０年間の変遷について発表した。その後，グループ内で話し合いを行い，まとめた内容を全体に発表し共有した。
３つの分野について共有後，全体でグループワークの振り返りを行った。

▲各市町の発表からキーワードを付箋に書き込み，グループ内で整理



▲全体で共有し，管内全体での動きや共通の課題を確認

２　グループワークのまとめ

＜①青少年教育＞

青少年教育を担当した経験があるメンバーが多く，それぞれの経験を踏まえて各市町の取組や感じている課題についてキーワードを出し合い，共有を行った。主にこの分野では，「子ども会」，「ジュニア・リーダー」，「青年会（青年団）」の活動が挙げられ，変化してきた部分や変わらない部分を確認したほか，課題を解決するにはどうすべきか意見を共有した。

主な意見

①青少年教育を活性化し，青年活動に繋げていくためには，まず少年教育の事業に参加させる保護者の理解が必要となってくる。

②青年会（青年団）として活動するメンバーの中には，ジュニア・リーダーのＯＢ・ＯＧが多く，ジュニア・リーダー活動の活性化が必要となってくる。

③村田町のように，少年教育事業への参加を促すため，ポイント制（イキイキ楽習ポイント）を導入し，景品は学校の集会の場で渡すような学校との連携を行っているところもある。

④子どもの頃からの青少年事業に参加する経験が子ども会活動→ジュニア・リーダー活動→青年会（青年団）活動へ繋がっていることを確認できた。

⑤新型コロナウイルス感染症対策でのプログラムの見直しが，事業参加の意識を向上させるきっかけにもなっている。例えば，一日開催から半日開催に短縮するなど。

まとめ

グループワークを通じて，青少年教育は各市町で参加者およびジュニア・リーダー会員が減少しているなど同じような課題を抱えていることがわかった。

青少年教育で重要なことは，いかに子どもたちを子ども会活動や少年教育事業に参加させるかということ。そのためには，保護者の理解や学校との連携が不可欠であること。そして，参加したくなるような魅力ある事業の開催，参加することでポイントが貯まるなどの仕掛けを作っていく必要があると再認識することができた。この，子どもの頃からの事業参加経験が，後のジュニア・リーダー活動，青年会（青年団）活動へつながっていくと考えられる。

＜②協働教育＞

「協働教育」は，家庭・地域・学校が協働して実施する教育活動として，また，地域と学校をつなぐ仕組みをつくり，両者の良好な関係を広げることにより学校教育と社会教育の一層の充実を図る一つの手法として，全国的にも宮城県が早い段階で取組を開始したとされている。大河原管内においても，協働教育推進に向けた取組が普及・定着しており，各市町の特色を生かした様々な事業が実施されているが，特にこの１０年間における各市町の実情などについて，課題も含め，グループワークにて共有を図ることとした。

主な意見

①宮城県が進めてきた協働教育であるが，平成２９年３月の社会教育法の改正により，「地域学校協働活動」としてさらに浸透し，その活動を推進していくため，全国的に地域学校協働本部の設置等，事業の整備が始まった。大河原管内の各市町においても，地域学校協働本部またはそれに準ずる組織等を基盤として，地域学校協働活動の推進に努めている。

②活動を行う上で，自治体によっては，ボランティアバンクが存在するところ，しないところがあり，ボランティア派遣のあり方に違いが見られる。また，統括（地域）コーディネーターを教育委員会事務局職員が兼務している自治体がある一方，専属的なコーディネーターを採用しているところもある。専属のコーディネーターはその職務に専念することができるため，学校のニーズをしっかりと把握し，企業等とのマッチングを行うなど，幅広い活躍により事業運営の中核を担っている。

③地域学校協働活動というと，内容として「学校等への地域ボランティアの派遣」のイメージが先行する。この１０年の間で，協働教育は家庭・地域・学校の「三本柱」といわれるようにもなり，それぞれの支援に偏りがないよう努めることが重要である。

④法改正後，宮城県内では，すべての小・中学校に校務分掌の位置づけで「地域連携担当」を置くこととされた。地域連携担当の教職員と統括（地域）コーディネーターが連携・協力し，円滑な連絡調整を図りながら事業を展開することが理想とされるが，様々な理由から学校ごとに活動内容に格差が生じている現状もあり，一つの課題となっている。

⑤協働教育はあくまで目的を達成するための「手段」である。

まとめ

この１０年間で大きな変化を遂げた「協働教育」をテーマとしたグループワークでは，各市町の地域学校協働活動の実施状況について様々な話題が取り上げられる中，その組織体制やボランティアバンクの有無，コーディネーターのあり方など，市町ごとに大きく異なっていることが分かった。

地域学校協働活動の「学校等への地域ボランティアの派遣」という先行イメージについては，現状，地域ボランティアによる学校等での活動は，子どもたちの学びが充実するだけでなく，子どもたちの学びに携わることで，地域住民の生きがいづくりにもつながっており，地域学校協働活動を実施する上で地域ボランティアからの協力は必要不可欠なものとなっている。しかしながら，「家庭・地域・学校が協働して実施する教育活動」が地域学校協働活動（＝協働教育）であるとともに，法改正後に地域学校協働活動と呼ばれるようになってからは，そのことに加え，子どもたちが地域のために活動し，地域づくりに関わることで地域活性化につなげることも目標として掲げられ，「双方向に利点のある教育活動」として普及している。つまりは，協働教育は家庭教育や少年教育とも深いかかわりがあり，事業実施の際には大きな重なりが生じるものであるため，家庭教育支援，地域活動支援，学校教育支援すべてが充実できる事業を展開していくことが重要となる。

法改正後，県内小・中学校に必置となった「地域連携担当」は，学校と地域の窓口としての役割を担うばかりでなく，地域学校協働活動の推進において大変重要な存在である。学校ごとに活動内容に格差が生じているという課題については，地域学校協働本部やそれに準ずる組織等がしっかりとした基盤を構築し，地域学校協働活動を行う関係者同士で活動の悩みや情報などを共有し，可能な限り学校間での格差を無くしていくことに努める必要がある。

そして，協働教育はあくまで目的を達成するための手段であり，地域学校協働活動を円滑に，効果

的に実施していくためには，それを見失わないことが重要である。家庭・地域・学校の協働のもと，子どもたちの豊かな学びを創出するとともに，活動をとおして生まれる「人とのつながり」を大切にし，活力のある元気な「人づくり・地域づくり」につなげていくことが，協働教育の本質であるものと考える。

＜③家庭教育＞

家庭教育を担当した経験があるメンバーが少なかったので，改めて家庭教育が何を目的にしているのか確認し，キーワードを整理した。特に，「家庭教育支援」と「子育て支援」では目的が異なることについて確認した上で，事業のすみ分けや関わりを理解しようとした。そのほか，時代の流れに伴う変化や各市町の取組の手法や課題共有を行った。

主な意見

①家庭教育学級の立ち上げ事業が行われてきたが，時代の流れで父親学級も始まった。
②本来は親の学びが目的だが，講演会形式よりも子供とふれあって遊ぶ内容の事業にシフトしてきている。これは共働きで子供と関わる時間が少ない家庭が増えたことが背景に考えられる。
③子育て関連の事業も行われており，教育委員会だけでなく，子育て支援・福祉担当課等との連携も求められる。
④本来は家庭内の教育を行う親の学びの場を提供することを目的としている。子育てしやすい環境をつくることを目的としている「子育て支援」との違いや，切り離せない部分を確認できた。
⑤子育てサポーターは，託児サービスを行うだけでなく，保護者と交流する中で悩みや不安を聞き取り，その中から課題を見つけることができる。それを家庭教育支援に繋ぐことのできる可能性をもっている。新規の人材確保が進まず人材不足が課題となっている。

まとめ

グループワークを通して，家庭教育は少子化や核家族化，地域における地縁的つながりの希薄化等の時代の流れを受けながら，各市町で支援体制や取組の経過に差異があることがわかった。

事業を通じて家庭と地域や行政につながりが生じ，目的への理解を得ることで，その後の少年教育事業への参加が促進されるのではないかという考えに至った。家庭教育は少年教育や青年教育分野の入り口となる側面があることがわかり，分野ごとのつながりや家庭教育分野の重要性を改めて認識した。

さらに，「子育て支援」と「家庭教育支援」のすみ分けを確認し，「子育てサポーター」のように双方に共通する存在や事業もあることから，目的の精査や関係機関との連携が重要と感じた。親の学びにつなげるため，子育てサポーターを媒介としてニーズを把握しながら，魅力ある事業展開が求められる。また，課題となっている子育てサポーターの人材確保のため，関心や意欲のある地域の人をどのようにつないでいくかが重要である。

視 察 研 修

令和３年度
大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会　視察研修要項

１　目　的

生涯学習の充実や公民館運営の充実が求められる今日，昨年度，全国最優秀公民館を受賞した名取市那智が丘公民館を訪問することにより，管内の各市町における今後の生涯学習及び社会教育推進に役立てるとともに，社会教育主事としての資質の向上と豊かな発想力を培う。

２　期　日　　令和３年９月１７日（金）　１３時１５分～１５時４５分

３　視察先

名取市　那智が丘公民館

〒981-1244 名取市那智が丘三丁目１番地の５

４　主な視察内容

（１）公民館事業と今後の展望について

那智が丘公民館　地域連携推進員　木下（きした）　末也（すえや）　氏

（２）質疑応答

那智が丘公民館　館長　菱沼（ひしぬま）　弘一（こういち）　氏

那智が丘公民館　地域連携推進員　木下　末也　氏

（３）館内見学

５　参加者　大河原地区社会教育主事研究協議会会員及び関係職員　１３名

６　日　程

１３：１５　名取市那智が丘公民館　※現地集合

１３：３０　視察研修

１５：３０　研修終了

１５：４５　名取市那智が丘公民館　※現地解散

7　視察研修の概要

（1）　公民館事業と今後の展望について

①　那智が丘公民館について

那智が丘公民館は名取市で１１館目の公民館として平成１０年に開館した。公民館のすぐ裏は，高舘山自然観察路や熊野信仰布教の拠点となった熊野那智神社がある。また，周辺には散策しながら鑑賞することができる３７基の彫刻が点在しており，自然環境と歴史・文化に恵まれた地域に位置する。

まちづくりに関する活動が評価され，令和２年度第７３回優良公民館表彰において最優秀館を受賞した。

②　これまでの活動について

大きな事業として，６月に開催される町内対抗の球技大会，９月開催の小学校と共催である運動会，町民の各種サークルが参加する那智が丘公民館まつり，新年を祝う会などを実施している。

公民館講座については，平成２３年度以降は東日本大震災を経験したこともあり，ボランティアやエコに関する講座が開かれるようになった。

東日本大震災の際は，那智が丘地区でも道路の陥没，建物被害が発生し，公民館も避難所となり約１５０人が避難した。また，災害対策本部として，情報の集約拠点となった。

③　地域まちづくりチャレンジ講座について

平成２７年度に，公民館運営の転機となった地域まちづくりチャレンジ講座を開催した。中西百合氏をファシリテーターとして迎え，受講生１９名でスタート。４回の開催で議論を重ね，残したいもの，改善したいこと，作りたいことについて，達成に係る時間を視野に入れ，「犬の糞を減らそうプロジェクト」,「子供たちのための社会塾」,「那智が丘に商店を」,「那智が丘朝市開催に向けて」の４つのテーマを決定し，実行に移していった。

④　地域まちづくり実践事例について

まちづくりは「環境」・「観光」・「健康」・「交流」の４Ｋ，これに「教育」・「共用」・「共存」・「共栄」を加えた８Ｋをキーワードに講座事業を展開していった。取り巻く環境，世の中の潮流，ヒト，モノ，カネのリソースのトライアングルの中で，公民館講座や地域団体が課題にチャレンジしてアウトプットをしていくというイメージで実施していった。

〔実践事例〕

・えにしの会

庭のお手入れや付き添い支援などをお手伝いする団体。令和２年１０月にＮＰＯ法人化した。

・虹色マカロン

影絵などで地域を盛り上げるボランティア団体。

・野菜市プロジェクト

毎月，第１第３金曜日の１３時３０分から１５時３０分まで，那智が丘４丁目けやき公園で，新鮮野菜などを販売する活動を実施。

・お茶しませんかの会

毎月，野菜市と同時開催。集会所でお茶やコーヒーを飲みながら楽しいひと時を過ごす活動を行っている。

・さくらプロジェクト

東日本大震災後の辛苦の中，春の桜が咲くのを待ち望む人たちに応えようと桜植樹を実施。これまでに植えた桜は２１０本（令和２年３月末時点）。

・災害に強いまちづくり活動

町内情報の発信方法について検討，実践し，第１ステップでは，テレビのデータ放送による那智が丘回覧板の実証実験を行った。現在，第２ステップに移行し，町内会ホームページ「那智が丘かわらばん」を運営。

・那智カタクリの里を育てる会

高舘山に自生するカタクリをたくさんの方に楽しんでいただくための活動を実施。４月上旬には，カタクリウィークを企画し，群生地には地権者のご理解ご協力を得て，名取市市制施行６０周年を記念する市民提案事業の採択を受け，手作り木道を整備した。

・那智が丘福寿会

地区内に３７基ある彫刻の修復，環境美化活動に取り組んでいる。

・那智が丘ウォークラリー倶楽部

ウォーキングを通じて，健康増進・地域の見守り・コミュニケーションを目的に，２か月に１回程度，近場のコースをウォーキングする活動を実施。

・落ち葉を腐葉土化する活動

公民館講座をきっかけに開始。町内一斉清掃で集めた落ち葉を温床枠に集めて腐葉土化し，希望者へ配付している。

・那智っこきょうだい塾

子どもたちの学習支援を行っている。

（２）質疑応答

１　公民館運営に関すること

Q．地域の方が公民館事業や講座に積極的に参加し，しっかりとした運営基盤を作ることができたということについて，どのような工夫をされたのでしょうか。

A．那智が丘地域は，平成２年，名取市北西部の高舘山を切り拓いてできた仙台市のベッドタウン的な新興住宅地です。この地には，全国各地から移り住み，タレント揃いと言われる人材の宝庫で，１，３００世帯，３，７００人が集うコンパクトなまちです。

まちづくりは手探りで始められ，その象徴と言えるのが団地開設間もない平成４年，「小学生の夏休みの思い出作りに」と始められた町内会主催の手作り夏祭りです。

公民館の活動は，この地域の持つ特性や，組織化され整然と運営されている町内会，夏祭りに集約される顔が見える住民間のつながり，多くの協力的な地域人材に後押しされ，公民館運営においても部会・実行委員会・公民館運営協力委員会（公運協）という３階層の段階的意思決定プロセスを踏む仕組みとなっており，地域住民の温かい協力を得て，四大事業（球技大会，運動会，公民館まつり，新春を祝う会）や講座が円滑に進められてきました。その結果，開館から２０年が経過した現在でも，公民館利用者数はほぼ右肩上がりに伸びてきています。

換言すれば，整然とした町内会運営，夏祭りをベースとした人のつながりなど，恵まれた地域環境と協力的な人材がいること，公民館自体も部会・実行委員会・公運協の意思決定プロセ

スを踏み，分かりやすい組織運営体制であること，地域と公民館職員との一体感があることが運営基盤の形成につながっていると考えられます。

Q．地域課題に対して，公民館職員も一丸となって取り組んでいると思いますが，どのようにして職員の理解・意識を統一しましたか。

A．職員の理解・意識を統一するため心がけたことは，「見える化」と「記録化（ドキュメント化）」です。文章で記述するだけでは直観性に欠け，理解に時間がかかります。そこで，図やグラフなどを駆使して，物事を単純化・イメージ化して分かりやすくします。このプロセスを踏むことで，物事の本質が見えてきます。見える化する資料を作成，共有，継承することが職員の理解・意識統一に役立つものと考えています。

見える化の具体例として，公運協委員の説明資料（活動の様子，報告）や，公民館の業務を図解説明した資料（「公民館を解剖する」という図），公民館まつりにおける公民館コーナー掲示資料などです。

地域課題は机上だけでは解決しません。実際に試してみる，一度で終わるのではなく継続する，そして課題を自分自身のこととして捉え，課題解決に向け地域の一員となって積極的に参加することが重要だと考えています。職員だからと言って一線を引いて他人事にしないで，地域の一員として一緒に参加し，見える化，記録化など職員の持っているスキルを活かして協力し，職員が必要とされるように取り組むことが大切だと考えています。

2　講座に関すること

Q．「地域まちづくりチャレンジ講座」をきっかけに，地域まちづくり活動が定着したとのことですが，講座をはじめるきっかけや成果について，教えてください。

A．地域まちづくりチャレンジ講座は，平成２７年度に開催しました。当時の高橋勇悦館長は，公民館の使命が「人生の豊かさを実感できる生涯学習」を実践することであり，そのきっかけとして，これからも住み続けたいまち「那智が丘」にするため，地域と多方面から向き合い，地域の抱える課題を見つけ，課題解決へ向けた活動を通して，地域力の向上を目指すことを目的に企画しました。

受講生の募集は，最初は一般募集としました。しかし，人数が集まらなかったため，地域のキーパーソン（町内会長，区長，民生・児童委員，まちづくり活動に関心を持っておられる方等）に個別に働きかけました。

結果として，一丁目～五丁目までバランスよく集まり，課題の共有，対策の設定について納得感が得られるメンバー構成につながりました。

地域まちづくりチャレンジ講座は学んでおしまいではなく，決めたテーマを実践する，行動に移すということが大事であり，そのことを全員で共有し実際に行動に移しました。その結果，地域まちづくり事例として実績が積まれ，現在では９事例になります。

このように，多くの事例を生み出し続けられるのは，このまちを住み良いまち，住み続けたいと思えるまちにしていきたいという強い意識と，行動に移す人材がいるということ，つまり地域の力の証であると言えると思います。

Ｑ．「地域・まちづくりチャレンジ講座」の世代別・参加者数を教えてください。

Ａ．受講生は一般募集のほか，町内会長や行政区長，民生・児童委員，まちづくりに関心を持っている方に参加を呼びかけ，１９名が集まりました。４０代が１名でそれ以外は６０代以上。男性１２名，女性は７名でした。

Ｑ．その時の内容や雰囲気について。

Ａ．議論の進め方，整理の仕方などを指導していただくため，ファシリテーターとして，中西百合先生に講師を依頼し，４回シリーズで開催。活発なグループ討議が行われ，笑顔を見せながらも真剣に議論を交わし，２軸思考などを使い取り組むテーマを検討しました。

更に，活動をアピールするためのポスター作りにも取り組み，ポスター講座を追加で開催しました。

Ｑ．まちづくり事例は講座に参加した人たちから「やりたい」という声があり実施したのでしょうか，公民館側が提案して話が進んだのでしょうか。

Ａ．まちづくり事例は，公民館側が提案したものではなく，参加した受講生が，このまちに残したいもの，改善したいこと，新たに作りたいことについて，達成に要する時間も視野に入れ，自分たちが取り組める４つのテーマに絞り込みました。「犬の糞を減らそうプロジェクト」，「子供たちのための社会塾」，「那智が丘に商店を」，「那智が丘朝市開催に向けて」です。

Ｑ．サークルや団体が主体となって活動するまで，公民館としてどのように働きかけましたか。

Ａ．公民館は，講座を企画し，学びから行動を起こすきっかけを作る役割を果たします。そして，まちづくり活動を見える化するため，キーワードを据えて方向性を示し，行動は「ＰＤＣＡサイクルエンジン」に見立ててモデル化し，共有しました。

キーワードの具体事例として新４Ｋ８Ｋ衛星放送時代を迎える時期に，４Ｋ８Ｋにあやかって頭文字にＫがつく環境・健康・観光・交流を意味する「４Ｋ」，今日行く（教育）ところは公民館，今日の用事（教養）は公民館と言ってもらえるように，更にこのまちに住み続けたい（共存），共に成長したい（共栄）を加えた「８Ｋ」をキーワードに据えて講座や事業を展開しました。

サークルや団体が活動を推進するにあたって課題となるのは，活動を紹介したり，参加者を募ったりする広報や情報発信です。そこで，公民館の持つ情報発信力が生きてきます。公民館だよりやホームページはもとより，市内の公民館情報連携を活用してサポートすることで，活動の後押しにつなげられます。

Ｑ．世代間交流講座で意識している点や工夫している点を教えてください。

Ａ．まず，現状を講座マップで確認しました。横軸に名取市のマナビィ派遣事業講師メニュー分類（※名取市生涯学習推進本部），縦軸を世代別（未就学児，小学生，中学生，成人一般，６０歳以上）　とし，計画した講座及び参加対象者をマッピングしました。その結果，ほとんどの講座が成人一般と６０歳以上が対象で，若年層を対象とする講座が少ないことが一目瞭然であり，多世代を対象とする講座の必要性を再認識しました。

世代間交流講座の具体例として，令和元年度に計画した４つの世代間交流講座を紹介します。

① 児童センターとの共催による幼児・児童・保護者と地域団体とのコラボ。那智が丘のボランティア団体「虹色マカロン」のブラックパネルシアター鑑賞を計画。（１０／１２台風のため中止）

② 健全育成会との共催による小学生と保護者を対象とする歴史体験講座を企画し，勾玉製作実施。（６／２３）

③ 中学生と福寿会（老人会）とのコラボによるアート再生プロジェクト活動を深化する講座を企画。（１０／１９，彫像制作者である大学教授を招き，地域内３７基の彫像への向き合い方を学習）

④ 大学生と地域との交流。尚絅学院大学ゼミ生と地域住民とで「芋煮会（１２／１１）」や「雪むろ体験（１／２９）」の企画・情報発信等を一緒に考える活動に参画。

Ｑ．大学（学術機関）とはどのように連携していますか。

Ａ．那智が丘地区の近隣に尚絅学院大学があります。尚絅学院大学は，名取市民大学講座を開設するなど，名取市や地域との連携に力を入れている大学でもあり，公民館活動に対しても協力的です。大学との連携事例を紹介します。

① 大学教授やゼミ生に公民館講座の講師を依頼。
例：安藤正樹教授とそのゼミ生等による伝統舞踊の学びと舞踊鑑賞。

② 大学教授やその講義を受講している学生が行っている調査研究の参画。
例：松田道雄教授と学生による地域まちづくり実践授業の参画。

③ 学生の卒業論文制作への協力。
例：地域住民へのアンケート調査実施にあたって，町内会等との橋渡し役として協力。

④ 大学教授の講義における一コマを担当。
例：松田道雄教授の講義による公民館活動の紹介，地域まちづくり活動の実践事例紹介

上記以外では，尚絅学院大学の教授を介して，他県の地域まちづくり団体との交流事例があります。例えば，山形県川西町の地域まちづくり活動や，舟形町の地域協議会との交流です。他地域のまちづくり活動を知り，那智が丘地域への情報展開に役立ちました。

Ｑ．若者に主体的に参加してもらうために必要なことはどんなことだと思いますか。

Ａ．若者に主体的に参加してもらうためにどうするか，公民館が抱える大きな課題です。いろいろ模索しているところですが，参加するきっかけを作るため世代間交流講座として中学生と大人とのコラボ講座や，働いている世代に興味を持って参加してもらうため土曜の夜に「大人の夜活講座」と称して日本酒や洋酒を学ぶ講座を実施しました。その結果，初めて公民館講座に参加したという方もおり，幅を広げるという点では効果があったと言えます。今後，一過性なもので終わらせることなく，持続・継続するため，工夫・アイデア出しが必要だと感じています。

　コロナ禍でヒントも生まれてきました。Zoom を活用したオンライン講座やソーシャルメディアを活用したネット利用型講座により，若年層が参加しやすい仕組みを作れると考えています。令和３年度には，モデルケースとしてオンライン講座を実施しました。内容は，名取市の姉妹都市である和歌山県新宮市教育委員会と那智が丘公民館をインターネットで結び，那智が丘のボランティア団体・虹色マカロンさんが演じる「影絵・名取老女物語」を新宮市の熊野歴史研究会メンバー１１名に Zoom 映像を介して鑑賞していただき，その後に那智が丘公民館ホールの参加者５１名と意見交換を行いました。オンライン講座を実施して感じたことは，那智が丘町内に限らず遠隔地との交流ができること，若年層世代の取り込みに有効であること，オンライン講座を契機にリアルな講座展開が可能であるということです。その具現化のためには，公民館としての知恵出し，公民館職員のＩＣＴスキル向上の重要性を再認識したところです。

Ｑ．コロナ禍でも講座を開催する際の，公民館利用，利用者の制限，開催状況等についてなど，工夫・留意点を教えてください。

Ａ．コロナ禍の公民館運営は，県や市の宣言・規制に沿って運営することが大前提です。従って，地域事業に即した現場レベルの工夫がより重要になります。那智が丘公民館では，前段に記載しましたようにコロナ禍の今だからこそできる講座として「Zoom を活用したオンライン講座」を開催し，今後のモデルケースとして検証しました。オンライン講座に必要な機材や運営ノウハウなど，沢山の課題が確認できました。この課題を一つ一つ解決することで，With コロナの講座運営ができると考えています。また，「ソーシャルメディアを活用したネット利用型講座」もその対策の一つです。バーチャルとリアルの融合がヒントになります。そのためには，公民館職員のＩＣＴ等のスキルアップが必要不可欠ですが，地域の有スキル者に協力をいただきながら連携して取り組むことで実現できると考えています。

３　地域課題，防災・減災，今後の展望に関すること

Ｑ．現時点での地域課題として抱える大きな問題をどのように捉えていますか。

Ａ．名取市の将来における少子高齢化の問題は他市町村ほどではありませんが，住宅団地である那智が丘地区は，他の住宅団地が抱える課題と同様，今後，急速に少子高齢化を迎えます。具

体的には，現在２４％の高齢化率が，１０年後には３５％になり，地区人口も，現在の３，７００人から３，５００人に減少するという課題があります。

Ｑ．防災・減災に係る事業の展開について教えてください。

Ａ．那智が丘地区では，市の指定避難所が令和元年度までは那智が丘公民館でしたが，土砂災害危険区域の指定を受けて，那智が丘小学校に変更になりました。また，現在はコロナ対策を行いながらの避難所開設が求められていることから，今年度公民館講座として，防災講座（避難時開設体験講座）を夏休み期間中に行いました。地域住民，教職員，市防災安全課，公民館の４者が連携してコロナ禍における有事の際の防災資機材の組み立てや収納体験，実際の避難場所となる教室や受付場所の確認，自家発電機稼働体験などを行いました。

来年度は，平成２７年度に作成した「那智が丘地区防災マニュアル」の更新時期になります。市防災安全課が主体となりますが，地域住民とワークショップ形式で具体的な有事の際のマニュアルを策定する予定です。

Ｑ．情報発信力向上としてデータ放送が挙げられていたが，どのような発信方法か，どのように活用していく予定でしょうか。

Ａ．平成２７年度，２８年度の那智が丘公民館の防災講座を契機に，高齢化社会における情報伝達の問題解決に向け，その一つの方策として「地上デジタルテレビのデータ放送を利用した地域情報の伝達」に取り組んではどうかという講師（東北工業大学・今西肇教授）からの提言を受け，那智が丘地区の町内会が準備委員会を立ち上げ実証実験を実施することになりました。

実証実験は，ＴＢＣ東北放送（１チャンネル）の協力を得て，データ放送コンテンツ内で那智が丘用のメニュー「那智が丘回覧板」を設けていただき，町内会情報やまちづくり情報，小中学校情報などを発信しました。町内の方は，自宅のテレビで「ｄ」ボタンを押すことで情報を見ることができ，パソコンや携帯電話の操作が苦手な方でも簡単に情報が得られることを体験しました。平成２９年３月１５日～９月３０日までの２００日間，情報の更新は１週間ごとに行い２９回，登録件数は３０４件，掲載期間の長いものも含め１週間平均の掲載件数は２６．３件でした。掲載情報は，テキストデータが主ですが，画像情報も４７件掲載しました。

実証実験終了後，全世帯を対象にアンケート調査を実施し，本格運用に移行するか，実験で終了するかを確認しました。結果は，本格運用に賛成する比率が約４割で過半数に達しなかったため，データ放送の本格運用は断念し，代替方法として，現在提供している那智が丘町内会が運営するホームページ「那智が丘かわらばん」を行うことになりました。

Ｑ．今後の展望・行う予定の事業等について，考え等があれば教えてください。

Ａ．那智が丘地区には，地域の生活支援活動団体「那智が丘えにしの会」という団体があります。高齢者の買い物支援や送迎支援，庭のお手入れなどちょっとした高齢者にとって困っていることを低料金でお手伝いしています。こういった地域の共助の部分に取り組む団体の活動支

援も必要と考えています。

地域住民の情報化の対応，特に高齢者のデジタルデバイド対策が大切だと考えます。国ではデジタル庁が新設され，国としても今後積極的に力を入れていく分野になると思われますが，スマホやパソコンといった情報機器を使いこなせれば，距離的課題や時間的課題等，解決することがたくさんあります。高齢者は，こういった分野を苦手とする方が多いため，公民館では，これらのスキルを習得できる機会の提供を今後も継続して行いたいと考えています。また，市民課と共催によりマイナンバーカードの講座（受付申請まで対応）をしたいと考えています。那智が丘地区は，市役所まで遠く，大きな距離的課題があることから，公民館を経由して住民票や戸籍の発行申請をされる方が多いのが現状です。近くのコンビニではいつでもすぐに住民票が取得できます。それ以外の活用も期待できるマイナンバーカードの普及が必要だと考えます。

Q．自身が思う社会教育の意義とは何か教えてください。また，地域課題に対して取り組む上で，大切だと思うことは何ですか。利用者の方，地域の方と接する際に大事にしていること，心に留めている言葉，座右の銘などがあれば教えてください。

A．公民館は究極のサービス業だと認識しています。地域住民の方すべてがお客様，「老婆心を心がけよ」ということを自分自身に言い聞かせ，これで十分と思わず，これでもかこれでもかという思いを常に持って対応するように心がけています。

地域課題に対しては，地域と一体感を持って取り組むことが大切だと認識しています。公民館職員が，上から目線と受け取られるような対応では決して地域から受け入れられません。立場やポジションを利用して地域を動かそうとしても，仮に１度は動いてくれるかもしれませんが長続きはしません。そのことを肝に銘じて対応することが大切だと考えています。

地域の方の声に対し，まずは聴く，そして共感する姿勢を持って対応することが大切だと考えています。そのためには，地域の一員として物事を捉え，泥臭くてもよいので地道に行動することだと思います。

Q．公民館がまちづくり事業をする際に，首長部局のまちづくり担当課との調整はどのようにしていますか。

A．まちづくりの主体は地域団体であり，公民館は公民館講座での活動のきっかけ作りや，団体の活動のサポートという形で入ることで調整しています。

新しいことやまちづくりを進めるには，何かをチャレンジをしていかないとなかなか難しいと思っています。チャレンジと言っても変わったことをするわけではなくて，みんな良かれと思って進もうとしたとき，現状の仕組みとか制度に合わない部分が出てくることがあります。それは素直に受け入れて合わせていきます。ただ，仕組みや制度があるからと言って一歩踏み出さないということでは，まちづくりを進めるのは難しいと思います。

Q．那智が丘地区では，公民館を通して不便を解消してほしいなどの住民からのニーズが頻繁に寄せられるのですか？

Ａ．頻繁にはありませんが，四半期に１回開催される，地区の５つの町内会合同の連絡協議会で意見が出され，公民館が頼まれて音頭をとって進めるということはあります。

Ｑ．施設内に掲示されている，実施した講座の経過についての資料はだいぶ詳しく記載されているようですが，これを作成したのは公民館職員ですか。また，事業終了後どれくらいの期間掲示しているのでしょうか。

Ａ．作成したのは公民館職員です。ただし，この資料は毎年１１月に行っている公民館まつり用として作成したものです。公民館まつりでは地域のサークルの皆さんが日ごろの成果を展示発表していますが，地域の方だけに発表させるのは良くない，公民館でも参加しようということで，それぞれの活動をパネル化してまちづくりコーナーをつくりました。年ごとに別のテーマで作っているものですので，毎年講座の資料をつくるというわけではないです。

参加者名簿

市町等の名称	参加者名
白石市教育委員会	佐藤　優磨
角田市教育委員会	渡邊　瑞希
蔵王町教育委員会	佐藤　洋一　　梶原　一貴
七ヶ宿町教育委員会	佐藤　深奈美
大河原町教育委員会	吾妻　晃次
村田町教育委員会	岡本　健志
柴田町教育委員会	髙橋　秀之
川崎町教育委員会	大宮　義之
丸森町教育委員会	渡邊　智哉
仙南地域広域行政事務組合教育委員会	佐々木　洋佑
大河原教育事務所	八島　信　　島貫　智博

那智が丘公民館にて

ま　と　め

ま と め

今年度は「大河原教育事務所管内社会教育６０年のあゆみ」が発刊されて１０年目である。この１０年間（平成２３年３月から令和３年３月まで）は災害に見舞われた激動の時代であった。平成２３年３月には東日本大震災が起こり，令和元年１０月には令和元年東日本台風で甚大な被害を受けた。こうした災害が起こった際には，社会教育施設としての公民館等が避難所の役割を大きく担った。

また，令和２年からは新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により，全国的に対面での講座やイベントが中止・制限されたことで，オンラインでの会議や講座などが急速に普及した。

今回の研修では，これまで１０年ごとに各市町等の社会教育の変遷がまとめられてきたことや，前述したとおり社会だけでなく社会教育にとっても大きな影響を受けた１０年間であったことから，テーマを「大河原教育事務所管内社会教育７０年のあゆみ」とし，各市町等における１０年間の社会教育の変遷についてまとめることとなった。さらに，先進地視察のほか，青少年教育・家庭教育・協働教育に焦点をあててグループワークを行い，理解を深めた。

【１０年間の各市町等の変遷】

まず，各市町等の１０年間に行われた社会教育事業について，主な事業の内容・実施期間を分野ごとにまとめることとなった。まとめてきた内容について分野ごとに共有を行ったところ，「名称を変更し継続している事業が多く内容自体の変化が少ない」，「ジュニア・リーダーや青年団等の人数が減少している」などの共通点があった。しかし，一方で各市町等によって目指す姿や方法・課題が異なるため，全体の総括として深く掘り下げた考察を行うのは難しいという結論に至った。そこで，今回はそれぞれの市町等で分野ごとに考察を行い，さらに後世の担当者がこの報告書を読んだ際に事業の目的・内容が参考になるようにまとめることとなった。また，全体の総括として考察は行わないことにしたが，１０年間の変遷について気付きを得るため，青少年教育・協働教育・家庭教育についてグループワークを行った。社会教育の変遷について深く掘り下げるまではできなかったが，一人ひとりの考えや気付きを「見える化」したことにより，少年教育と青年教育は切り離すことのできない関係であり，さらに少年教育を充実させるには親の理解が必要，つまり家庭教育が重要な役割を果たしている，という教育分野間の繋がりについて再確認することができた。また，協働教育については家庭・学校・地域の他に放課後子ども教室が４つ目の柱としてあるのではないか，市町によって体制や進み具合・方法が全く異なるなどの気付きを得ることができた。グループワークを行ったことで，主担当ではない分野についての知識・考えを深めることができたとともに，工夫をしながら事業を組み立てていくことの重要性を共通認識として持つことができたと考える。

【視察研修】

令和２年度に第７３回優良公民館表彰「最優秀館」を受賞した名取市那智が丘公民館を訪問した。これまでの公民館事業のあゆみや特色ある活動事例について学び，環境，健康，観光，交流を意味する「４Ｋ」をキーワードに据えた講座や事業展開で生まれた地域まちづくり活動について知ることができた。そのほか，生涯学習拠点となる公民館の運営基盤の形成へと導いた具体的な手法や取組みについて知ることができた。

那智が丘地域は，平成２年に名取市北西部の高舘山を切り拓いてできた新興団地であり，ゼロから

まちづくりがスタートした地域である。様々な特色ある事業を展開し，公民館施設についても，ゴム壁や施設の綺麗さなど，住民が抵抗感なく公民館に集える工夫が見られた。

そのなかで，整然とした町内会運営や恵まれた地域環境と協力的な人材がいること，公民館が部会，実行委員会，公民館運営協力委員会の意思決定プロセスを踏み，分かりやすい組織運営体制であること，地域と公民館職員との一体感があることが運営基盤の形成につながっている。そのなかで，平成２７年度から「地域・まちづくりチャレンジ講座」を開設し，毎年地域まちづくりにつながるテーマを選び実践している。講座は学んでおしまいではなく，決めたテーマを実践する，行動に移すということが重要である。そのことを参加者全員で共有し，現在では講座がきっかけで始まった地域まちづくり事例は９事例に達している。まさに，那智が丘公民館は地域一体の住民参加型公民館であるということを今回の視察研修で学んだ。

地域課題に対して，公民館職員も一丸となって取り組み，職員の理解・意識を統一するため，「見える化」と「記録化」を行った。物事を単純化，イメージ化して分かりやすくし，物事の本質を見極め，内部の情報を職員間で共有し，学びを講座にうまく転用し，学ぶだけで終わらせないといった職員の地域課題に対する取り組みへの熱意や，住民への働きかけがあるからこそ，今日の那智が丘地域のコミュニティ形の大きな要因の一つである。自主的・自発的な学びによる「人づくり」，課題を共有して支え合える「つながりづくり」，そしてこの「人づくり」「つながりづくり」の過程を通して，住民の地域課題への当事者意識を持ち，課題解決に持続的に取り組もうとする「地域づくり」につながっているということを改めて今回の研修で学ぶことができた。

また，今回の事例では地域住民である木下氏がキーパーソンとなり住民に周知を行うなど，キーパーソンの存在も「地域づくり」が成功した大きな要因の一つであると言えるだろう。

今回の視察研修で学んだ手法や取り組みをそれぞれの地域でそのまま取り入れることは難しいが，学んだことをそれぞれの地域に持ち帰り，自分の地域でできることを掘り下げ，どのようにして応用させるか考えていかなければならない。

【研修を通して】

今年度は，「大河原教育事務所管内社会教育７０年のあゆみ」というテーマで，１年間研修を進めてきた。研修報告書第３８号（平成２４年３月発行）で取りまとめた「６０年のあゆみ」以降，管内の社会教育行政が市町等においてどのように移り変わってきたのかを調査し，まとめることにした。

さらに，「青少年教育」「家庭教育」「協働教育」の３つの教育分野をテーマにグループワークを行い，各市町等でどのような取り組みが行われているのか，その内容からそれぞれ読み取れることなどを話し合った。その話し合いを通して，経過に差異がある分野や共通の課題があることなどが分かり，それぞれの分野は独立しているものではなく，分野ごとの繋がりがあることを改めて認識した。また，視察研修では，管内の各市町等や地域における今後の生涯学習及び社会教育推進において，ヒントとなるような取り組みや手法といった学びを得ることができた。

この研修報告書が，各市町等や地域のこれからの生涯学習・社会教育を考えるための一助となることができれば幸いである。

おわりに

お　わ　り　に

私は「調べる」ということが好きで，ウィキペディアを開くと読んでいたページから知らない言葉のリンクへ跳び，そのページのリンクからまた跳び…あっという間に数時間，なんていうことがたまにあります。

今年度の研修が始まる前，これまで「あゆみ」をまとめてきた節目の年であったことを知り，「各自がデータを収集し，研修委員会ではレイアウトやまとめ方を検討するのだろうか。基本は調べものを行うのか」と，安易にイメージをしていました。しかし，ただ調べてまとめるだけでは，一堂に会して対話を行う機会に意義を見出せないのではないか。そんな考えも頭の片隅にありつつ，研修に臨むこととなりました。

はじめは皆，どこまでの範囲のデータを集めるか，どのようなレイアウトにするのか，それだけでも試行錯誤を繰り返していました。しかし，研修を進めて行くうちに「持ち寄ったデータについて管内の状況を考察するべきではないか」「市町等での違いなどを検証するはどうか」といった意見が出てきました。これは，それぞれの研修委員が研修をより意義のあるものにしたいという熱意を持っているからこその意見だったのだと思います。時間が限られていたこともあり，今回は「青少年教育」，「家庭教育」，「協働教育」の３分野に限ったグループワークとなりましたが，再確認できたことや，発見できたことが多々あり，それぞれが実りのある学びの場になりました。また，私自身「対話による学び」がいかに充実したものか，改めて実感しました。

最後になりますが，新型コロナウイルスが猛威を振るい，一堂に会して研修を行うことがはばかられる時期もありました。しかし，こうして無事に研修報告書が発行できたのは，各市町等や研究協議会のみなさまのご理解・ご協力をはじめ，共に研修に取り組んでいただいた研修委員の皆様の熱意の賜物と存じます。この場をお借りして感謝を申し上げ，おわりの挨拶とさせていただきます。

令和４年３月

令和３年度大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会

研修副委員長　蔵王町社会教育主事　梶原　一貴

【大河原地区社会教育主事研究協議会会員】

白　石　市	＊佐藤　優磨			
角　田　市	水戸　優希	＊渡邊　瑞希		
蔵　王　町	☆佐藤　洋一	我妻　健太	○梶原一貴	
七ヶ宿町	小掠　政光	＊佐藤深奈美		
大河原町	◎吾妻　晃次			
村　田　町	＊岡本　健志			
柴　田　町	＊髙橋　秀之	澤井　兼一（R3.12 まで）		渡辺　　光
川　崎　町	◇佐藤伸一郎	＊大宮　義之		
丸　森　町	荒井　優作	＊渡邊　智哉		
仙南地域広域行政事務組合	＊佐々木　洋佑			
宮城県大河原教育事務所	八島　　信	＊島貫　智博		

☆協議会会長
◇協議会副会長
◎研修委員長
○研修副委員長
＊研修委員

【令和３年度　研修委員】

村田町　岡本　健志
七ヶ宿町　佐藤深奈美
柴田町　髙橋　秀之
研修副委員長　蔵王町　梶原　一貴
丸森町　渡邊　智哉
川崎町　大宮　義之
研修委員長　大河原町　吾妻　晃次
仙南広域　佐々木洋佑
研究協議会長　蔵王町　佐藤　洋一
白石市　佐藤　優磨
角田市　渡邊　瑞希
教育事務所　島貫　智博

研修報告書　第48号

大河原教育事務所管内
社会教育70年のあゆみ

令和４年３月３１日発行
編集／大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会
発行／大河原地区社会教育主事研究協議会
印刷／株式会社　津田印刷